

2016

入間市と東京家政大学との  
子育て支援に関する調査報告書



CommuLiC  
Community Liaison Center

東京家政大学  
地域連携推進センター

2016

入間市と東京家政大学との子育て支援  
に関する調査報告書



東京家政大学  
地域連携推進センター



## 刊行にあたって

東京家政大学地域連携推進センター所長

山本 和人

この調査研究報告書は、東京家政大学地域連携推進センターの平成 28 年度調査研究事業として行われた、『入間市の青少年が描く未来と地域社会アンケート調査』の結果について報告するものです。この調査研究は、地域社会における課題解決のための取り組みの一つとして、入間市（こども支援課）との共同研究プロジェクトとして実施されました。序章でも述べられますが、平成 27 年度中に事前準備の打ち合わせを開始し、平成 28 年度に入り調査研究委員会を組織し、調査計画の策定、調査票作成・実施・回収・分析・検討、報告書作成に至りました。調査計画策定にあたっては協定書を交わし、研究計画・内容については、本調査研究委員会代表である岩崎美智子委員長から東京家政大学研究倫理委員会に審査請求を行い、承認されています。

入間市では、地方創生関連 2 法ならびに国および県のビジョン・総合戦略を受け、『入間市まち・ひと・しごと創生総合戦略 2015▶2019 元気な子どもが育つまち』が、平成 28 年 3 月に策定されました。人口減少に歯止めをかけ、将来にわたって活力ある社会を維持していく戦略として、「働きやすいまちをつくる」「ずっと住みたいまちをつくる」「子どもの育ちを支える」「まちの魅力を活かす」という一連の目標と施策に対する取り組みが始まっています。そうした中、例えば、基本施策の一つである「若者の定住を推進する」を展開するために、必要な基礎資料が求められています。

さらにまた具体的などころでは、平成 27、28 年度に市民提案型協働事業の一つとして、「いるま子ども会議」を実施しています。小学校高学年の子どもたちが入間市について学び、今後の入間市について意見交換し、入間市長に提言書を提出するというものです。しかし、それより上の年齢層の若者たちがどのような考えや意識を持っているかを知ることが難しく、それをとらえる基礎資料が求められていました。

そのような基礎資料・データが求められる中で、入間市制五十周年を記念する本年度、東京家政大学と入間市との共同研究として調査に取り組むことができました。この結果については、行政関係者のみならず、広く入間市民の方々にも見て頂き、若者たちを知り、入間市の今後のあり方を考え、「総合戦略」に役立つものとしていただければ幸いです。

最後になりましたが、調査研究委員会委員長をはじめ、入間市こども支援課職員の方々等関係者の皆様、調査研究委員を受けて頂いた東京家政大学の先生方、事務局として関わったセンター職員に感謝申し上げますとともに、調査にご協力いただきました入間市民である青少年の皆様には、この場を借りて厚くお礼申し上げます。

平成 29 年 3 月 31 日



## 目 次

刊行にあたって	山本 和人	
序 章 研究の意図と方法	岩崎 美智子	1
第1章 回答者の基本的属性	佐藤 隆弘	5
第2章 現在の生活と自己について	佐藤 隆弘	17
第3章 子ども時代の経験と「養護性」	松本 なるみ	31
第4章 「自立」と悩み、家庭生活	岩崎 美智子	45
第5章 将来について	岩崎 美智子	57
第6章 入間市について	山本 和人	73
資料 問31「入間市にもっとよくなってほしいところ」(自由回答)の結果		89
付録 調査票「入間市の青少年が描く未来と地域社会アンケート」		103



## 序章 研究の意図と方法



## 序章 研究の意図と方法

岩崎 美智子

### はじめに

本プロジェクトは、入間市在住の若者たちの日々の生活と思い、将来の目標や結婚観、地域社会についての考えなどを質問紙調査によって明らかにすることを目的として、入間市こども支援課と東京家政大学地域連携推進センターとがおこなった共同研究である。

わが国では1990年の「1.57ショック」以来少子化が叫ばれて久しく、全国の自治体は、「子ども・子育て会議」の開催や子育て支援対策の推進、最近では子どもの食事や学習面も含めた生活支援対策に知恵をしばって取り組んでいる。しかし、自治体のおこなう子ども関連施策は、保育所の待機児童対策に代表されるように乳幼児・小学生とその保護者を対象としたものが多い反面、中学生や高校生、大学生や働いている青少年層への施策は手薄であると言われ、たとえ実施されていても関心を持たれることが少ないのが実情である。

そんななかで、「入間市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定や「いるま子ども会議」をはじめとする積極的な施策を展開している入間市と、東京家政大学地域連携推進センターとが共同で、青少年の「生の声」を聞く機会を得たことは、今後の政策策定の基礎資料となるだけでなく、研究面においても貴重な貢献になり得るものと期待される。

### 【研究の経過】

本研究プロジェクトは、以下のようなプロセスで進められた。

(実施年は、2016年～2017年である。「事前打ち合わせ」と4回の「委員会」の会場は、東京家政大学狭山キャンパス内の会議室である。)

1. 1月29日(金) 10時～11時 「事前打ち合わせ」(1回目)  
意見交換を経て、共同研究プロジェクトを実施する方向性を確認した。
2. 3月14日(月) 10時～12時 「事前打ち合わせ」(2回目)  
企画書をもとに、調査研究委員会を立ち上げることを決定。
3. 4月15日(金) 16時30分～18時30分 「第1回委員会」  
委員会構成、役割分担について検討。調査研究計画の策定。
4. 5月20日(金) 16時30分～18時30分 「第2回委員会」  
調査計画・作業工程、調査項目案について検討。
5. 6月14日(火) 研究計画・内容について、東京家政大学研究倫理委員会より承認を受ける。
6. 6月17日(金) 16時30分～19時00分 「第3回委員会」  
調査票の内容を確定。協定書案、今後の計画等について検討。
7. 7月15日(金) 調査票発送 ⇒ 8月15日(月) 調査票返送締切、回収。
8. 8月～10月 データ入力、集計、分析。
9. 11月17日(木) 16時30分～18時30分 「第4回委員会」  
調査結果について中間報告をおこなう。
10. 12月～1月 報告書執筆。

### 【調査の対象・方法】

- 1) 方法 郵送調査法
- 2) 対象 埼玉県入間市在住の15歳から20歳の男女2,000名。(2016年6月1日現在)
- 3) 配布数 1,997名(転出者3名)
- 4) 回収数 591票
- 5) 回収率 29.6%

### 【研究組織】

研究組織は、以下のとおりである。

#### 調査研究委員会

岩崎 美智子	東京家政大学家政学部児童学科	教授	委員長
松本 なるみ	東京家政大学家政学部児童学科	准教授	委員
佐藤 隆弘	東京家政大学家政学部児童学科	講師	
原嶋 裕子	入間市こども支援課	課長	
徳山 雅美	入間市こども支援課	主幹	
山本 和人	東京家政大学地域連携推進センター (東京家政大学人文学部教育福祉学科 教授)	所長	
織田 文代	東京家政大学地域連携推進センター	事務長	事務局
高田 幹也	東京家政大学地域連携推進センター	職員	

※所属順。職位等は、2017年3月現在のものである。

### 謝辞

本研究プロジェクト実施にあたっては、多くの方々からご教示・ご協力をいただき、お世話になりました。

まず、多岐にわたる細かな内容の質問紙調査に協力してくださった埼玉県入間市在住の青少年の皆様にお礼を申し上げます。「めんどろだな。答えるのをやめちゃおうかな」と思った方も多いでしょう。しかし、たくさんの方が回答した調査票を返送してくださいました。答えにくい質問にも誠実に答えていただき、自由記述欄にびっしりと意見を書いてくださった方もありました。

また、こども支援課をはじめとする入間市の皆様や東京家政大学の関係者は、お忙しい日々のなか、研究の意図を理解してお骨折りくださいました。記して、感謝申し上げます。

私たちは、入間市の若い人びとが、これからも希望を持ちながらそれぞれの世界で活躍されることを大いに期待しています。また、入間市と東京家政大学が、今後も多方面にわたって連携を深め、ともに発展できますように、皆様方のご理解とご協力を心よりお願い申し上げます。

## 第1章 回答者の基本的属性



## 第1章 回答者の基本的属性

佐藤 隆弘

この章では、今回の調査対象者のうち、回答があった青少年の基本的属性について分析する。有効回答数は590人であったが、質問によって未回答や重複回答、その他の回答ミスなどの欠損値があった。そこで、これらの回答を除いた上で以下に述べる分析を行った。なお、ここで取り上げる年齢や性別、学年などの基本的属性は、後の章においても、それぞれの質問の回答結果を分析する際に用いられる。

### 1. 回答者の年齢と性別

まず、回答者の年齢構成を見ていく。年齢別の回答者の比率は図1-1に示すとおりで、平均年齢は17.3歳 ( $SD=1.75$ ) であった。最も人数が多かったのは15歳の21.2% (125人) で、15~17歳が半数以上を占めている。なお、対象者は2016年6月1日現在の満年齢が15~20歳の者から選ばれており、質問では6月1日現在の満年齢を記入するように求めていたが、2名が21歳と回答していた。この2名は回答時の満年齢を記入したと考えられるため、20歳として集計した。ただし、同様の誤解をした回答者は、他の年齢の回答者の中にも含まれている可能性がある。

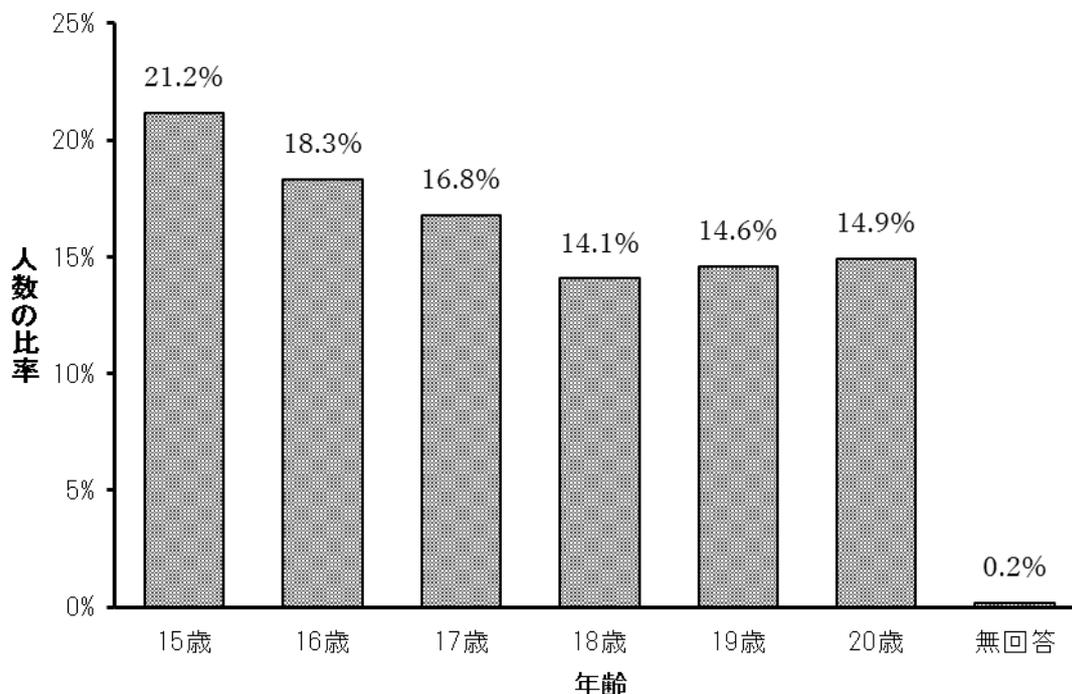


図1-1 回答者の年齢構成 (N=590)

次に、回答者の男女の人数を確認する。男女比は図 1-2 に示すように、男性が 46.9% (277 人) で、女性が 52.7% (311 人) であった。直接確率計算 (正確二項検定) を行ったところ、男女の人数に有意な差は見られなかった。また、年齢別の男女の人数は表 1-1 に示すとおりになった。年齢によって男女の比率に多少の違いが見られるが、 $\chi^2$  検定を行ったところ有意な偏りは見られなかった ( $\chi^2(5)=9.057, n.s.$ )。

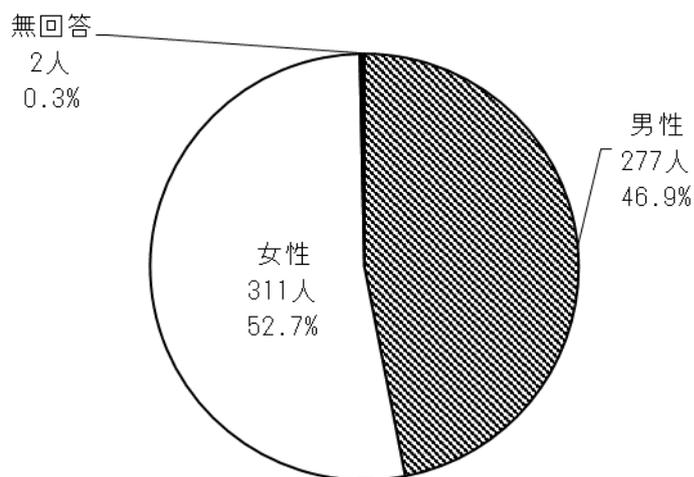


図 1-2 回答者の男女別人数と比率 (N=590)

表 1-1 回答者の年齢別の男女の人数

単位：人

年齢	男	女	無回答	合計
15歳	71	54	0	125
16歳	46	62	0	108
17歳	48	51	0	99
18歳	41	41	1	83
19歳	37	49	0	86
20歳	34	54	0	88
無回答	0	0	1	1
合計	277	311	2	590

参考までに、入間市の人口統計調査の結果から、平成 28 年 6 月 1 日現在の 15~20 歳人口の結果を引用して表 1-2 に示す。この結果をもとに計算したところ、今回の回答者の人数は、入間市居住の 15~20 歳全体の 6.7% に相当する。なお、男子は市内の同年齢男子全体の 6.2%、女子は同年齢女子の 7.1% に当たる。年齢別では、15 歳は 8.8%、16 歳は 7.6%、17 歳は 6.6%、18 歳は 5.5%、19 歳は 5.7%、そして 20 歳は 5.8% に相当する。

表 1-2 入間市の調査による年齢別・男女別人口

単位：人

年齢	男	女	合計
15歳	743	678	1,421
16歳	700	715	1,415
17歳	760	730	1,490
18歳	743	765	1,508
19歳	767	735	1,502
20歳	762	752	1,514
合計	4,475	4,375	8,850

注) 平成 28 年 6 月 1 日現在 引用元：入間市公式ホームページ「年齢別人口統計」

< <http://www.city.iruma.saitama.jp/toukei/jinko/16818/017413.html> >

## 2. 回答者の学年・職業

次に、回答者の学年や職業について見ていく。回答者が社会人である場合には、その職業および業種への回答を求め、回答者が学生の場合にはその校種と学年への回答を求めた。ただし、学年を答えたうちの数名が、職業分類に「パート・アルバイト」と重複して回答していた。これは、学校にいる時間以外で行っているアルバイトを職業と認識しての回答と考えられる。そこで、これらの回答者はすべて学生であると判断し、職業分類の「パート・アルバイト」から削除した。回答に関してこのような誤解があったことを考えると、質問文中に、「学生アルバイトは『仕事をしている方』には含まれない」といった説明が必要だったと思われる。

この他に、「高校 3 年生」を選択する一方で、職業の選択肢から「会社員」を、業種の選択肢から「運輸・通信業」を選択していた回答者が 1 人いた。この回答者については勤労学生である可能性があるとして判断された。そこでこれに関しては、学生と職業・業種の両方の回答数に含めて分析した。

上記のような整理を行い、未回答などの欠損値を除いたところ、学生以外の回答者は 43 人（全回答者の 7.3%）であった。これらの回答者の職業別人数の比率を図 1-3 に示す。この図に示すように、職業の回答は「会社員」が最も多く、働いている回答者のうちの 41.9%（18 人）であった。次いでほぼ同数で、「パート・アルバイト」の 39.5%（17 人）となった。このように、20 歳以下の若者で働いている者の多くが非正規職員であることがわかる。

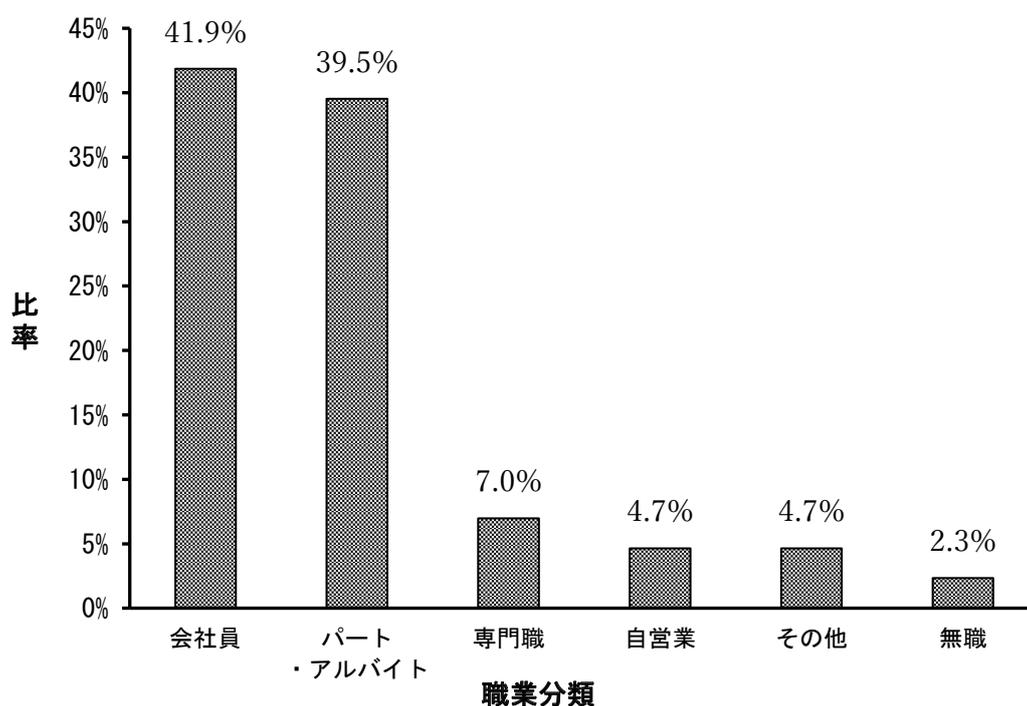


図 1-3 学生以外の回答者の職業 (N=43)

各職業の人数を年齢別に集計したところ、表 1-3 に示す結果となった。この表から、回答者のうち働いている者の多くは 18 歳以上であり、18 歳未満はほとんど学生であることがわかる。この点については、現在、高等学校への進学率が 97%を超えていること（文部科学省）を考えれば当然といえるだろう。また、男女別の職業の人数は表 1-4 に示すとおりで、職業による男女の人数に偏りは見られなかった ( $\chi^2(5)=1.173, n.s.$ )。

表 1-3 回答者の各職業の年齢別人数

	単位：人						合計
	15歳	16歳	17歳	18歳	19歳	20歳	
会社員	0	0	1	3	4	10	18
パート・アルバイト	0	1	1	3	6	6	17
専門職	0	0	0	0	0	3	3
自営業	0	0	0	0	1	1	2
その他	0	0	0	0	0	2	2
無職	0	0	0	0	1	0	1
合計	0	1	2	6	12	22	43

表 1-4 回答者の職業別の男女の人数

	単位：人		
	男	女	合計
会社員	7	11	18
パート・アルバイト	8	9	17
専門職	1	2	3
自営業	1	1	2
その他	1	1	2
無職	0	1	1
合計	18	25	43

図 1-4 は、学生以外の回答者 43 人のうち、「無職」と回答したものを除く 42 人の業種別人数の比率を示したものである。最も人数が多かったのは「サービス業」の 28.6% (12 人) で、次が「製造業」の 23.8% (10 人) であった。

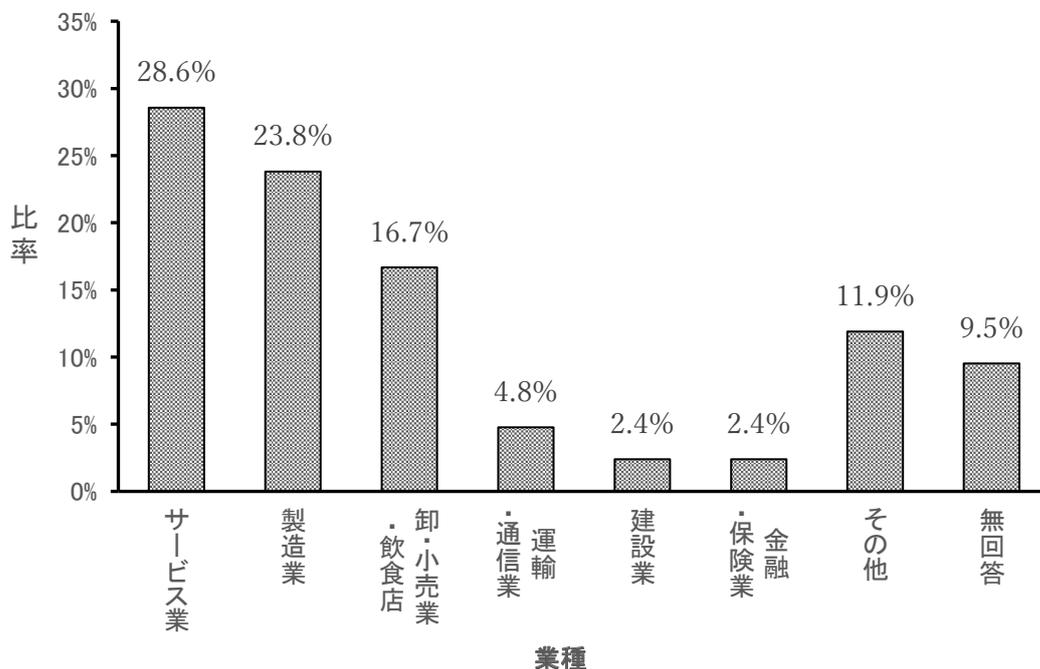


図 1-4 仕事をしている回答者の勤務先の業種 (N=42)

次に、学生回答者の校種と学年を見ていく。学生回答者（質問紙の学年に回答した者）は全員で 545 人であり、全回答者の 92.4% であった。学年別の人数比率は図 1-5 に示すとおりである。この図に示すように、最も人数が多かったのは高校 1 年生の 24.4% (133 人) であった。さらに、学生回答者のうち半数以上の 60.6% (330 人) が高校生であった。

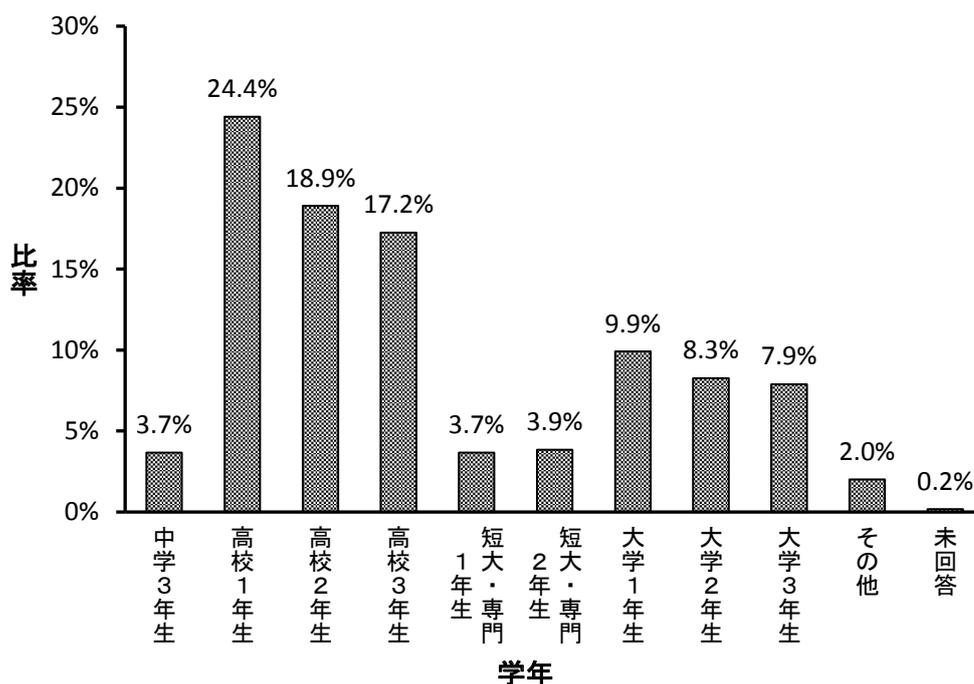


図 1-5 学生回答者の学年別の人数 (N=545)

各学年の回答者の人数を男女別に集計したところ、表 1-5 に示すとおりになった。直接確率計算（正確二項検定）の結果、短大・専門学校1年生と大学3年生では女子が有意に多く ( $p < .05$ , 両側検定)、短大・専門学校2年生も女子が多い傾向にあったが ( $p < .10$ , 両側検定)、それ以外は有意な差はなかった。短大・専門学校の回答者に女子が多い点については、短大進学者の多くが女子であることを反映してのことと思われる。

表 1-5 学生回答者の男女別人数

	単位：人			合計
	男	女	未回答	
中学3年	12	8	0	20
高校1年	73	60	0	133
高校2年	43	60	0	103
高校3年	48	46	0	94
短大・専門学校1年	5	15	0	20
短大・専門学校2年	6	15	0	21
大学1年	25	29	0	54
大学2年	24	21	0	45
大学3年	13	30	0	43
その他	8	2	1	11
未回答	-	-	1	1
合計	257	286	2	545

### 3. 家族構成

次に、回答者自身を含めた同居家族の人数に関する回答結果を分析する。図 1-6 に、同居家族の人数ごとの回答比率を示す。この結果からわかるように、同居人数は4人が最も多く、全体の 43.1% (254 人) であった。一方、6人以上という回答は全体の 10%に満たなかった。

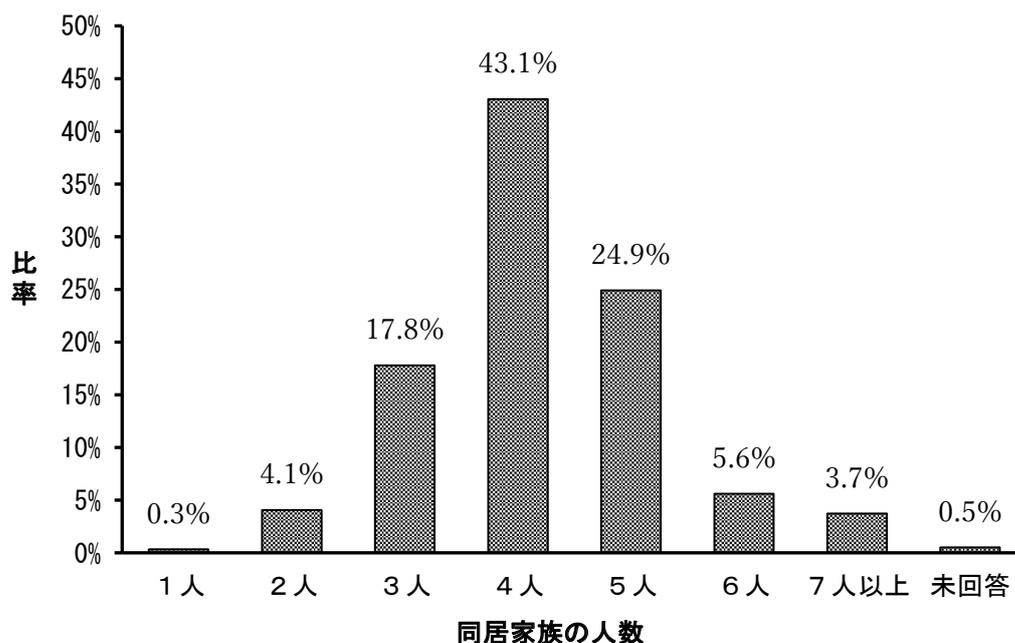


図 1-6 回答者の同居家族人数 (N=590)

続いて、祖父母との同居についての回答結果を図 1-7 に示す。祖父母との同居については「同居していない」という回答が 79.5% (469 人) であり、祖父母と同居している青少年は少数派であることがわかる。

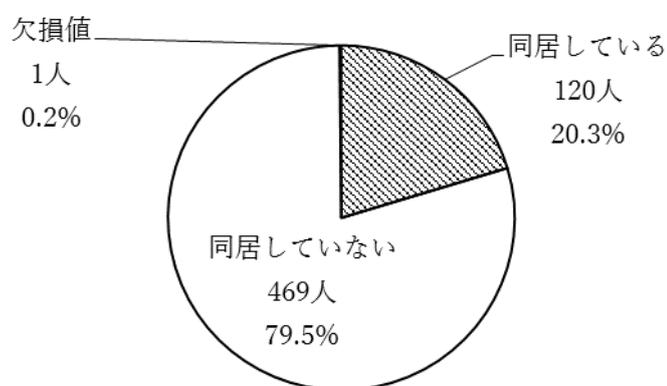


図 1-7 祖父母との同居についての回答結果 (N=590)

図 1-8 は、きょうだいの人数に関する質問の回答結果である。この質問では、同居・別居に関わらず回答者自身を含むきょうだいの人数を尋ねたが、回答者のうちの 40 人（全体の 6.8%）が「0 人」と回答していた。これらの回答者は、自分を含めない人数を答えた可能性が高い。そこで、この 40 人の回答については「1 人」と読み替えてデータを整理した。その結果、きょうだいは「2 人」という回答が 49.2%（290 人）と最も多かった。ただし、1 人以上と答えた回答者の中にも自分を人数に含めていないケースがあると考えられる。また、別居のきょうだいを入れずに答えた可能性も考えられるだろう。このため、この集計結果はやや信頼性に欠けるものとなっている。

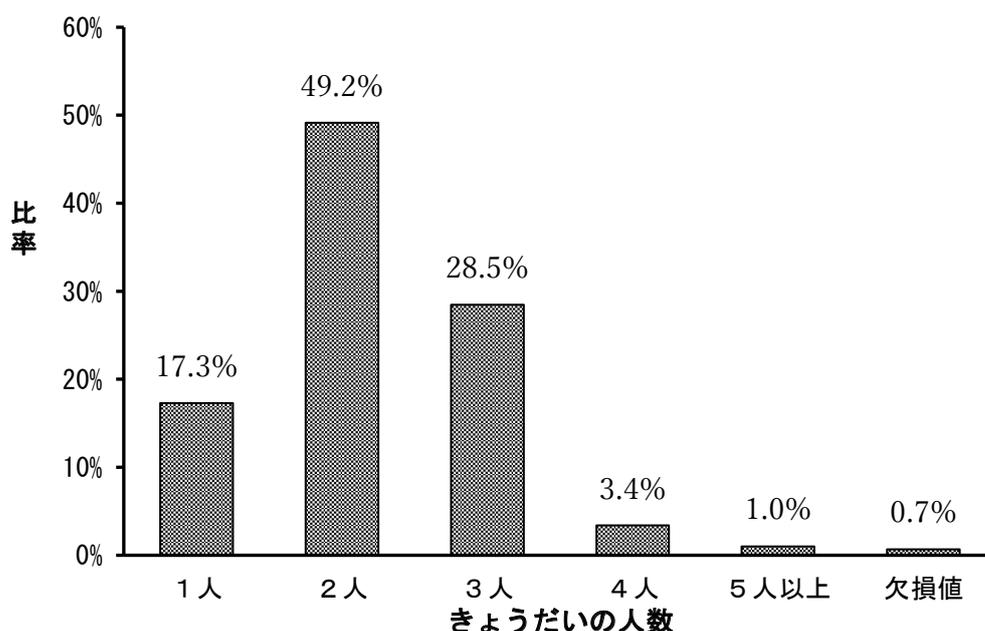


図 1-8 きょうだいの人数 (N=590)

以上、家族の人数と祖父母との同居、きょうだいの人数の回答結果を総合して考えると、入間市に住む青少年の家族構成としては、両親と子ども 2 人という核家族が最も多いことが伺える。今では、全国的に核家族は当たり前となっているが、本調査の結果からも、このことが再確認されることとなった。

#### 4. 居住地区による分析

ここで、回答者の居住地区について分析する。居住地区別の回答者数とその比率、ならびに、入間市の人口調査による各地区の人口（平成 28 年 6 月 1 日現在）を表 1-6 に示す。回答者数が多かったのは豊岡地区の 29.8%（176 人）と、藤沢地区の 29.7%（175 人）であった。地区別の回答者の比率を見ると、地区の人口比率と多少のずれがある。ただし、ここに示す地区人口は青少年のみの人数を示しているわけではない。このことも考えると、回答者の比率は、おおよそ地区の人口に対応していると考えてよいであろう。なお、地区別の居住者人口と比べてみると、回答者の割合は各地区の 0.3~0.5%（全体で 0.4%）に相当する。

表 1-6 居住地区別の回答者数と人口

	回答者数	回答者の比率	地区の人口	人口比率	地区人口に対する回答者の比率
豊岡	176	29.8%	54,735	36.65%	0.32%
東金子	64	10.8%	16,762	11.22%	0.38%
金子	46	7.8%	9,825	6.58%	0.47%
宮寺・二本木	35	5.9%	11,477	7.68%	0.30%
藤沢	175	29.7%	35,042	23.46%	0.50%
西武	75	12.7%	21,517	14.41%	0.35%
欠損値	19	3.2%	—	—	—
合計	590		149,358		0.40%

注) 地区別人口は、入間市の人口調査（平成 28 年 6 月 1 日現在）による。引用元：入間市公式ホームページ「地域別人口調査」<<http://www.city.iruma.saitama.jp/toukei/jinko/16818/017412.html>>

次に、地区によって家族形態の特徴に差があるかどうかを確認する。まず、同居家族の人数（図 1-6）を地区別に分けて見てみる。図 1-9 は、居住地区の回答がなかった 19 人を除いた上で、回答者の居住地区別の同居家族人数の比率を示したものである。この結果から、どの地区においても 4 人家族が最も多いことがわかる。また、地区ごとに回答者数が異なるため単純な比較はできないが、宮寺・二本木地区や金子地区は、同居家族 6 人以上の割合がそれぞれ 22.8%（8 人）と 17.4%（8 人）で、比較的高くなっている。

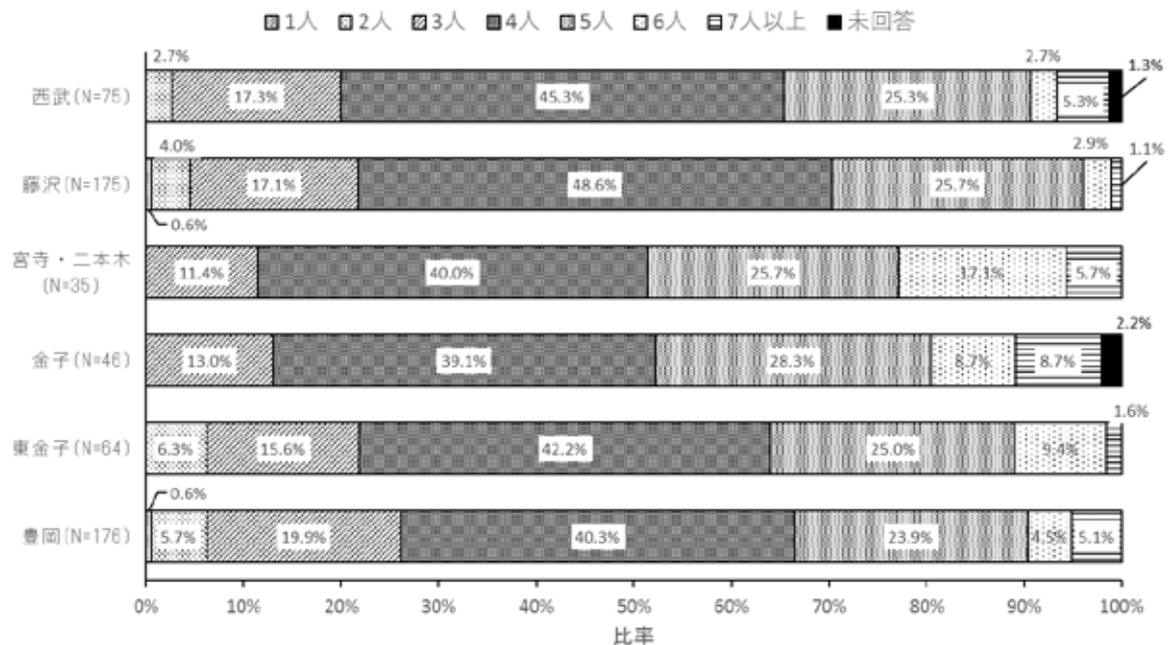


図 1-9 地区別の同居家族人数 (N=571)

続いて、地区ごとの祖父母との同居率を見てみる。表 1-7 は、祖父母との同居に関する回答を地区別に集計した結果である。この結果から、金子、宮寺・二本木の 2 地区は祖父母との同居率が比較的高いことがわかる。

このように地区別に家族形態を見てみると、人口が多い豊岡地区や藤沢地区に比べ、金子地区、宮寺・二本木地区の青少年の家庭は比較的同居人数が多く、祖父母との同居率も高い傾向にある。ただし、これらの地区については回答数が少ないため、偶然に上記の特徴に該当する家庭の青年が回答した可能性がある。

表 1-7 地区別に見た祖父母との同居に関する回答結果

	同居している	同居していない	欠損	合計	同居率
豊岡	33	143	0	176	18.8%
東金子	17	47	0	64	26.6%
金子	16	30	0	46	34.8%
宮寺・二本木	14	21	0	35	40.0%
藤沢	26	149	0	175	14.9%
西武	12	63	0	75	16.0%
欠損値	2	16	1	19	10.5%
総計	120	469	1	590	

## 参考文献

入間市 入間市の人口統計資料 平成 28 年 < <http://www.city.iruma.saitama.jp/toukei/jinko/16818/index.html> > (2017/1/6)

文部科学省 高等学校教育<[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/kaikaku/main8\\_a2.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kaikaku/main8_a2.htm)> (2016/12/26)

## 第2章 現在の生活と自己について



## 第2章 現在の生活と自己について

佐藤 隆弘

この章では、回答者の自己意識と、興味・関心について分析する。

### 1. 自己の捉え方

#### (1) 質問項目について

回答者の自己意識や友人との関係における態度を確かめるために、問6として、尺度による質問項目を用意した。質問項目は、表2-1に示すとおり全部で12問であった。これらの質問は、自己実現の態度、充実感、自尊感情、友人関係について問うものがそれぞれ3問ずつで構成されていた。各質問には、「あてはまる」、「ややあてはまる」、「どちらともいえない」、「あまりあてはまらない」、「あてはまらない」の5件から選択して回答するようになっていた。

これらの質問項目の作成にあたっては、平石（1990）の「自己肯定意識尺度」、山本・松井・山城（1982）の「自尊感情尺度」、岡田（1995）の「友人関係尺度」を参考にした。ただし本調査では、アンケート全体の質問数や他の質問項目との統一性、そして対象者へのわかりやすさなどを考慮して、これらの先行研究の項目の一部を参考にして、文章表現を変更して用いた。そのため、本調査の質問項目の得点を、上記の先行研究の尺度を使用した他の研究結果と直接比較することはできない。しかし、本調査の対象者の特徴を捉える上では特に問題ないと考える。

表2-1 質問項目と測定している内容

質問番号	質問文	測定している態度
1	目標を持っている	自己実現の態度
6	夢に向かって努力している	
12	やりたいことが見つからない（逆転項目）	
2	毎日の生活が楽しい	充実感
5	自分の好きなことができている	
10	充実していると感じる	
3	自分にはいろいろな素質がある	自尊感情
7	今の自分にだいたい満足している	
9	何かをする時には人並み程度にはできる	
4	友達と何でも話し合える	友人関係（ふれ合い）
8	友達を傷つけないように気を使う	友人関係（気遣い）
11	友達に冗談を言って笑わせたい	友人関係（群れ）

表 2-1 の質問項目のうち、「目標を持っている」、「夢に向かって努力している」、「やりたいことが見つからない」の3つは、回答者の自己実現の態度を測定する項目として用意された。これらの質問は、平石（1990）が作成した「自己肯定意識尺度」のうち、「自己実現的態度」に関する項目（「自分には目標というものがない」、「自分の夢をかなえようと意欲に燃えている」、「本当に自分のやりたいことが何なのか分からない」）を参考にしている。

「毎日の生活が楽しい」、「自分の好きなことができている」、「充実していると感じる」の3項目は、回答者の充実感を測定する質問項目である。これは、平石（1990）の「自己肯定意識尺度」の「充実感」に関する質問（「生活がすごく楽しいと感じる」、「自分の好きなことがやれていると思える」、「充実感を感じる」）を参考にした。

次に、「自分にはいろいろな素質がある」、「今の自分にだいたい満足している」、「何かをする時には人並み程度にはできる」の3項目であるが、これらは自尊感情を測定する項目として用意された。自尊感情とは自分自身についての評価的な感情のことで、これが高い人は自分を基本的に価値あるものと考え、積極的・意欲的に行為を積み重ね、満足を得て、自己にも他者にも受容的になるとされる。これらの3つの質問は、山本他（1982）の「自尊感情尺度」の質問（「色々な良い素質をもっている」、「だいたいにおいて、自分に満足している」、「物事を人並みには、うまくやれる」）を参考に作成した。

そして、友人関係を測定するための質問として、「友達と何でも話し合える」、「友達を傷つけないように気を使う」、「友達に冗談を言って笑わせたい」の3つの質問を用意した。これらは、岡田（1995）の「友人関係尺度」を参考にしている。岡田の尺度は、友人関係を「ふれあい回避」、「気遣い」、「群れ」の3つの側面に分けて測定できるようになっており、本調査ではこれらの3側面からそれぞれ1問ずつ（「心を打ち明ける」、「互いに傷つけないよう気をつかう」、「冗談を言って相手を笑わせる」）を参考にし、質問文を作成した。

以上が、問 6 の質問項目の概要である。以下において、これらの質問に対する回答結果を述べる。

## （2）回答者数の割合による分析

まず、表 2-1 に示した 12 問に対して、「あてはまる」から「あてはまらない」のそれぞれに回答した人数を分析する。なお、回答者 590 人のうち 1 人が、質問 6～12 の 7 問に対して未回答であった。

図 2-1 は、自己実現の態度に関する質問への回答結果を示している。「目標を持っている」という質問に対して、「あてはまる」または「ややあてはまる」と答えた回答者は 69.5%（410 人）で、回答者の多くが何らかの目標を持っていることがわかる。また、「夢に向かって努力をしている」に対して「あてはまる」、「ややあてはまる」と答えた回答者は 55.3%（326 人）であり、半数以上が夢に向かって何らかの行動を実践している。これに対して、「やりたいことが見つからない」という質問に「あてはまる」、「ややあてはまる」と答えた回答者は 28.6%（169 人）であった。これより、対象となる青少年の大半は何らかの目標を持っているが、3割弱はそういった目標を持てずにいることがわかる。

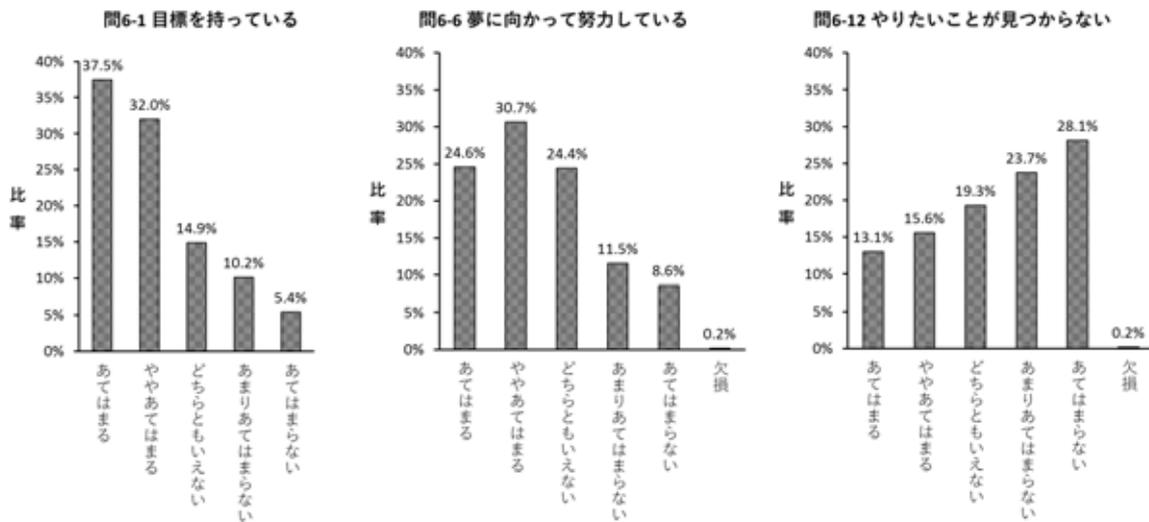


図 2-1 自己実現の態度に関する質問への回答結果 (N=590)

図 2-2 は、充実感に関する質問への回答結果を示している。それぞれの質問に対する回答を確認すると、「毎日の生活が楽しい」には 69.7% (411 人)、「自分の好きなことができている」には 73.6% (434 人)、「充実していると感じる」には 58.6% (346 人) が「あてはまる」か「ややあてはまる」と回答している。このように、回答した多くの青少年が日々の生活に対して充実感を持っていることが示された。

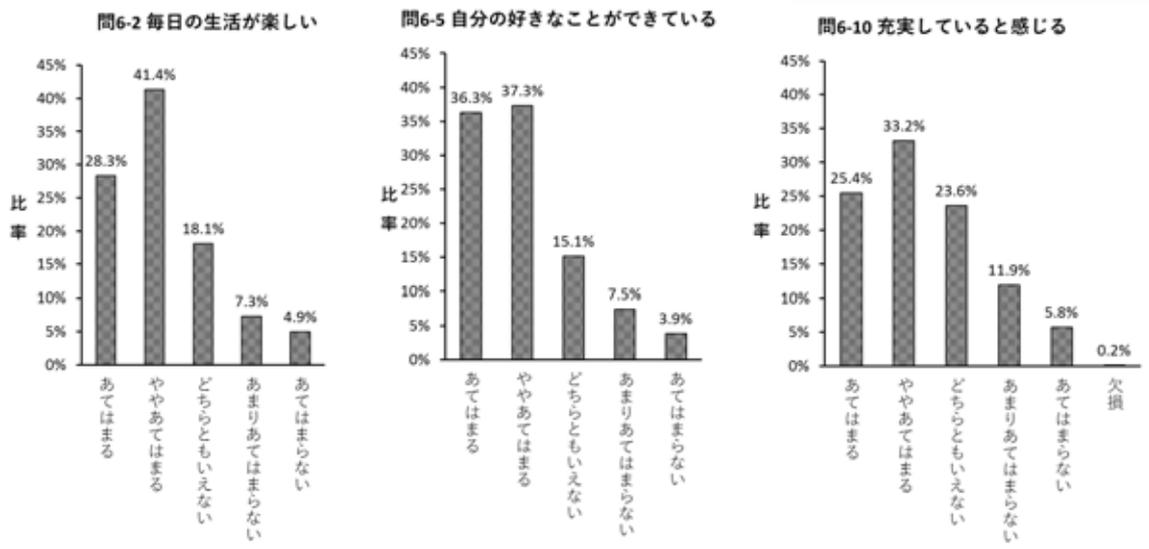


図 2-2 充実感に関する質問への回答結果 (N=590)

図 2-3 は、自尊感情に関する質問への回答結果を示している。「自分にはいろいろな素質がある」と「今の自分にだいたい満足している」の2つの質問については、「どちらともいえない」という回答が最も多く、「あてはまる」および「ややあてはまる」という回答と、「あまりあてはまらない」および「あてはまらない」の回答数が同程度となっている。一方、「何かをするときには人並み程度にはできる」の質問については、「あてはまる」と「ややあてはまる」の回答が合わせて 62.9% (371 人) で、半数を上回っている。これらの結果から、多くの回答者は必ずしも現在の自分について高い評価をしているわけではないが、一方で、物事を人並み程度にはできると考えているという傾向が見られる。

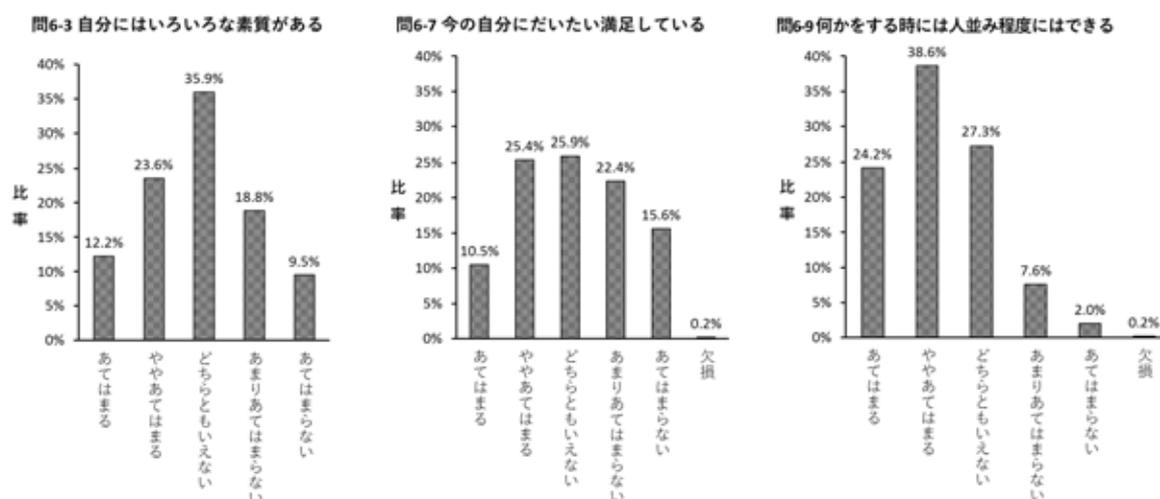


図 2-3 自尊感情に関する質問への回答結果 (N=590)

図 2-4 に、友人関係に関する質問の回答結果を示す。「友達に冗談を言って笑わせたい」という項目については、64.7% (382 人) が「あてはまる」や「ややあてはまる」と答えている。このことから、多くの青少年は友達と一緒に楽しみたいという傾向を持っていると言えるだろう。また、「友達と何でも話し合える」という質問には、59.2% (349 人) が「あてはまる」や「ややあてはまる」と回答した。これより、半数以上の回答者が、友人を重要な相談相手としている様子うかがえる。一方で、「友達を傷つけないように気を使う」に対して、82.9% (489 人) が「あてはまる」と「ややあてはまる」に回答している。このことから、多くの青少年が、友人に対する気遣いや優しさを考慮していることがうかがえる。

気遣いに対する回答に比べると、「何でも話し合える」の質問に対して「あてはまる」と答えた人数の割合はやや低くなっている。このことは、友人を傷つけないようにする気遣いが高いと同時に、友人に本音を話せないという回答者が一定数存在する可能性を示している。岡田 (1995) は今日の青少年の友人関係の特徴として、表面的な楽しさを求める一方で、互いに傷つくことを恐れ、深い関わりを避ける傾向があると指摘しているが、そのような傾向を持つ回答者がいた可能性がこの回答結果からも指摘される。

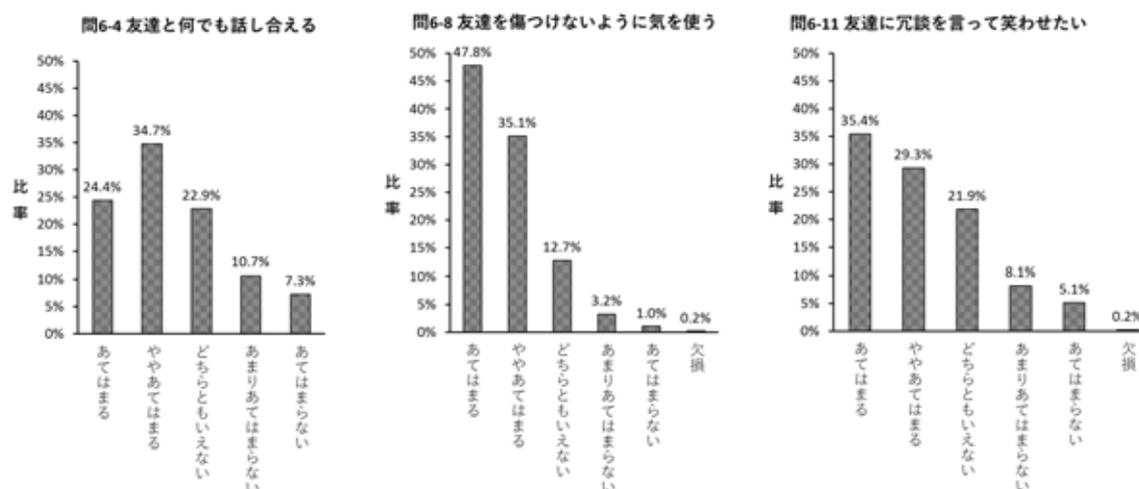


図2-4 友人関係に関する質問への回答結果 (N=590)

### (3) 項目得点による分析

次に、12項目の質問への回答を得点化して分析する。この得点は、質問紙に記載した選択肢番号（「あてはまる」の1から「あてはまらない」の5まで）と逆にした。すなわち、「あてはまる」を5点、「ややあてはまる」を4点、「どちらともいえない」を3点、「あまりあてはまらない」を2点、「あてはまらない」を1点とした。ただし、「やりたいことが見つからない」の1項目についてはこの得点を逆転し、やりたいことが見つからない傾向が高いほど得点が低くなるようにした。なお、この得点の分析には、すべての項目に答えている589人の結果を用いた。

表2-2に、回答者全体と男女別の各質問項目の平均得点を示す。

表2-2 全回答者と男女別の各項目の得点

質問項目	男(N=277)		女(N=310)		性別不明 (N=2)		全体(N=589)	
	平均	SD	平均	SD	平均	SD	平均	SD
目標を持っている	3.94	1.18	3.78	1.18	4.50	0.50	3.86	1.18
夢に向かって努力している	3.51	1.20	3.51	1.24	4.50	0.50	3.51	1.22
やりたいことが見つからない (逆転)	3.40	1.37	3.38	1.38	2.50	1.50	3.38	1.38
毎日の生活が楽しい	3.73	1.13	3.87	1.03	4.50	0.50	3.81	1.08
自分の好きなことができている	3.91	1.11	3.97	1.05	4.50	0.50	3.95	1.08
充実していると感じる	3.49	1.20	3.70	1.10	5.00	0.00	3.61	1.15
自分にはいろいろな素質がある	3.17	1.20	3.03	1.06	4.50	0.50	3.10	1.13
今の自分にだいたい満足している	2.79	1.23	3.04	1.22	4.50	0.50	2.93	1.23
何かをする時には人並み程度にはできる	3.75	1.02	3.75	0.93	4.50	0.50	3.76	0.97
友達と何でも話し合える	3.60	1.18	3.56	1.17	4.50	0.50	3.58	1.18
友達を傷つけないように気を使う	4.18	0.93	4.32	0.81	5.00	0.00	4.26	0.87
友達に冗談を言って笑わせたい	3.81	1.20	3.82	1.11	5.00	0.00	3.82	1.15

この表に示す男女の得点について  $t$  検定を行ったところ、「充実していると感じる」と「今の自分にだいたい満足している」に性別による有意差が見られた（いずれも  $p < .05$ ）。また、「友達を傷つけないように気を使う」については、男女間で得点の差が有意傾向であった（ $p < .10$ ）。これより、男子よりも女子のほうが充実感や自分への満足が高く、友人への気遣いがやや高いという傾向があると指摘できる。

次に、各項目の得点を年齢別に見ていく。図 2-5 に、自己実現の態度に関する 3 つの質問の年齢別平均得点を示す。図からは 17, 18 歳の得点が高いように見えるが、それぞれの質問について一元配置の分散分析を行ったところ、年齢による差が有意であったのは「目標を持っている」の 1 項目のみであった（ $p < .05$ ）。

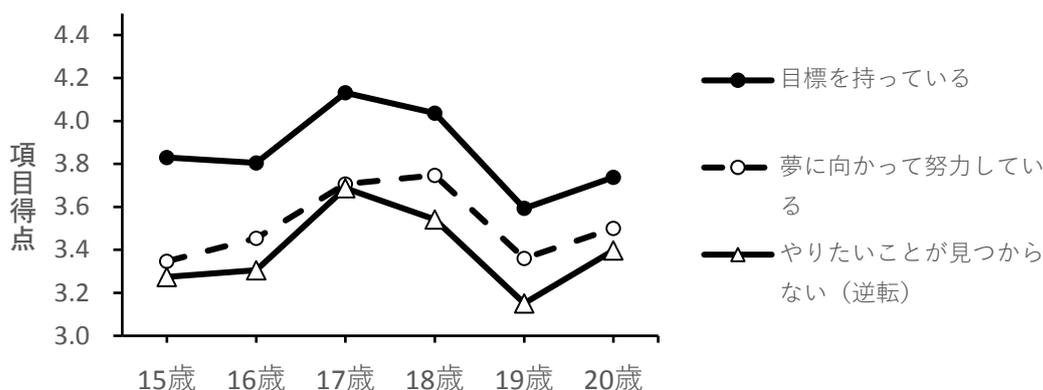


図 2-5 自己実現的態度に関する質問の年齢別得点

図 2-6 は、充実感に関する質問の年齢別平均得点を示している。この図を見ると、19, 20 歳の得点が低くなっている。質問項目ごとに一元配置の分散分析を行ったところ、3 問ともに年齢による差が 1 % 水準で有意であった。

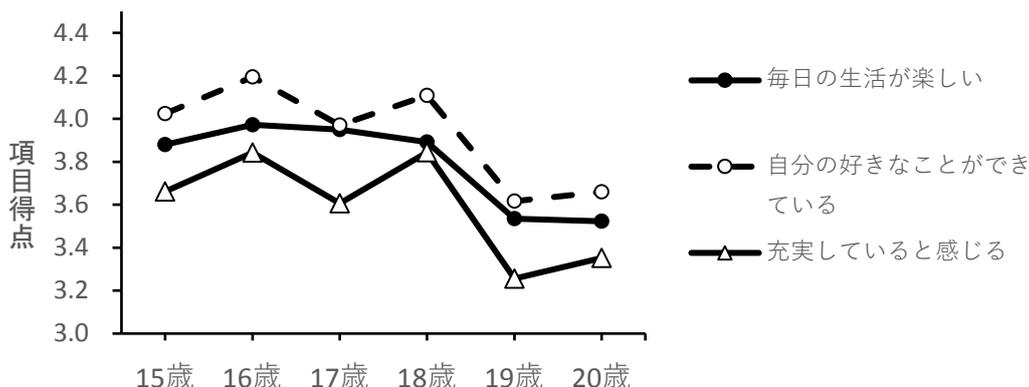


図 2-6 充実感に関する質問の年齢別得点

次に、自尊感情に関する質問の年齢別平均得点を図 2-7 に示す。3 問とも、19 歳の得点が比較的低い傾向が見られる。ただし、一元配置の分散分析を行ったところ、年齢による差が有意であったのは「何かをする時には人並み程度にはできる」の 1 項目のみであった ( $p < .05$ )。

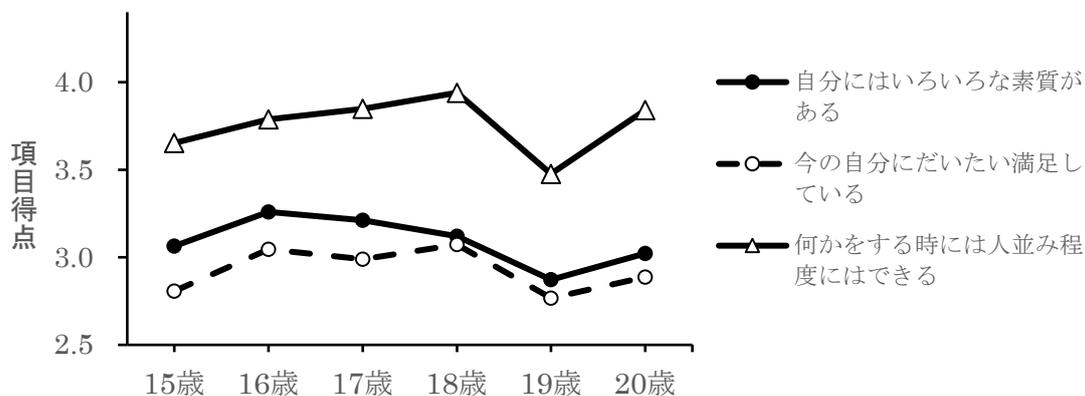


図 2-7 自尊感情に関する質問の年齢別得点

図 2-8 は、友人関係に関する質問の年齢別平均得点である。この図から、「友達と何でも話し合える」の得点が 19, 20 歳で低くなっていることがわかる。一元配置の分散分析を行ったところ、この項目得点の年齢による差は有意であった ( $p < .01$ )。

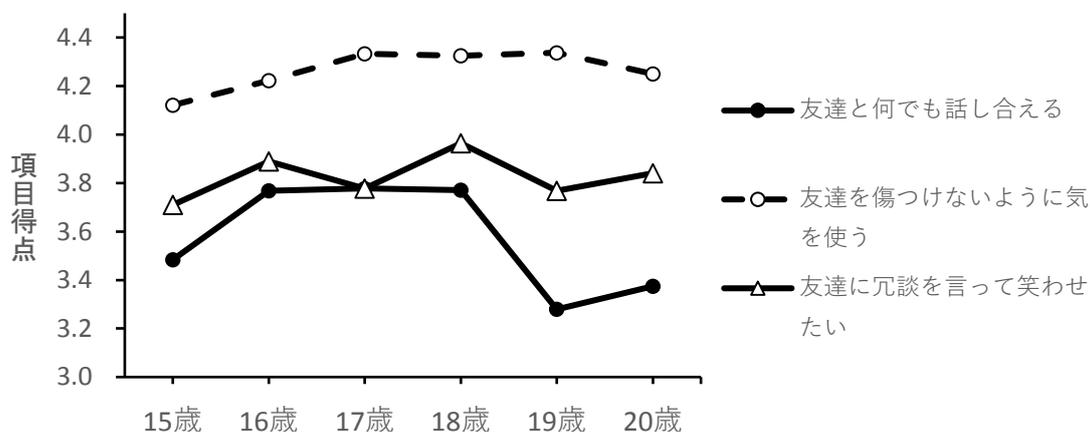


図 2-8 友人関係に関する質問の年齢別得点

以上の年齢別の分析の結果、全体的に 19 歳と 20 歳の得点が低めになっている傾向が示された。19 歳以降で自己実現や充実感の得点が低いことについては、17, 18 歳は受験といった明確な目標があるのに対し、その目標を達成した 19 歳以降では次の目標が見いだせていないためかもしれない。また、自尊感情については、19 歳以降に環境が大きく変わり、進学先、アルバイト先、就職先で何らかの失敗を経験するなどして自信を失いかけている人が増えた

ためという可能性もある。ただし、この理由を明らかにするためには、さらに詳しい調査を行う必要があるだろう。

## 2. 興味や関心について

続いて、回答者の興味や関心について分析する。回答者が関心を持っていることについて、あらかじめ用意した 19 項目の中から 3 項目までを選択してもらったところ、表 2-3 に示すような結果となった。この質問の有効回答数は、未回答が 1 件あったため 589 人であった。また、回答者 1 人あたりが選択した項目数は 2.95 で、ほとんどの回答者が 3 項目まで選択したと考えられる。

表 2-3 に示すように、最も多い回答は「音楽・映像（テレビ、映画、DVD など）」で、回答者の 47.4%（279 人）が選択していた。その次は「サブカルチャー（マンガ、アニメ、ゲーム）」で、回答者の 31.4%（185 人）が選択した。これに対して「読書（マンガを除く）」を選択したのは 9.7%（57 人）であり、好んで読書をする若者が少ないという結果となった。また、「自分の将来」という回答が 24.8%（146 人）と 3 位になっており、自分の将来のことを気にかけている青少年が多いことがうかがえる。

表 2-3 現在関心を持っているもの（3 つまで選択）

回答数はその項目を選んだ人数で、回答割合は各項目の回答数を回答者の人数（N=589）で割った割合である。

選択肢	回答数	回答割合
音楽・映像（テレビ、映画、DVD など）	279	47.4%
サブカルチャー（マンガ、アニメ、ゲーム）	185	31.4%
自分の将来	146	24.8%
スポーツ・運動・アウトドア	140	23.8%
ファッション・おしゃれ	140	23.8%
友人との関係	132	22.4%
サークル活動・部活動	112	19.0%
ショッピング	95	16.1%
学校の勉強	92	15.6%
恋愛・結婚	73	12.4%
ネット上の交流（Eメール、LINE、その他SNS）	65	11.0%
資格取得・受験	61	10.4%
読書（マンガを除く）	57	9.7%
仕事（アルバイトを含む）	52	8.8%
貯蓄	36	6.1%
政治・経済	20	3.4%
芸術（絵画など）	19	3.2%
家族との関係	18	3.1%
その他	17	2.9%

次に、回答者たちが趣味や好きなことに1日にどれくらいの時間をかけているのかについて分析する。この回答に対する有効回答数は540で、平均時間は3.12時間 ( $SD=2.597$ ) であった。回答時間の度数分布(図2-9)をみると、2時間から3時間の回答が多いことがわかる。なお、男女別では、男子が3.41時間、女子が2.85時間であり、男子の方がやや好きなことに費やす時間が長いという結果となった。

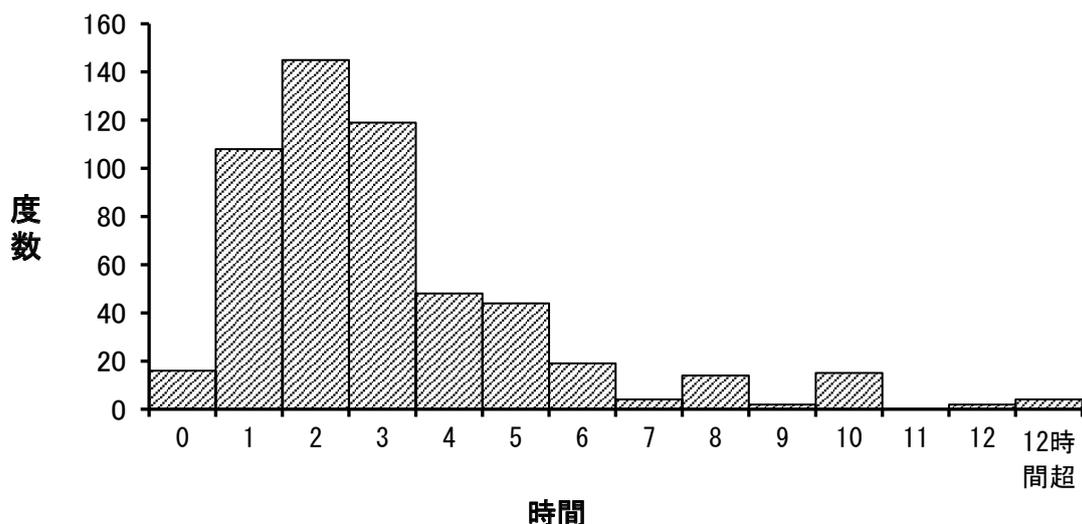


図2-9 趣味にかける時間の度数分布 (N=540)

横軸の数値は各級の上限を示す。例えば1は、0時間より長く1時間以内ということである。

### 3. 好きな場所・落ち着く場所

回答者にとって最も好きな場所・落ち着く場所を、あらかじめ用意した15項目の中から1つだけ選択してもらったところ、表2-4に示すような結果となった。最も多い回答は「自分の部屋(自分だけの個室)」の45.3%(267人)であった。自分の部屋がきょうだいと同室の場合(6.3%, 37人)と合わせると、自宅の自分の部屋が最も好き、あるいは落ち着くという回答が全体の半数程度であることがわかる。一方、自宅以外の場所を選択した回答者は全体の13.6%(80人)のみであった。

次に、上記の質問において最も好きな場所・落ち着く場所として選んだ理由を表2-5に示す。この質問は、質問紙に記載された11項目の中から、当てはまるものを全て選択してもらう複数回答によるものであった。なお、この結果については、先の「好きな場所・落ち着く場所」の質問に対する回答が「不明・未回答」であった3名を除く587人の回答をもとに分析した。結果、最も多い回答は「のんびりできるから」の46.8%(275人)で、次いで「ひとりになれるから」(29.5%, 173人)、「好きなことができるから」(25.6%, 150人)であった。このように、回答者の多くは、好きな場所・落ち着く場所として、1人でのんびりでき、好きなことができる場所をあげたことがわかる。

表 2-4 最も好きな場所・落ち着く場所

選択肢	回答数	比率
自分の部屋(自分だけの個室)	267	45.3%
リビングなど家族全員が集まる部屋	142	24.1%
自分の部屋(きょうだいなどと同室)	37	6.3%
自宅の風呂・トイレ	36	6.1%
公園など静かな戸外	19	3.2%
部活動の場所・部室	18	3.1%
学校の教室	17	2.9%
友だちの家	9	1.5%
カフェ、ファミレス、ファーストフード店など	5	0.8%
学校の図書館など教室以外の場所	4	0.7%
ゲームセンター、映画館	4	0.7%
公共の図書館・博物館など	3	0.5%
ネットカフェ、マンガ喫茶	1	0.2%
その他	25	4.2%
不明・未回答	3	0.5%
合計	590	

表 2-5 好きな場所・落ち着く場所を選んだ理由

回答数はその項目を選んだ人数で、回答割合は各項目の回答数を回答者の人数 (N=587) で割った割合である。

選択肢	回答数	回答割合
のんびりできるから	275	46.8%
ひとりになれるから	173	29.5%
好きなことができるから	150	25.6%
雰囲気がいいから	86	14.7%
静かだから	80	13.6%
嫌なことが忘れられるから	50	8.5%
親しい人(友達)がそばにいるから	47	8.0%
集中できるから	46	7.8%
にぎやかだから	37	6.3%
気分が盛り上がるから	18	3.1%
その他	32	5.5%

一見するとこの結果からは、青少年が外に出ることをそれほど好まないようにも見えるかもしれない。しかし、必ずしもそのような意味ではないと思われる。おそらくこれは、質問内容に「落ち着く場所」という言葉が入っていたことによって、自宅という回答が多くなったと考えるべきであろう。市内で青少年が好む場所を調べるためには、質問を複数回答形式にするか、自宅以外で好きな場所を問うようなものにする必要があったかもしれない。

#### 参考・引用文献

- 平石賢二 (1990). 青年期における自己意識の構造—自己確立感と自己拡散感からみた心理学的健康 教育心理学研究, 38, 320-329.
- 岡田 努 (1995). 現代大学生の友人関係と自己像・友人像に関する考察 教育心理学研究, 43, 354-363.
- 山本真理子・松井 豊・山城由紀子 (1982). 認知された自己の諸側面の構造 教育心理学研究, 30, 64-68.



### 第3章 子ども時代の経験と「養護性」



### 第3章 子ども時代の経験と「養護性」

松本 なるみ

この章では、「子ども時代の経験」と「養護性」に関する回答の集計結果を基に、自分の子ども時代をどのように捉えているのか、また、「養護性」の形成過程にあると考えられる若者の「養護性」意識について報告する<sup>1)</sup>。養護性の形成過程は、愛着理論に加え、多様な人々との相互作用や動植物との遊び・世話の経験などが関与し子ども時代から多様な経験を通して形成されていくと考えられている<sup>2)</sup>。そこで、まず、子ども時代について問10から問15までの回答結果を見ていく。

#### 1. 子ども時代の経験

##### (1) 子どものころは楽しかったか

入間市の若い人たちは、自分自身の子どもの時代を振り返りどのように捉えているのだろうか。尋ねた結果は(図3-1)のとおりである。回答の「とても楽しかった」44.9%、と「どちらかという楽しかった」34.7%、を合わせると79.6%で、約8割の人が自分の子ども時代を楽しかったと肯定的に捉えている。

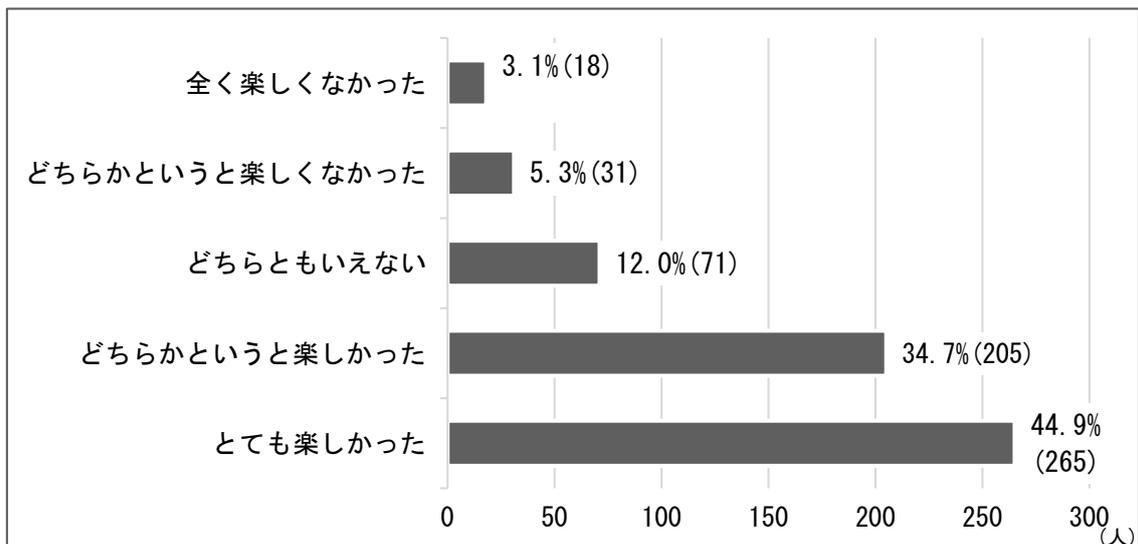


図3-1 子どもころは楽しかったか (N=590)

##### (2) よく遊んだ相手

子ども時代によく遊んでいた相手について尋ねたところ、(表3-1)の結果からわかるように「同年齢の同性の友達」に回答が集中し74.7%と高い比率を示している。次に、「姉」と「同世代の異性の友達」と続くが比率はいずれも3.4%で、ひと桁と低く、きょうだい(姉・兄・弟・妹)の数値を合計しても9.4%であることから、圧倒的に多いのは「同年齢の同性の友達」であることがわかった。この回答から、同年齢の同性という限定的な友達と遊ぶ子どもの姿が浮かび上がってくる。

表 3-1 よく遊んだ相手 (N=586)

	度数 (人)	比率 (%)
父	11	1.9
母	11	1.9
兄	14	2.4
姉	20	3.4
弟	9	1.5
妹	12	2.1
祖父	4	0.7
祖母	8	1.4
同年齢の同性の友達	438	74.7
同年齢の異性の友達	20	3.4
年上の子ども	13	2.2
年下の子ども	9	1.5
いとこ	6	1.0
その他	11	1.9

### (3) 年下の子どもと遊んだ経験

前出の問 11「よく遊んだ相手」の回答結果からは、子ども同士の異年齢の縦のつながりが強いとはいえない関係性がうかがえたが、年下の子どもと遊んだ経験 (図 3-2) を尋ねると、「たまに遊んだ」という回答が 44.6%で最も多く、頻度は高くはないが小さい子どもと遊んだ経験を有していることがわかる。次に、「あまり遊ばなかった」22.9%、「よく遊んだ」17.8%、が続いている。そして、ひと桁とはいえ、6.4%が年下の子どもと「全く遊んだことがない」と回答している。遊んだという記憶がないだけでも考えられるが、実際に遊んだ経験が全くないということであるならば、非常に限定的な環境で遊んでいた可能性が高いといえよう。

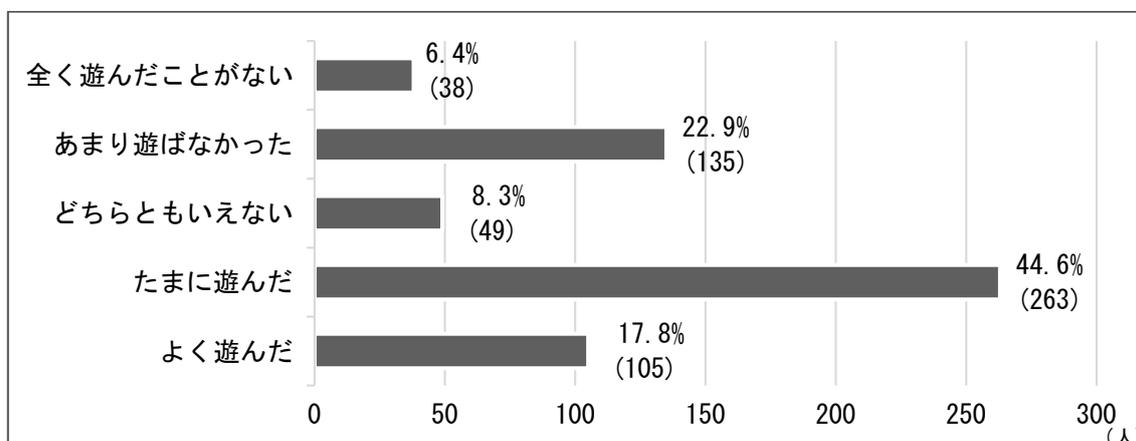


図 3-2 年下の子どもと遊んだか (N=590)

#### (4) よくしていた手伝い

子ども時代によくしていた手伝い（図 3-3）について回答の多い順に並べると、「食事の支度・かたづけ」27.5%、「そうじ」19.8%、「全くしなかった」18.3%、「食器洗い」14.7%、と続く。一方で「小さい子どもの世話」4.6%、「料理をする」4.2%、「洗濯」3.9%、などの手伝いの経験がひと桁で低いことがわかる。手伝いの内容から推察すると、手間がかかる手伝いやある程度技術を必要とする手伝いを経験している子どもが少ないということなのではないだろうか。

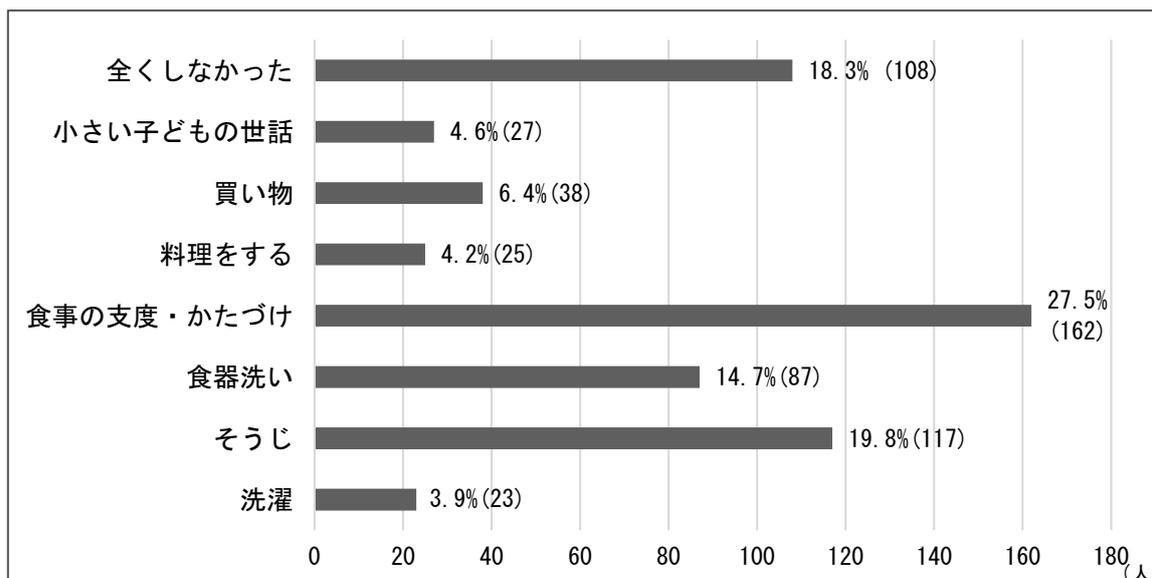


図 3-3 よくしていた手伝い (N=587)

#### (5) 手伝いの程度

問 13「よくしていた手伝い」についての質問に 108 名 (18.3%) が「全くしなかった」と回答していたが、問 14「手伝いの程度」(表 3-2) では 33 名 (5.6%) が空欄、欠損 1 名 (0.2%)、その他 61 名 (10.3%)、合計すると 95 名となり「全くしなかった」と回答した 108 名との整合性を欠く結果となった。回答の選択肢に不備があり有効な回答とはいえない結果が生じたことから、ここでは基礎統計の数値のみを示す。

表 3-2 手伝いの程度 (N=556)

	度数 (人)	割合 (%)
毎日	139	23.6
週 3 回	124	21.0
休日のみ	81	13.7
月に数回	112	19.0
年に数回	39	6.6
その他	61	10.3
0(欠損)	1	0.2
システム欠損値(空欄)	33	5.6

## (6) 動物・植物の世話

動物や植物の世話について「すすんで行っていたか」を尋ねた結果は(図3-4)のとおりである。「すすんでやっていた」「比較的良好にやっていた」を合わせると32.9%である。「あまりやらなかった」「ほとんどしなかった」の合計は40.7%で、すすんで動物や植物の世話をしていなかったという回答が若干上回っていた。一方で選択肢の回答では「どちらともいえない」が26.41%で最も多かった。動物・植物の世話の経験がない場合は「ほとんどしなかった」と回答すると考えられることから、何らかの世話はしていたと推測される。「どちらともいえない」の回答が最多であった要因として「すすんで」という表現に反応しての結果とも考えられる。回答者の年齢層がよく使う表現を借りるならば「ふつうに」世話をしていたということなのかもしれない。

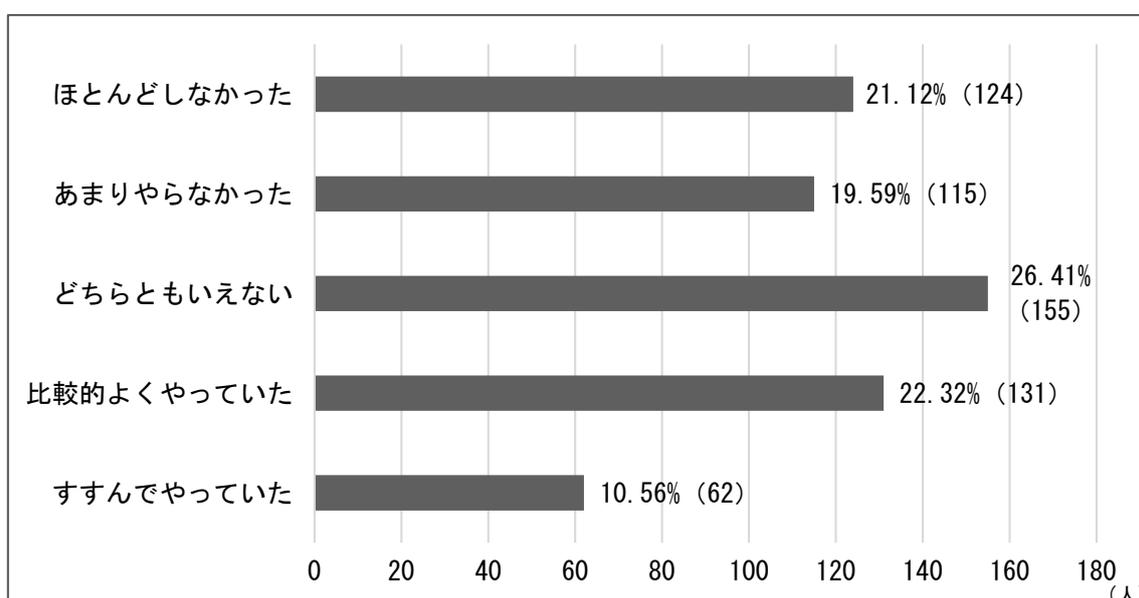


図3-4 動物・植物の世話 (N=587)

## 2. 養護性の形成

ここでは、問16 養護性意識に関する質問で、11個の小嶋による調査項目を用い、以下に示す4つの尺度に各質問を分類し検討していく<sup>3)</sup>。

### 尺度1「赤ちゃん・子どもへの関心」

- (1) 赤ちゃんや子どもが泣いていると何とかしてあげたいと思う
- (2) 小さい子どもに頼られるとうれしい
- (3) 子どもは面白い存在だと思う

### 尺度2「子どもと関わる自信」

- (4) 赤ちゃんや子どもの世話には自信がある
- (5) 子どもの楽しい遊び相手になれそうだと思う
- (6) 子どもの気持ちや言いたいことがわかると思う

### 尺度3「養護的役割の受容」

- (7) できれば親になって子育てをしたいと思う
- (8) 将来、うまく子育てできるか心配である
- (9) 将来、子どもに慕われる親になれると思う
- (10) 子育てが大変でも乗り越えられると思う

### 尺度4「多様な養護対象」

- (11) 病気の人や障害のある人、高齢の人などの役に立ちたいと思う

### (1) 尺度1「赤ちゃん・子どもへの関心」

「赤ちゃん・子どもへの関心」(図3-5)を示す回答では、「とてもそうだ」、「そうだ」、の合計の平均は72.1%で、赤ちゃんや子どもへの関心が高いことが示された。「赤ちゃん・子どもへの関心」の下位尺度をみると、75.2%が赤ちゃんや小さい子どもが泣いていると何とかしてあげたいと思ひ、72.8%は小さい子どもに頼られるとうれしいと感じていることがわかった。

近年、保育所の騒音が問題になるなど、小さい子どもへの理解が得られず迷惑な存在と捉えられることが起こる時代に頼もしい回答結果といえよう<sup>4)</sup>。しかし、赤ちゃんや子どもへの関心は高いがその思いを行動に移すことができるかという点、意識レベルと行動レベルは必ずしも合致しているとはいえず、そう簡単にはいかないようである。次の尺度2「子どもと関わる自信」の回答結果を見てみよう。

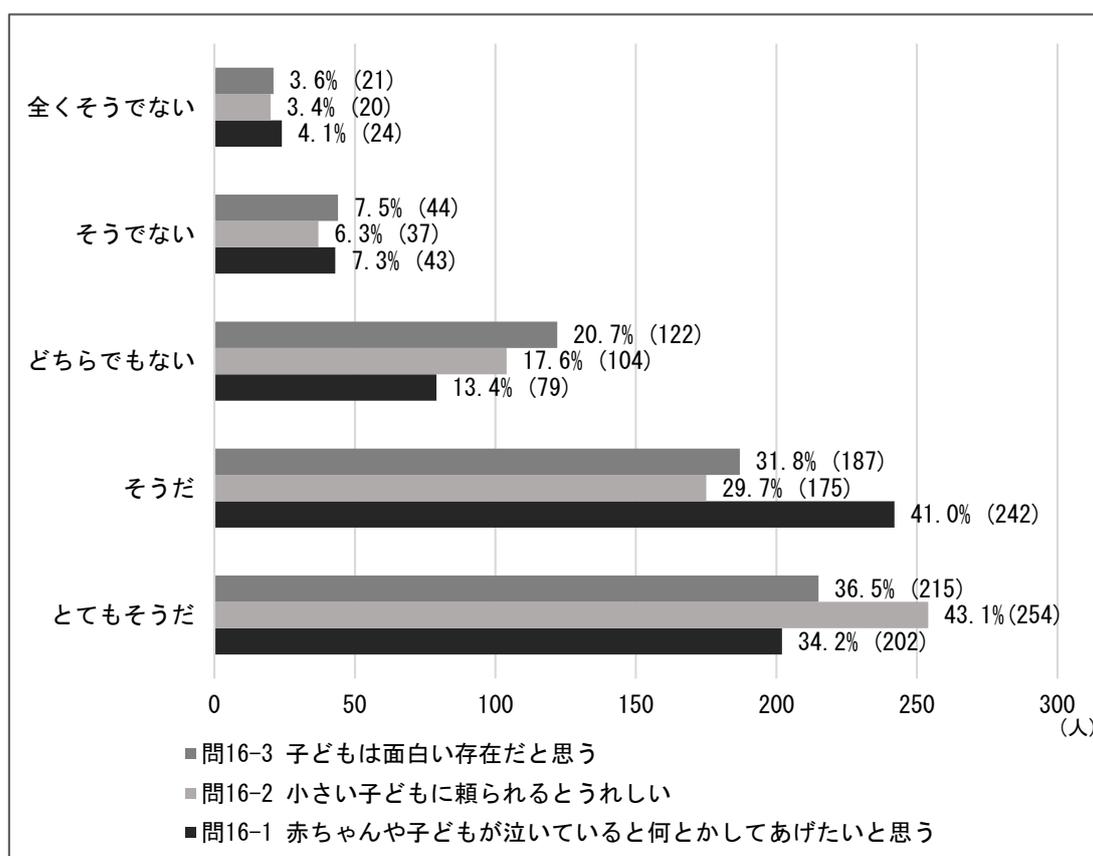


図3-5 赤ちゃん・子どもへの関心 (N=590、問16-3のみN=589)

## (2) 尺度2「子どもと関わる自信」

「子どもと関わる自信」(図3-6)に関する回答では、「とてもそうだ」、「そうだ」の合計の平均は35.1%であった。中でも、特に問16-4「赤ちゃんや子どもの世話には自信がある」では「とてもそうだ」、「そうだ」を合わせても31.6%である。これらの結果から言えることは、「赤ちゃん・子どもへの関心」は高いが、実際に「子どもと関わる自信」は低いということである。

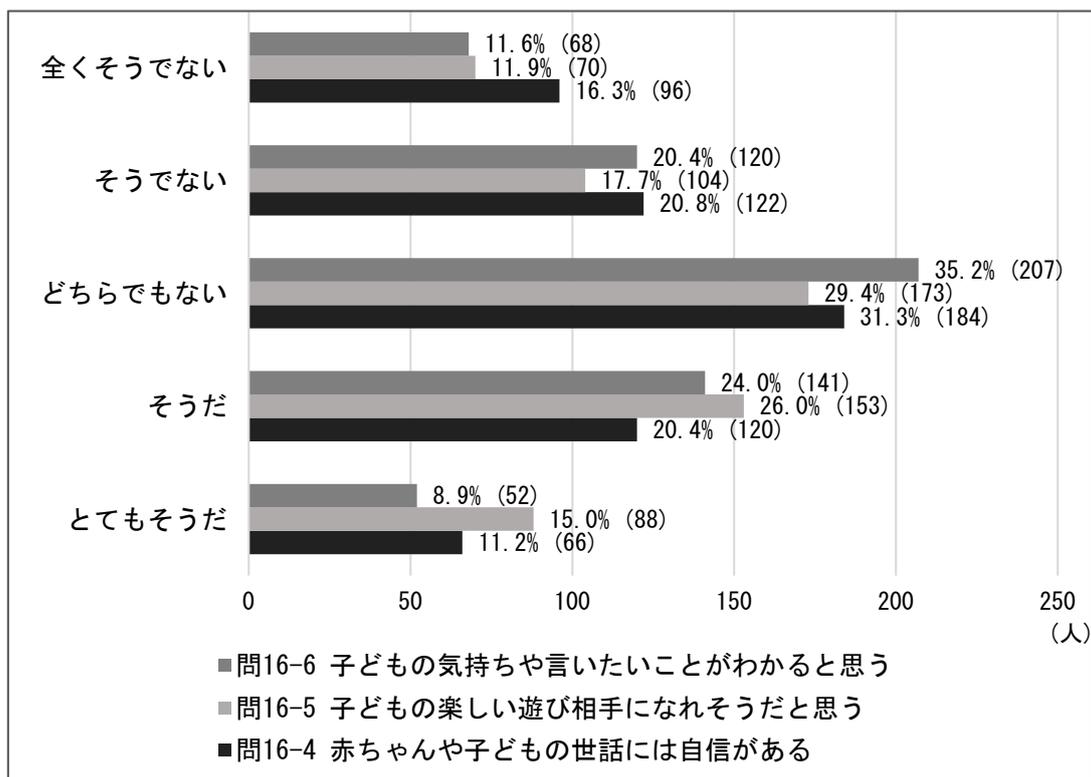


図3-6 子どもと関わる自信 (N=588)

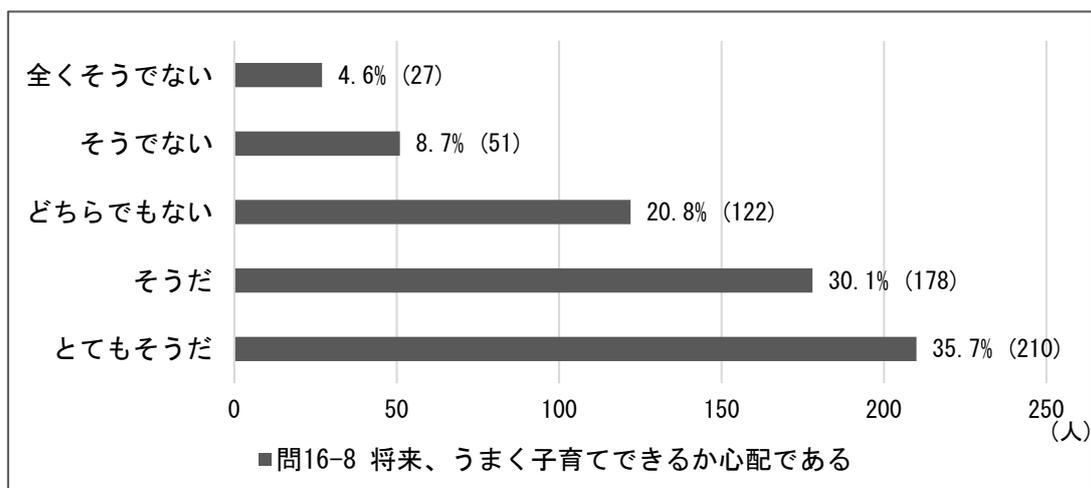


図3-7 子育てへの心配 (N=588)

### (3) 尺度3「養護的役割の受容」

尺度2の「子どもと関わる自信」が低いという結果と連動して尺度3「養護的役割の受容」では、「将来、うまく子育てできるか心配であるか」(図3-7) 尋ねると、「とてもそうだ」35.7%、が最も多く、「そうだ」と合わせると、65.8%、約7割近い人が将来の自分の子育てについて心配をしていることがわかった。

次に、「できれば親になって子育てをしたいか」(図3-8) について尋ねると、「とてもそうだ」、「そうだ」の回答の合計は60.1%で、半数を超える人が親になって子育てをしたいと考えていることが示された。しかし、「将来、子どもに慕われる親になれると思うか」を問うと、「とてもそうだ」、「そうだ」を合わせても32.4%と比率が低くなっている。

若者たちは、親になって子育てをしたいという思いを持っていることがわかったが、一方で、親になることへの心配や子育てへの自信のなさが表れている。

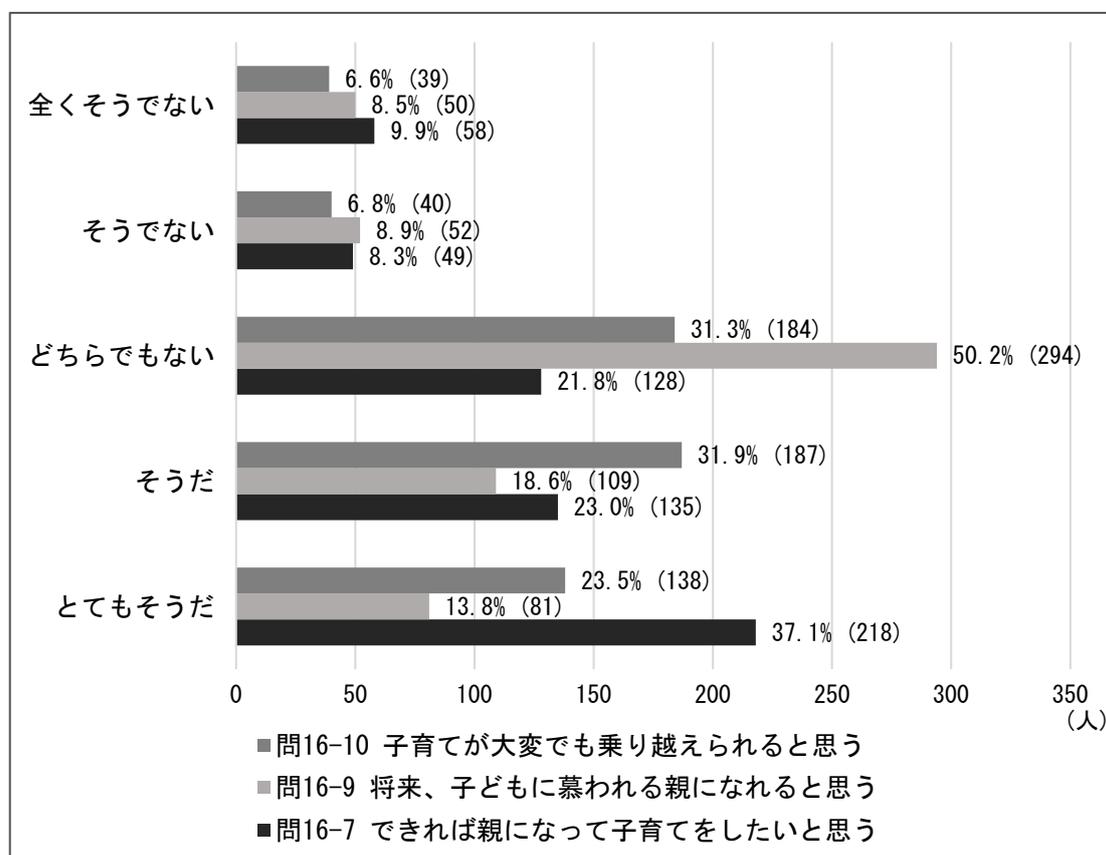


図3-8 養護的役割の受容 (N=588、問16-9のみ N=586)

### (4) 尺度4「多様な養護対象」

「多様な養護対象」(図3-9) では、「病気の人や障害のある人、高齢の人などの役に立ちたいと思うか」と尋ねた結果、「とてもそうだ」、「そうだ」の回答の合計は61.7%と、約6割の回答者に赤ちゃんや子どもだけに焦点化しない養護性意識の広がりが見られた。

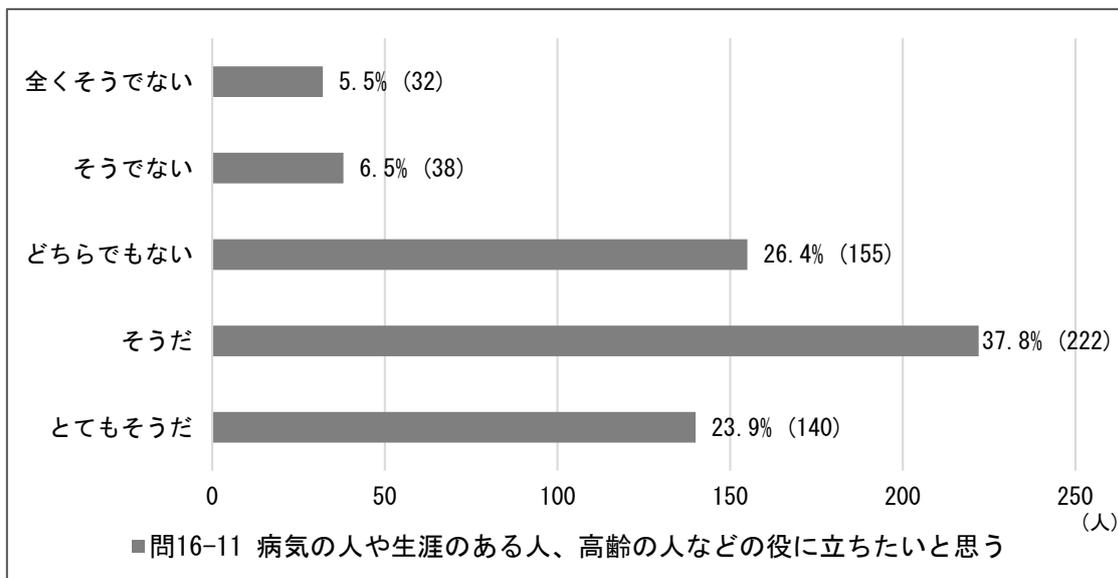


図 3-9 多様な養護対象 (N=587)

### 3. 「養護性」の形成と子ども時代の経験・地域との関係性

#### (1) 「養護性」の形成と子ども時代の経験

子ども時代の経験が、「養護性」の形成に与える影響を検討した結果、「年下の子ともと遊んだ経験」と養護性尺度1「赤ちゃんや子どもへの関心」( $r = .306, p < .01$ )、養護性尺度2「子どもと関わる自信」( $r = .356, p < .01$ )、において、値は低いながらも正の相関が認められた。

入間市では、親子支援課による「親になるための体験活動の充実施策」の一環として「中学生と乳幼児のふれあいの体験」を実施している。この事業は、中学校で育児体験学習を実施するもので、乳幼児健康診査においても中学生を受け入れ、乳幼児に触れ合う機会を提供している<sup>5)</sup>。このような学習経験における青年中期からの「親準備性」育成効果の有効性が認められている<sup>6)</sup>。また、子どもたちが乳幼児への理解を通して「育てられている時代に育てることを学ぶ」<sup>7)</sup>ことは「養護性」の形成においてもポジティブな影響を及ぼしているといえよう。

#### (2) 「養護性」の形成と地域

地域、ご近所との関係は、「養護性」の形成にどのような影響を与えているのだろうか。第6章の地域との関係性の質問項目(問32)との関連について検討した結果、「いざという時に頼れる地域の人がある」( $r = .300, p < .01$ )、「地域・ご近所との関係は良好である」( $r = .303, p < .01$ )、の2つの項目と、親となって子育てをしたいという養護性尺度3「養護的役割の受容」において、値は低いながらも正の相関が認められた。

子どもが家庭だけではなく地域社会の中で育つことや近隣の人々との良好な関係性を築くこと、他者への信頼感を育むこと、などが自分も親になって子育てをしたいという「養護性」の形成に影響を与えていると考えられる。

#### 4. 養護性の地域比較

入間市は、埼玉県西南部に位置し東は所沢市、西は飯能市と東京都青梅市、南は東京都西多摩郡瑞穂町、北は狭山市にそれぞれ接していることから、それぞれの地区ごとに特徴がみられる。そこで、各地区の特徴を示し「養護性」意識との関連について検討を試みることにした。入間市のホームページの資料による地区の概要は以下のとおりである<sup>8)</sup>。

- 「豊岡地区」 人口密度が最も高く公共施設が集積する市の中心的地区である。
- 「東金子地区」 狭山茶生産の中心地であるが、人口減少に転じている地域で工業用地、農地、住宅地が混在し工業団地もある。
- 「金子地区」 人口密度が最も低く市街化が進んでいない地域で地区内のほとんどが農地（茶畑）と樹林地である。
- 「宮寺・二本木地区」 人口密度は低い古い歴史があり江戸時代宿継場として栄えた地区である。アニメ映画「となりのトトロ」の舞台となった。
- 「藤沢地区」 2 番目に人口密度が高く都心への通勤の便もよいことから近年は大型集合住宅や大規模店舗が立ち並び、人口が急増した地区である。
- 「西武地区」 古くから繊維産業地帯として栄えた。昭和 50 年代終わりごろからニュータウンの分譲が始まり都市近郊のベッドタウンとして人口が増えたが、近年、少子高齢化の進んでいる地区でもある。

「養護性」意識に関する回答結果を地区ごとにグラフで示した。「養護性」意識の形成においては、様々な条件も複雑に関連していると考えられることから下記に示した結果だけで比較することは難しい。更なる検討が必要と考えられることから、ここでは単純集計の結果のみをグラフに示す。(図 3-10)

グラフの見方について説明すると、1「とてもそうだ」、2「そうだ」、3「どちらでもない」、4「そうでない」、5「全くそうでない」、という 5 択で回答を求めていることから、値が小さいほど肯定的な回答を示している。つまり、線グラフの位置が低い方が「とてもそうだ」と回答していることになる。

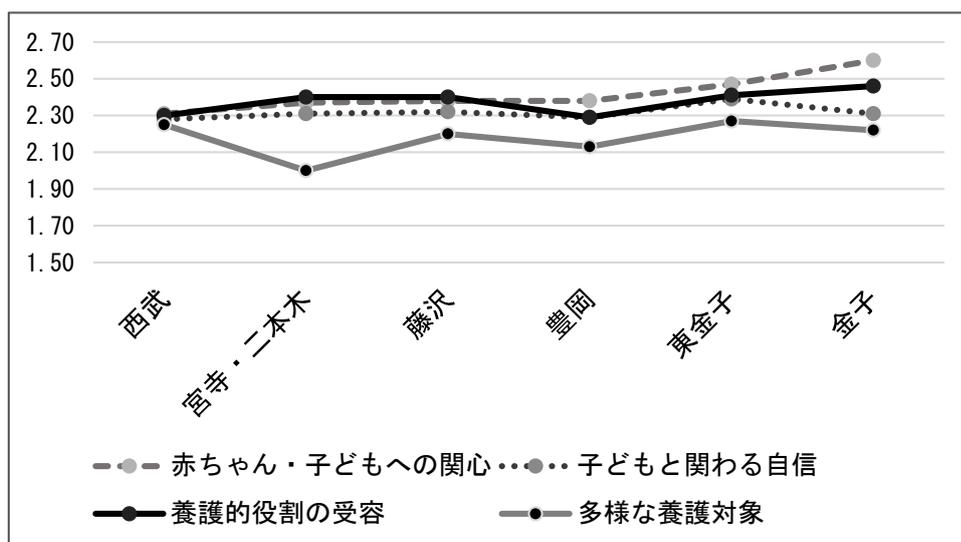


図 3-10 「養護性」意識と地区

グラフをみると6つの地域において大差は認められないが、養護性尺度4「多様な養護対象」において宮寺・二本木地区の回答者に、病気の人や障害のある人、高齢の人などの役に立ちたいという意識がやや高い傾向がみられた。宮寺・二本木地区は、歴史のある自然豊かな地区で、入間市市民意識調査によると、自治会の加入率や行事への参加率が最も高く、住民同士の交流も深い地区であることが報告されている<sup>9)</sup>。今回の調査では、祖父母との同居率が40.0%（全体の祖父母との同居率は20.3%）と最も高い地区であることがわかった。日常生活において身近に高齢者と関わる機会が多いことや地域の住民の交流が深いことなども「養護性」の形成に影響を与えていると考えられる。

## 注

- 1) 「養護性」とは、日本でその概念を提唱した小嶋によると「相手の健全な発達を促進するために用いられる共感性と技能」と定義されている。  
小嶋秀夫、1989、「養護性の発達とその意味」、小嶋秀夫（編）、『乳幼児の社会的世界』有斐閣選書、187-204
- 2) 世話をしてくれる養護的な表象モデルを自分の中に認めると同時に、世話をしている対象の中に世話している自分を重ねあわせるという現象「主体と対象の立場の共存」が起こり、その経験が関与し子どもの内面に「養護性」役割を形成していくというものである。  
小嶋秀夫、1991、「親となる過程の理解」、我妻堯・前原澄子編、『助産学講座3母性の心理学・社会学』、医学書院、79-111
- 3) 前掲書、(1991) 小嶋による「養護性」を測定する質問項目から計11項目を使用した。  
さらに、「養護性」の特徴は、成人期の子育てに限定されず幼少期から発達していく生涯発達の視点に立つものであり、養護性が向けられる対象は小さな子どもだけではなく、動植物、年上の者、大人も含まれることから、「病気や障害をもつ人、高齢の人などの役に立ちたい」の1項目を新たに加え、計11項目を選定した。
- 4) 2014年に東京都が都内62区市町村に保育所に関する調査を行ったところ2008年度以降、住民から騒音や子どもが邪魔などと苦情を受けたことがある自治体数は、合計42団体で、全体の7割程度を占めるという結果になったことが報告されている。
- 5) 入間市第二次次世代育成支援行動計画70頁(1)「親になるための体験活動の充実」育児体験学習では、入間市母子愛育会の協働事業として中学校からの依頼を受け、中学生に人形を使っての沐浴実習、妊婦体験ジャケットの着用による妊婦体験、助産師の講話、胎児の心音を聞くことなどの育児体験を学習することにより、親となるための準備や命の大切さを知る学習を行っている。
- 6) 伊藤は、「親性準備性」(伊藤は「親性準備性」を使用しているが「親準備性」ともよばれ、その使い方は研究者によって異なる)として、親となるための学習や教育の必要性について、青年中期からの育成効果の有効性を認め学習体験を充実させることを提案している。  
伊藤葉子、2006、『中・高生の親性準備性の発達と保育体験学習』、風間書房、26-28
- 7) 金田は、「親準備性」の育成について狭義の親教育を想像させることから、親になってもならなくても、すべての大人に不可欠な資質を「養護性」という言葉で表し、「育てら

れている時代に育てることを学ぶ」ことの重要性を説いている。

金田利子、2003、『育てられている時代に育てることを学ぶ』、新読書社、17-19

8) 入間市公式ホームページ 第1章「入間市の概要」4-6

[https://www.city.iruma.saitama.jp/dbps\\_data/\\_material\\_/localhost/100kikaku/300kikaku/fm/hakusho1.pdf](https://www.city.iruma.saitama.jp/dbps_data/_material_/localhost/100kikaku/300kikaku/fm/hakusho1.pdf) 2016年12月27日閲覧

9) 入間市企画部広報広聴課、2015、『第11回入間市市民意識調査報告書』、42-45



## 第4章 「自立」と悩み、家庭生活



## 第4章 「自立」と悩み、家庭生活

岩崎 美智子

本章では、若者にとって重要な課題のひとつである「自立」についてみていく。回答者たちが「自立」をどのようにとらえているのか、悩みや心配ごとはあるか、その際の相談相手は誰かについて検討し、家庭生活の満足度についても考察を加える。

### 1. 「自立」についての自己認識と、「自立」の概念

#### (1) 自分は「自立している」と思うか

「そう思う」と「どちらかというと思う」とを合わせると、29.0%の人が自分自身は自立していると考えている。しかし、70.5%の人は、「どちらかというと思わない」「そう思わない」と回答していることから、本調査の回答者は自立していないと考える人が大半であるといえる。平均年齢が17.28歳であり、9割が学生であることから判断しても、回答者が自分自身のことを「自立」していると認識することは難しいのだろう。

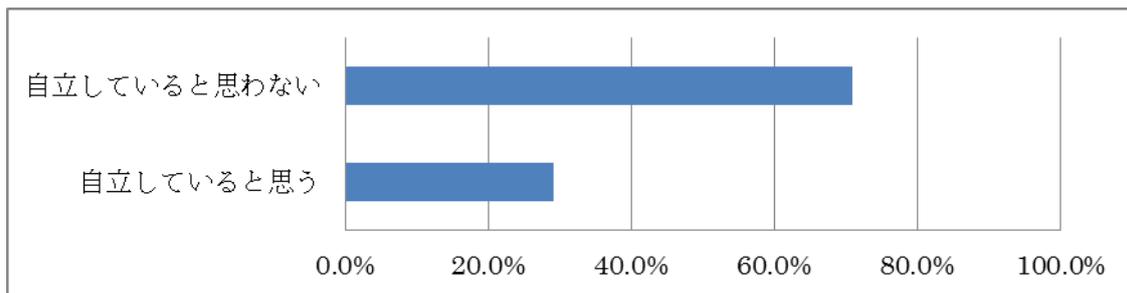


図4-1 自分は自立しているか (N=585)

性別で比べてみた。「自立していると思う」と答えた男性は30.7%、女性は27.9%である。「自立していると思わない」は男性が69.3%、女性が72.1%であった。性別による違いはほとんどないといえる。

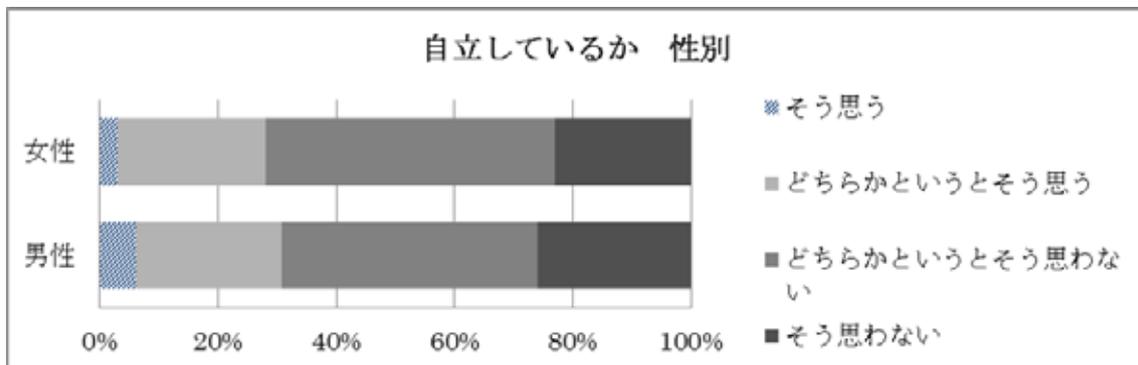


図4-2 自分は自立しているか (性別)

学生に限定して学年による比較を試みた。結果は、高校生が3～4割程度「自立している」と答えているのに対し、短大生（専門学校生）・大学生は1割～3割程度にとどまった。大学3年生にいたっては、1割の回答者しか自分のことを「自立している」とは思っていない。これは、年齢が高くなるほど同世代の就労者の割合も増えるため、学生である自分を経済的・社会的に自立しているとは見なせないからではないだろうか。

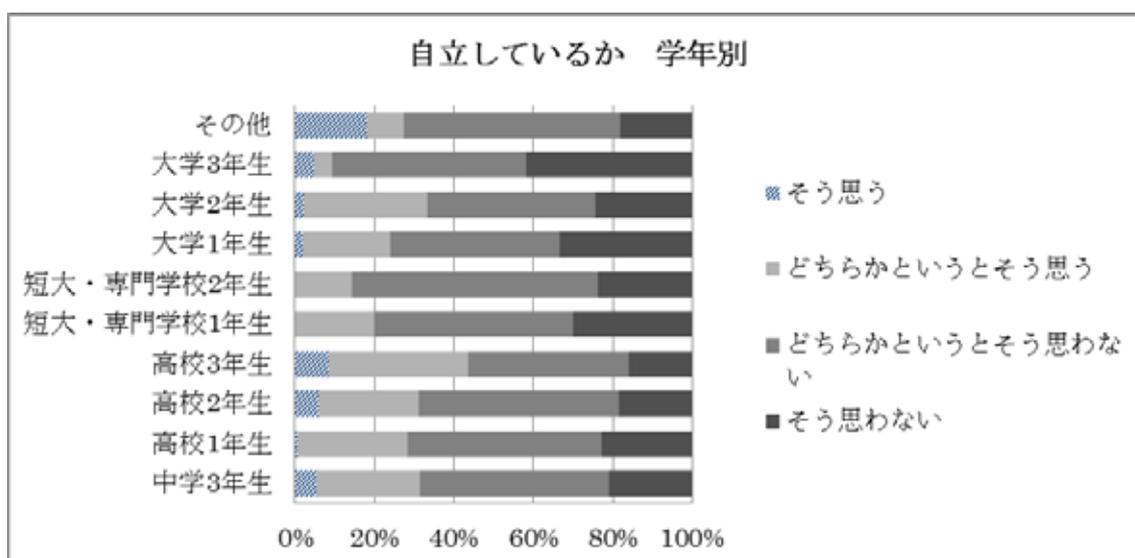


図 4-3 自分は自立しているか（学年別）

## （2）「自立」とは何か

彼/彼女らは、どのような状態を「自立」ととらえているのだろうか。10の選択肢を挙げて、「自立」にあてはまるものを選んでもらった。

その結果、最多回答は「自分の生活を自分自身で決める」であり、これは「自己決定」を意味するが、86.8%とおおよそ9割近くの回答者が自立ととらえている。つづいて、「身のまわりのことを自分でできる」という「身辺自立」（82.8%）、「仕事を自分の力でできる」という「職業的自立」（82.5%）、「ルールや常識を身につけている」という「社会的自立」（81.5%）、「お金の管理をすることができる」という「金銭管理」（80.8%）や「家事が自分でできる」という「家事能力」を意味する「生活的自立」（80.8%）、「生活のためのお金がある」という「経済的自立」（75.5%）が続いた。

多い順から、自己決定>身辺自立>職業的自立>社会的自立>金銭管理、家事能力>経済的自立>情緒コントロール>前向きな意欲>自己肯定感であった。「あてはまらない」が「あてはまる」を上回ったのは「自分のことが好き」のみである。設問にあたって中学生にも理解しやすいように、「自己肯定感」のことを「自分のことが好き」と表したのだが、回答者の多くはそれを「自立」の要素とは見なさなかったようである。「自分を認めること」や「自分に自信がある」といった表現にすれば、もっと違った回答になったかもしれない。

回答者たちは、「自立」を自己決定や生活・経済・社会的な側面にとらえており、反対に自己の情緒面のコントロールや意欲、自己肯定といった心理・精神的な観点からはとらえていないことがわかる。

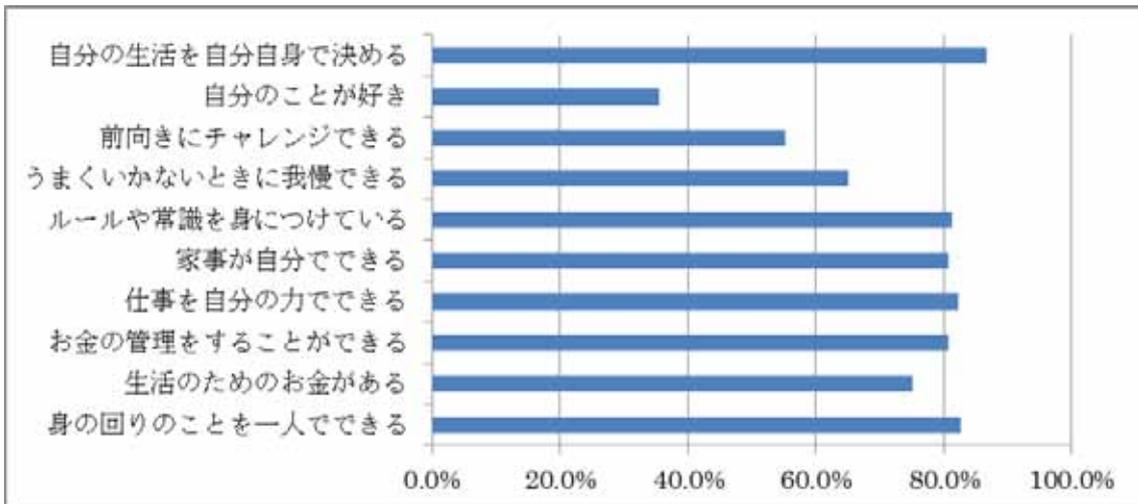


図 4-4 「自立」とは何か (N=587)

「自立」の中身をどのようにとらえているかは、学生の場合、学年によって多少の違いが出た。(就労している回答者はサンプル数が少なく回答がばらついたため、学生のみと比較とした) まず、「経済的自立」について見ると、相対的に学年が上がるにつれて経済面を重視している。年齢にしたがって、生活や娯楽、通信・交際費などさまざまな出費があることと、それぞれが高額になることが理由ではないかと考えられる。

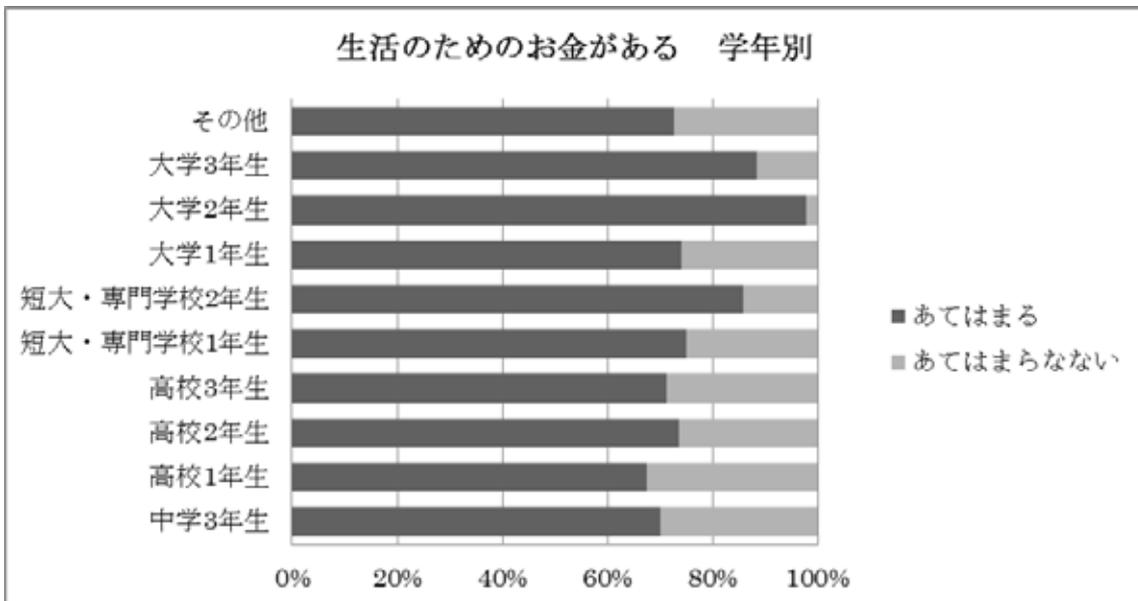


図 4-5 「自立」は、経済的自立 (学年別)

経済面の重視は、単に「お金がある」ことだけでなく「金銭管理」についても考慮されている。中学3年生では7割程度だった「金銭管理」がほぼ学年ごとに上昇し、大学2・3年生では9割になった。自分自身で支払う機会やアルバイト経験の増加によるものと考えられる。

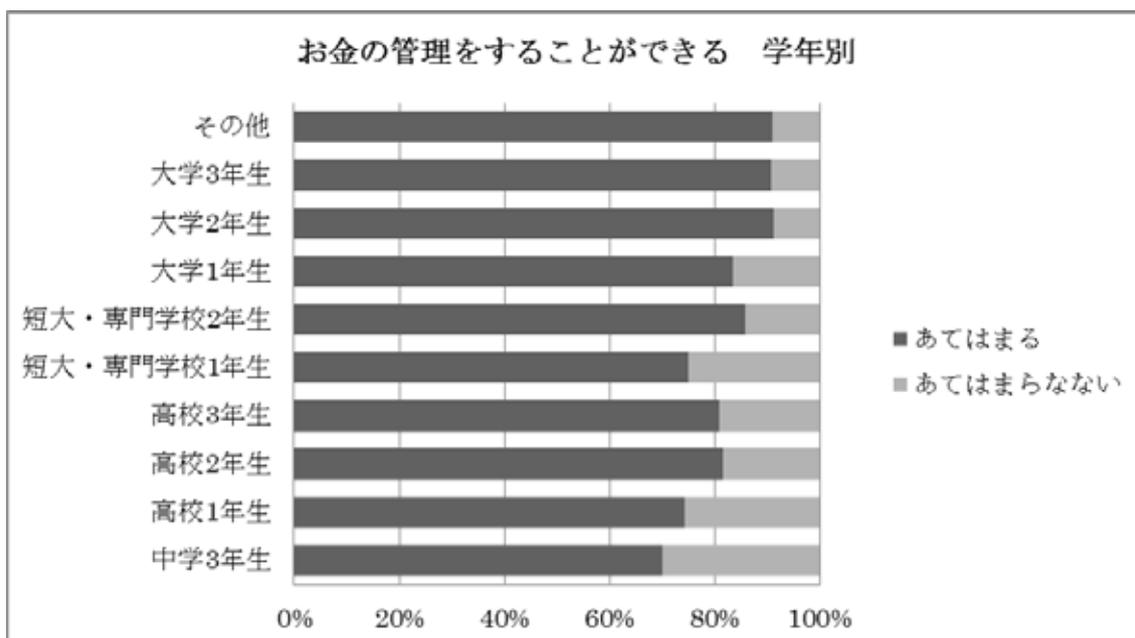


図 4-6 「自立」は、金銭管理（学年別）

精神面でのとらえ方はどうだろうか。「物事に前向きにチャレンジできる」を「自立」ととらえた回答は、全体的にさほど多いとは言えないものの、なかでは高校生が最多（6割）であった。短大・専門学校2年生や大学生になると、中学生よりも低い数字（4割強）になる。この回答をどうとらえるかは難しいが、高校時代には意欲的であっても、大学生（短大・専門学校生）になって人間関係が広がり種々の経験を積むことによって、現実（自分の力）を自覚したということが言えるかもしれない。

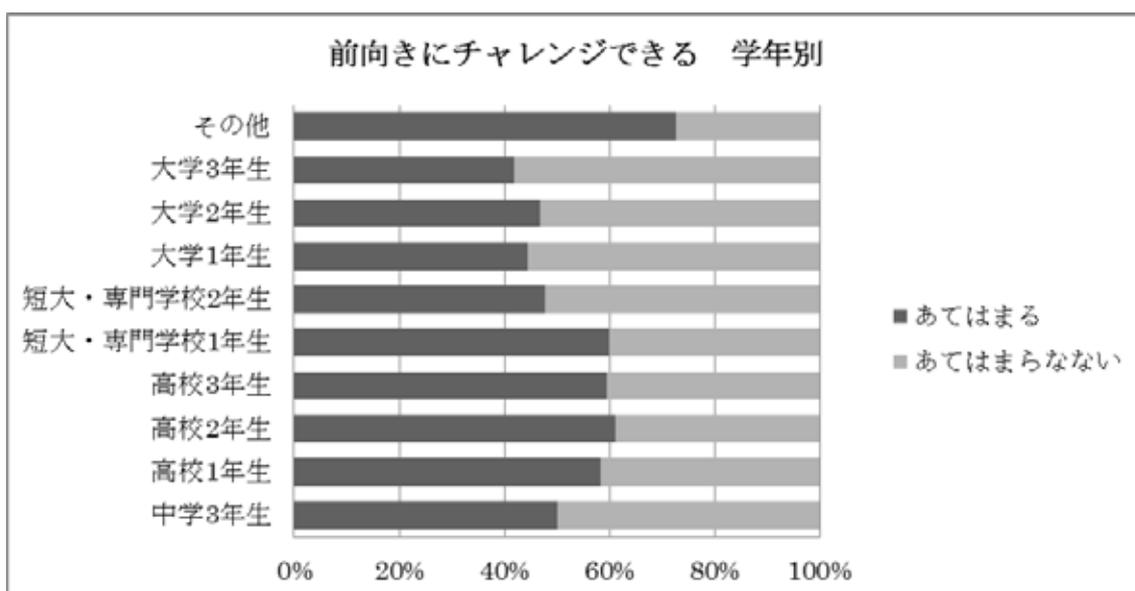


図 4-7 「自立」は、前向きな意欲（学年別）

本調査では、「自己肯定感」のことを、中学生にもわかりやすいように「自分のことが好き」という表現（選択肢）にした。そのような表記が回答に影響を及ぼしたのかどうかはわからないが、「自分のことが好き」を「自立」ととらえる回答は全体でも40%に届かず、選択肢のなかではもっとも少なかった。なかでも目を引くのは、中学3年生の回答で、1割程度しかない。この学年の回答者は、「自分の生活を自分自身で決める」（自己決定権）については9割もが「自立」にあてはまると答えているのと比べると対照的である。「心理・精神的な自立は、自己肯定感を基盤として成し遂げられる」ことは、諸研究が教えるところだが、本調査結果では「自己肯定感」と「自立」の2つが結びついていない。10代後半の若者は自分自身について悩み考えるときでもあるので、自分自身を肯定することがときに難しく、「自立」＝「自己肯定感」と考えることはできないのかもしれない。

ちなみに、内閣府が行った国際比較調査によれば、日本の若者は諸外国の若者に比べて「自己肯定感」（自分自身に満足している）や、うまくいくかわからないことに対し「意欲的に取り組む」という意識が低いという結果が出ている<sup>1)</sup>。

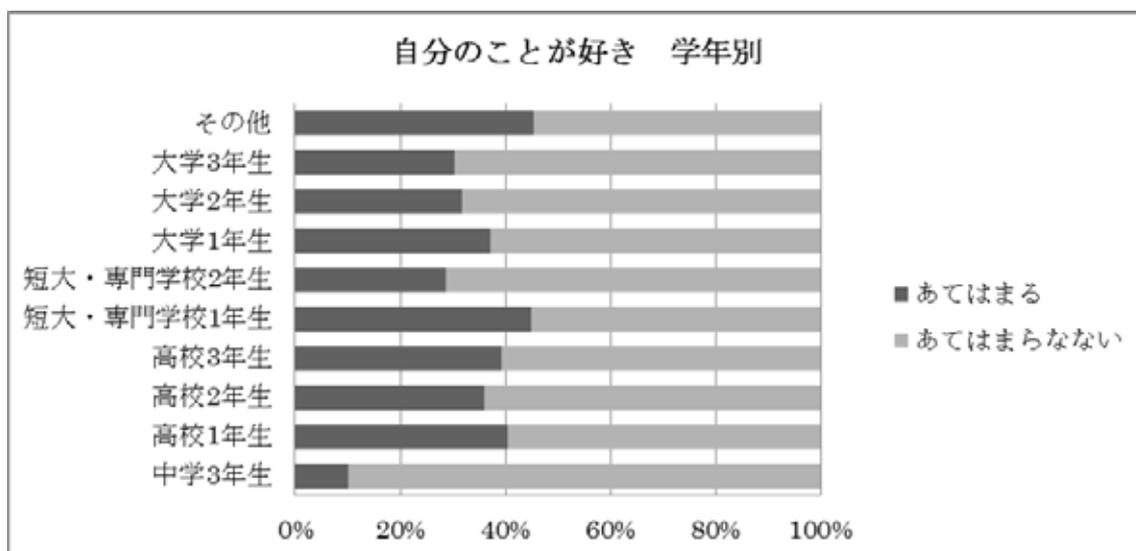


図4—8 「自立」は、自己肯定感（学年別）

## 2. 悩みや心配ごと、相談相手

### (1) 悩みや心配ごと

現在の悩みや心配ごとを問うたところ、もっとも多かったのは「自分の将来のこと」であった。つづいて、「就職のこと」、「勉強のこと」、「進学のこと」、「お金のこと」である。（内閣府の調査では、多い順に、「自分の将来のこと」（79.4%）、「お金のこと」（75.9%）、「仕事のこと」（74.8%）、「就職のこと」、「進学のこと」であった。）

以下、「政治や社会のこと」、「性格のこと」、「体力のこと」、「容姿のこと」、「異性との交際のこと」がつづく。若者の関心事が自身の将来にあることは自然なことでもあるが、それにしても、現在の自分のことよりも将来の心配のほうが多くなっている。対象者の大半が学生であることを考えると、進路や学業が上位にあることはうなずける。その反面、5番目に多い回答が「お金のこと」となっている理由は、やはり将来への不安があるのだら

うか。就労者は生活費との関連、学生（特に高校生）は進学費用との関連が考えられる。

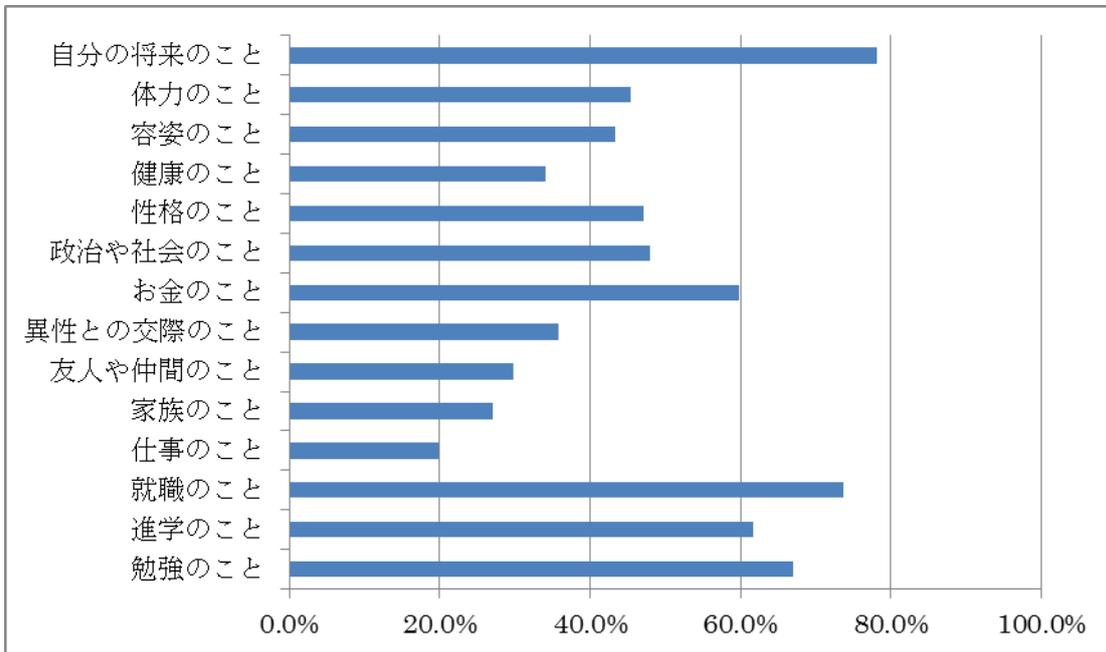


図 4-9 悩みや心配ごとの種類 (N=590)

## (2) 相談相手

悩みや心配ごとの相談は誰にするのだろうか。もっとも多かった回答は「友だち」であり 7 割の人が友だちと回答していた。「母」が 5 割で、それに続いた。以下の回答は、上位 2 位と比べると数値が低く、「父」、「きょうだい」、「恋人」、「先生」といった順である。

内閣府の調査では、日本の若者は、「母」が 47.3%、「近所や学校の友だち」が 38.0%、「父」が 20.7%、「きょうだい」が 17.5%であった。他国の若者の回答も家族が多くなっている。これらと比べると、今回の調査対象者たちの回答では「友だち」の多さが際立っている。「だれにも相談しない」と回答した人が 78 人と 1 割を超えているが、内閣府の調査でも、さほど変わりはない。日本の若者の回答は 15.7%で、他の 6 か国でも 15%前後存在していた。

相談相手に性差があるのか見てみた。もっとも大きな違いは、「母」であった。女性の回答者は 6 割 (61.2%) であるのに対し、男性はおよそ 5 割 (49.6%) である。それ以外は、大きな相違はないが、男女間で 5%以上の開きがあるものを挙げると、「友だち」は女性 72.5% > 男性 67.8%、「恋人」は女性 17.8% > 11.2%、「だれにも相談しない」は男性 15.9% > 女性 10.7%であった。

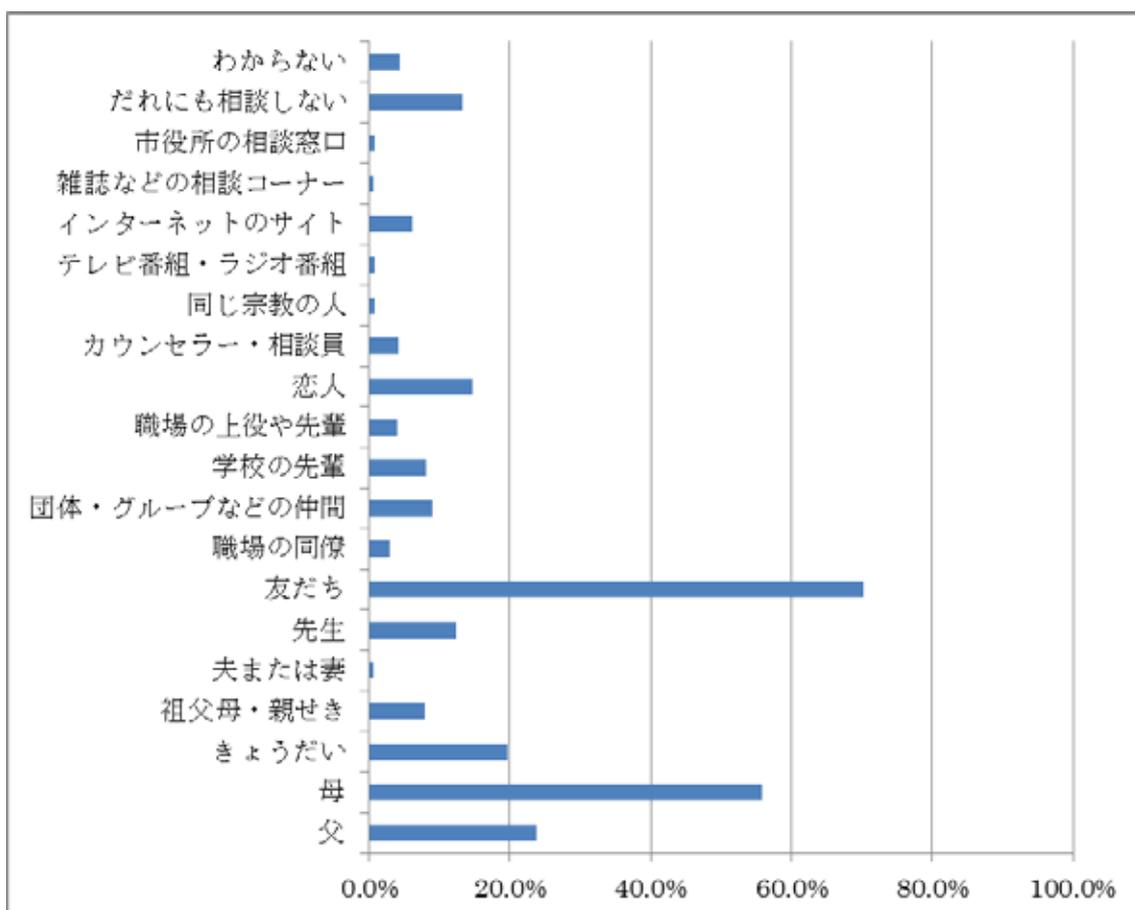


図 4-10 悩みや心配ごとの相談相手 (N=587)

### 3. 家庭生活での満足

#### (1) 家庭生活の満足度

家庭の満足度を尋ねた。「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせると、76.2%の人が満足と答えている。「どちらかといえば不満」と「不満」を合わせた数値は 15.7%であった。

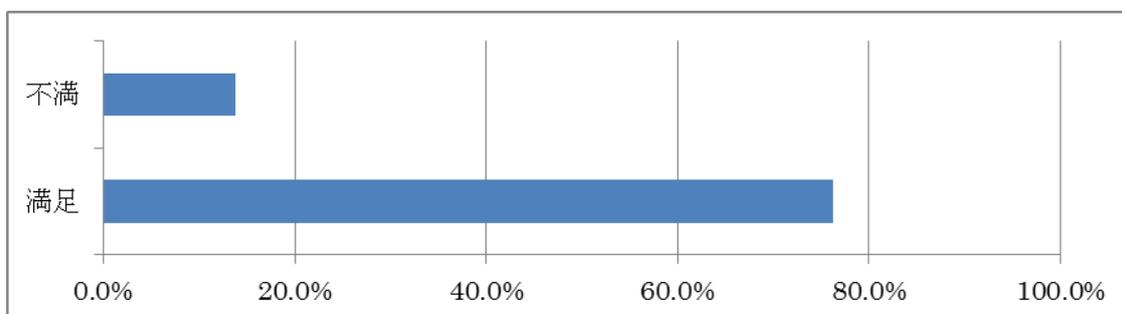


図 4-11 家庭生活の満足度 (N=590)

家庭生活の満足度は、もっとも低いのが中学3年生で、6割を切っている。その他は、短大生・専門学校生が7割程度、高校生が7～8割であった。最も満足度が高かったのは大学生であるが、これらの回答だけでは理由までは判断できない。

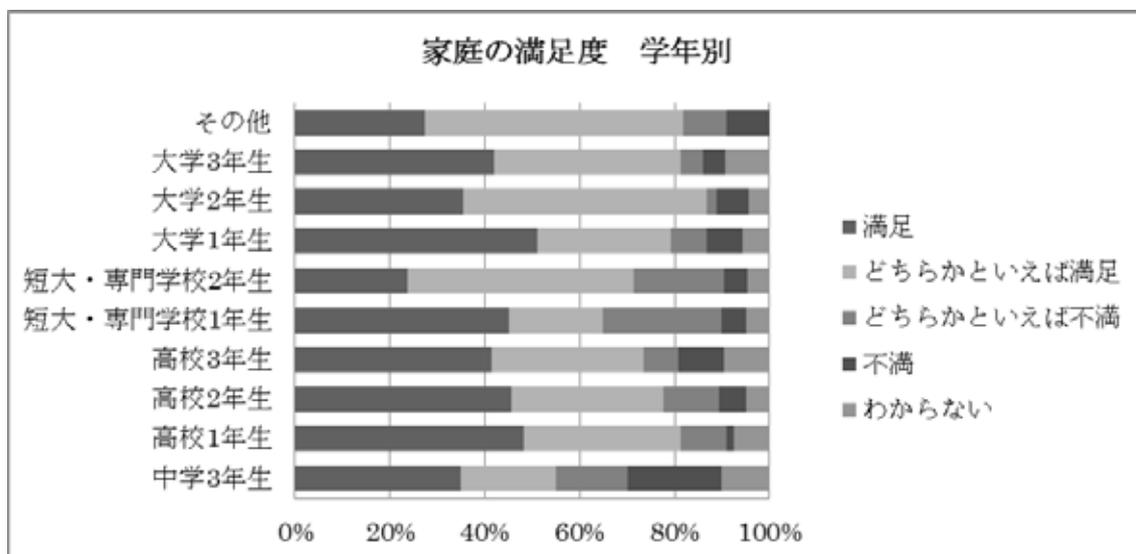


図 4-12 家庭生活の満足度 (学年別)

## (2) 家庭生活での満足の内容

家庭に関して満足していることは何か。もっとも多い回答は、「家族が健康である」(46.9%)で、およそ半数近くがこれを選択した。以下、「親の愛情」(36.2%)、「家庭内で争いごとがない」(35.5%)、「家族のだんらんや会話」(35.0%)、「親が自分を理解している」(34.6%)、「きょうだいと仲が良い」(31.1%)と続いた。家族が健康であることや家族成員同士の関係の良さが、若者たちにとって家庭生活の満足につながっていることがわかる。

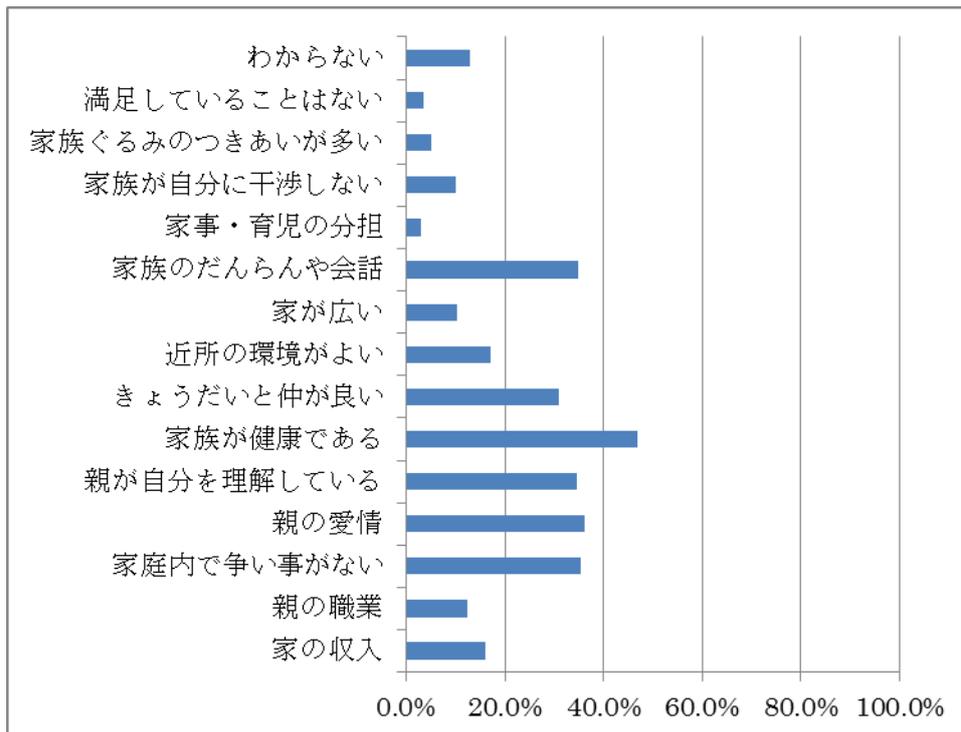


図 4-13 家庭生活での満足の内容 (N=586)

#### 注

1) 内閣府が行った国際比較調査は、日本、韓国、アメリカ、イギリス、ドイツ、フランス、スウェーデンという 7 か国の満 13~29 歳の若者が対象である。「自己肯定感」に関する設問は 2 つあって、「自分自身に満足している」は 45.8% と最低だが (他国はいずれも 7 割を超えていて、アメリカ、イギリス、ドイツ、フランスは 8 割を超えている)、もうひとつの設問「自分には長所がある」の回答は 68.9% であり (韓国の 75.0%、スウェーデンの 73.5% などと比べて大きな差とはいえない)、他国の若者と比べて特別に低いわけではない。

#### 参考文献

岩崎美智子、2009、子どもの「自立」に関する一考察—児童福祉法と関連分野の概念規定をめぐって—、『東京家政大学研究紀要』第 49 集 (1)

槇英弘、2008、自立の概念と構造、『四天王寺大学紀要』第 46 号

内閣府、2014、『平成 26 年版 子ども・若者白書』

<http://www8.cao.go.jp/youth/whitepaper/h26honpen/> [2017-1-8]

庄司順一、2006、今、求められる子どもの自立支援とは何か『月刊福祉』2006 年 4 月号、全国社会福祉協議会



## 第5章 将来について



## 第5章 将来について

岩崎 美智子

本章では、若者の「将来」について検討していく。彼/彼女らが思い描く未来の自画像はどのようなものなのか、希望する仕事は何か、あわせて結婚や子どもについての希望についても考察を加えたい。

### 1. 将来の見通し

#### (1) 将来への希望

将来の見通しについて尋ねた。「明るい希望がある」と「どちらかといえば明るい希望がある」と答えた人を合わせると 67.5%である。反対に、「どちらかといえば希望がない」、「明るい希望がない」と答えたのは、32.4%であった。内閣府の国際比較調査においても、日本の若者の「将来への希望」は、その他の国々の回答(8~9割)と比べて低い(61.6%)。

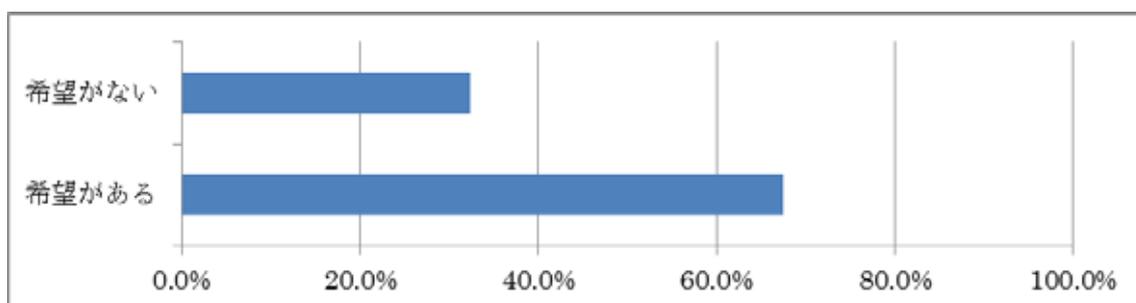


図 5-1 将来の見通し (N=590)

性別による違いを見てみる。「希望がある」と答えたのは、女性が7割であるのに対し、男性は6割強である。女性のほうがやや楽観的である。

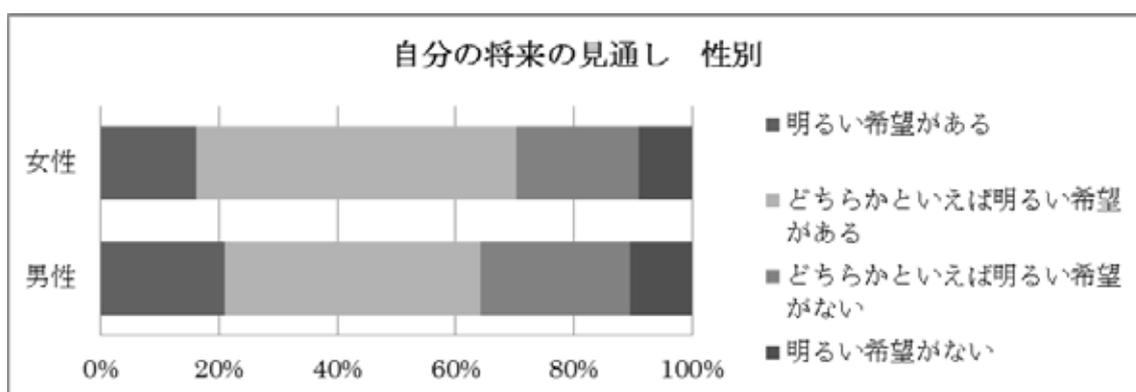


図 5-2 将来の見通し (性別)

#### (2) 将来の自己イメージ

回答者は、40歳くらいになったときの自分はどのようにになっていると考えるのだろうか。将来イメージについて訊いた。

もっとも多かったのは、「親を大切にしている」(73.4%)であった。つぎに、「幸せになっている」(62.9%)、「子どもを育てている」(54.4%)、「結婚している」(51.0%)、「自由にのんびり暮らしている」(45.9%)とつづく。これらの回答から判断すると、堅実な人生観や予測を持っているいっぽうで、上昇志向はさほど高くないことが理解される。

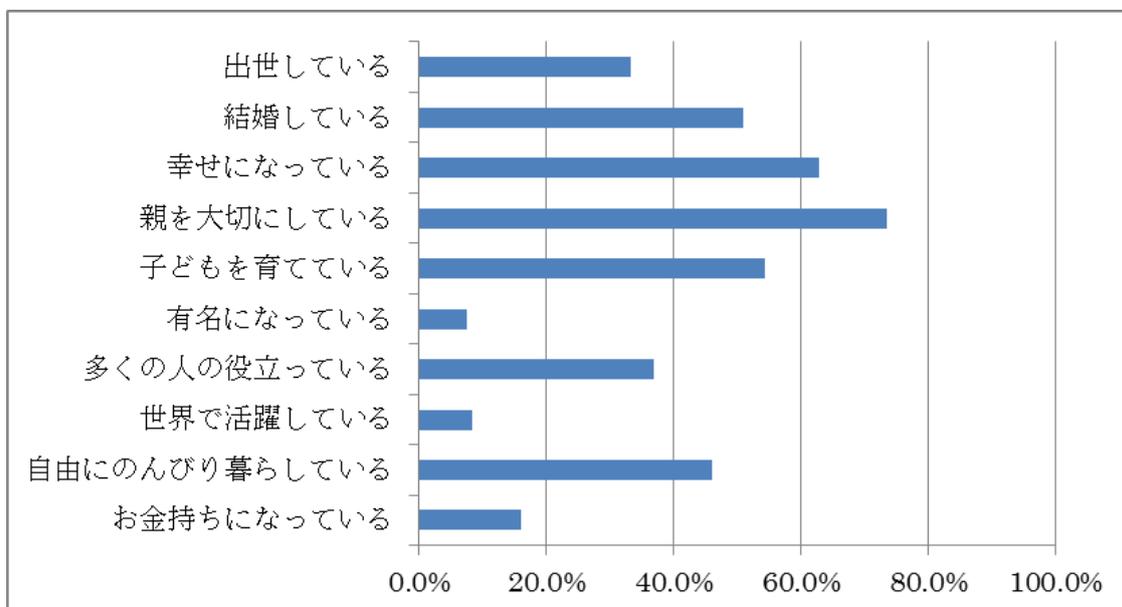


図 5-3 将来イメージ (N=590)

「将来イメージ」のなかで、男女差が大きいものを取りあげる。まず、「自由にのんびり暮らしている」は、女性は5割を超えたが、男性は4割程度である。

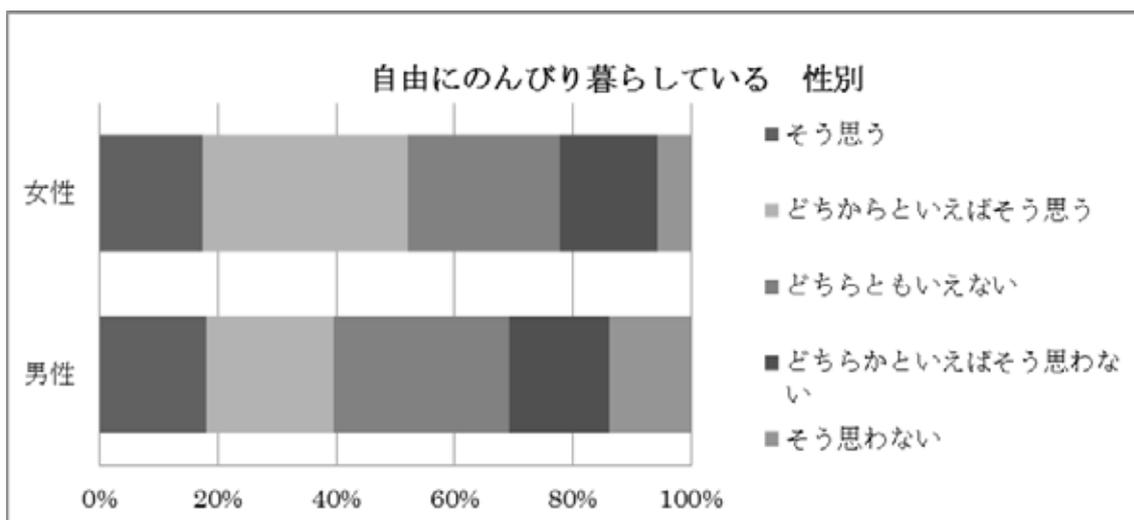


図 5-4 将来は、自由にのんびり暮らしている (性別)

同様に、「子どもを育てている」は、女性は5割を超えたが、男性は4割である。

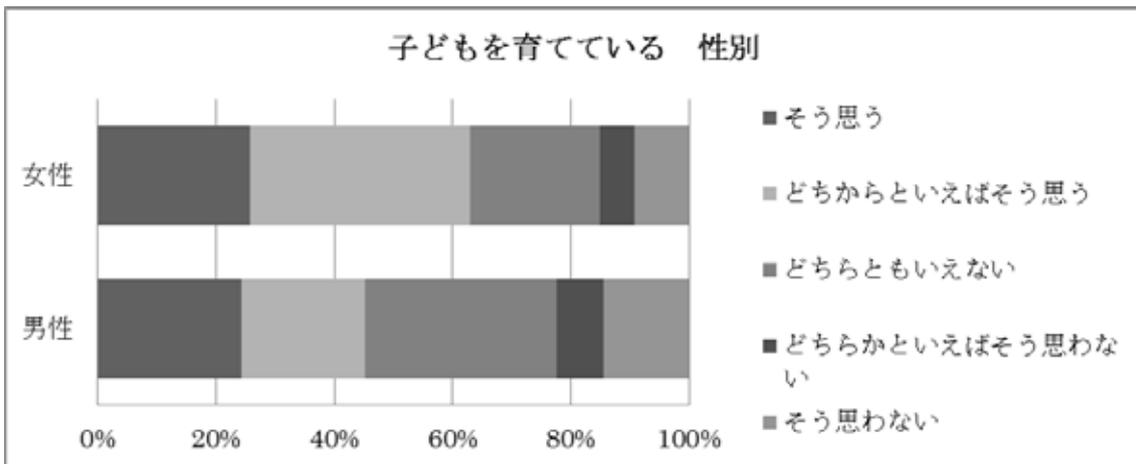


図 5-5 将来は、子どもを育てている（性別）

「幸福」についてはどうか。女性は7割近いのに対して、男性は6割を切っている。男性のほうが幸福の見通しについて悲観的である。「結婚」に関してはさらに差が開き、女性は6割近くが結婚している自分をイメージしているが、男性は4割強にすぎない。

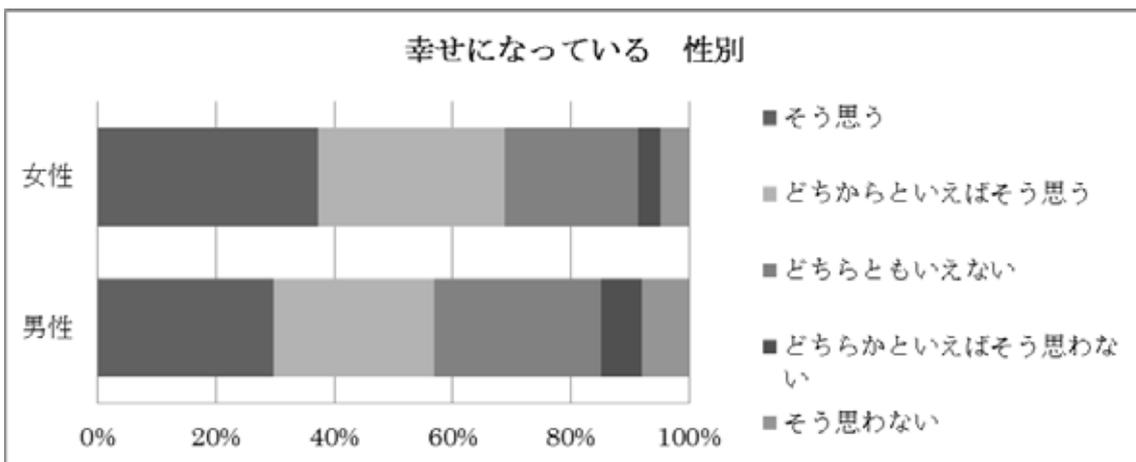


図 5-6 将来は、幸せになっている（性別）

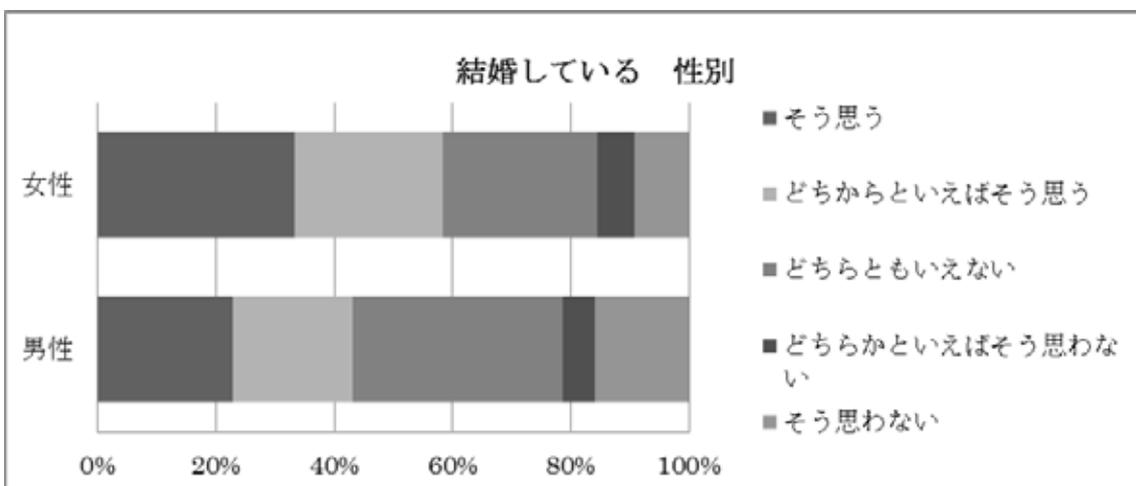


図 5-7 将来は、結婚している（性別）

## 2. 希望の職業

### (1) 将来つきたい職業

回答者たちには、将来つきたいと思う職業があるだろうか。将来つきたい職業が「ある」人はおよそ6割(57.1%)いたが、「わからない」が3割(29.8%)、「ない」が1割強(13.1%)であった。一般的に、15歳～20歳という年齢は将来の進路について考え始める時期でもあるので、回答から判断する限りでは、夢や目標を描きにくい時代になっているのかもしれない。

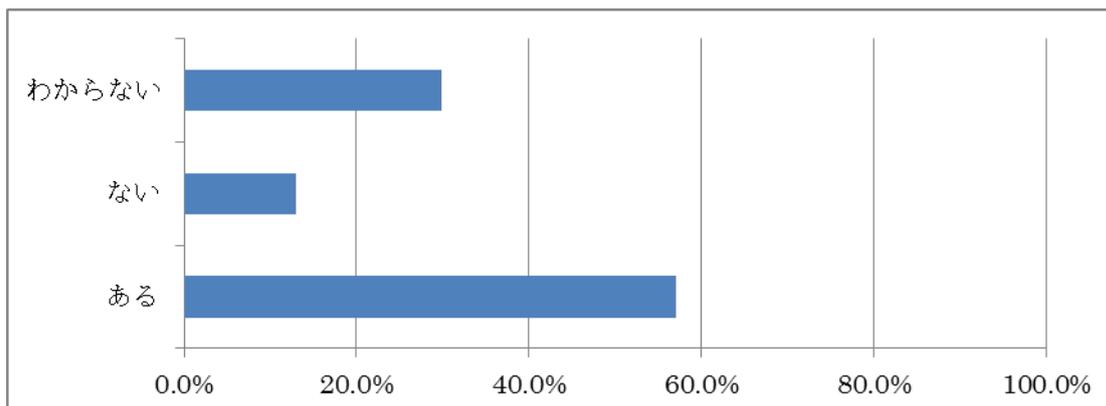


図5-8 つきたい職業の有無 (N=590)

将来つきたい職業について、具体的に記入してもらった。その結果、もっとも多かったのは、「保育士・幼稚園教諭」であり、「教師」、「看護師」、「公務員」が続いている。「薬剤師」、「理学療法士」、「栄養士・管理栄養士」、「美容師」といった回答も上位にある。長い歴史を持つ対人援助職や資格や免許を必要とする職業を希望する人が多く、公務員も人気が高い。それぞれの職の持つ魅力もあるだろうが、経済の動向に左右されないという安定志向もうかがえる。

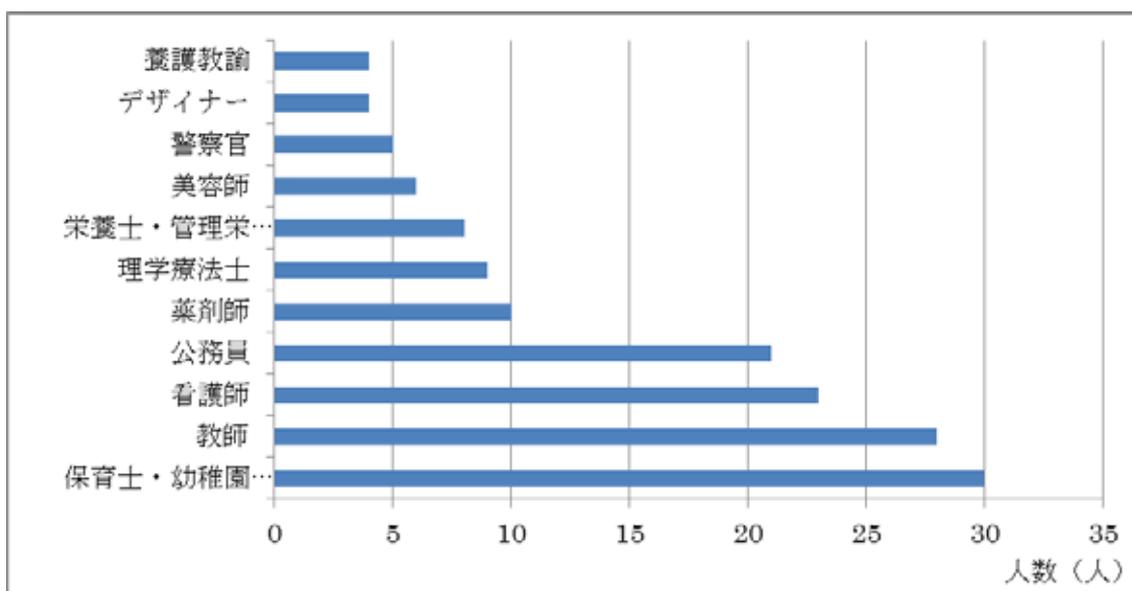


図5-9 つきたい職業

## (2) 職業選択の重視点

職業を選択する際、何を重視するのだろうか。最多回答は「収入」で7割(71.5%)の人が選択した。つぎが「仕事内容」(63.2%)、「安定性」(54.5%)、「職場の雰囲気」(51.5%)、「好きなことや趣味を活かせる」(46.3%)の順であった。内閣府の国際比較調査でも、日本の若者は「収入」が最多であるが(66.6%)、以下「仕事内容」(62.6%)、「労働時間」(51.7%)、「職場の雰囲気」(48.9%)、「通勤の便」(37.1%)となっている。本調査回答者の特徴的な点は「安定性」が54.5%と高いことである。「つきたい職業」と並んで、安定志向がうかがえよう。

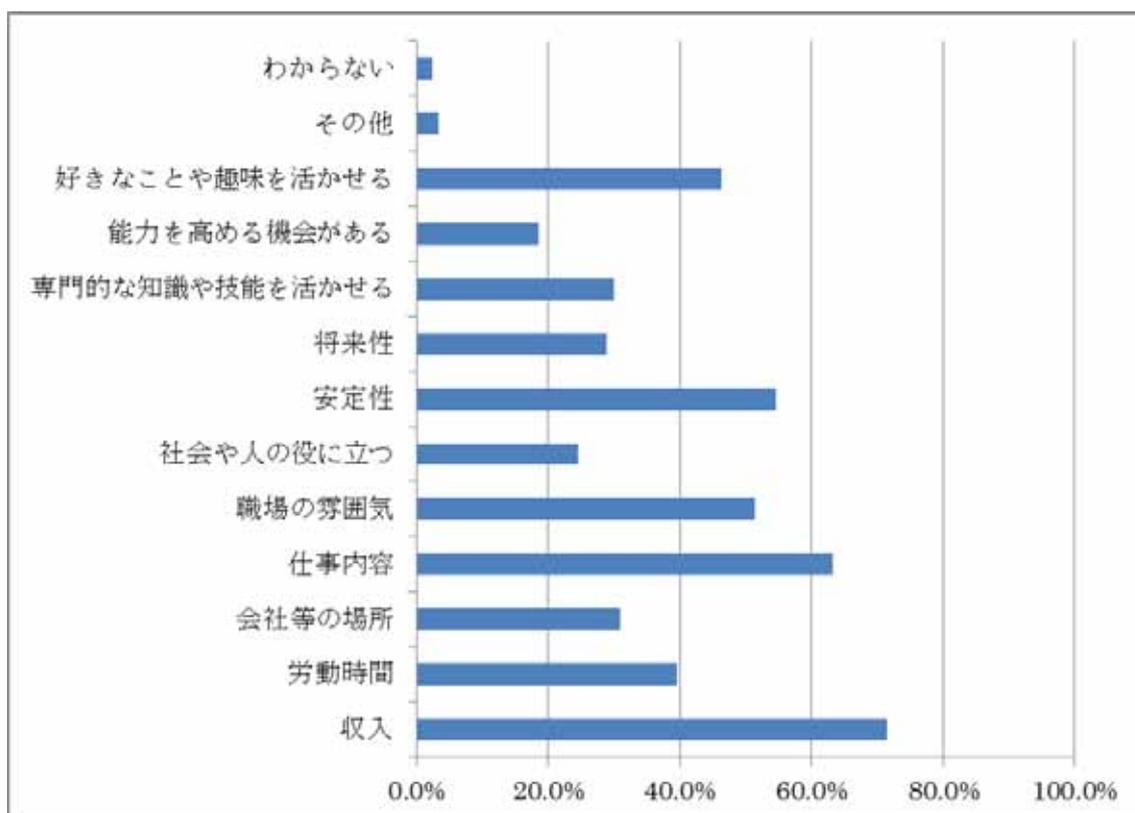


図5-10 職業選択の重視点 (N=585)

## 3. 結婚観

### (1) 結婚の希望

結婚について尋ねた。「将来結婚したいと思うか」という問いに対して「はい」と答えた人は72.4%、「いいえ」と答えた人は10.8%であった。回答者の7割が結婚したいと答えているのは、結婚願望を持つ人が多いといえるだろう。「わからない」という人が16.8%いるのは、回答者の年齢を考えると当然かもしれない。

国立社会保障・人口問題研究所が2015年に実施した全国調査(18歳以上35歳未満を対象)では、いずれは結婚しようとしている未婚者の割合は、9割弱と依然として高い水準にある。日本人は「結婚好きな国民」と言われる。本調査の回答者は、平均年齢が17.28歳であり全国調査の対象者と比べてかなり若いいため、現在は7割にとどまっている結婚の意欲は、回答者たちの年齢によって今後は割合が高くなるかもしれない。

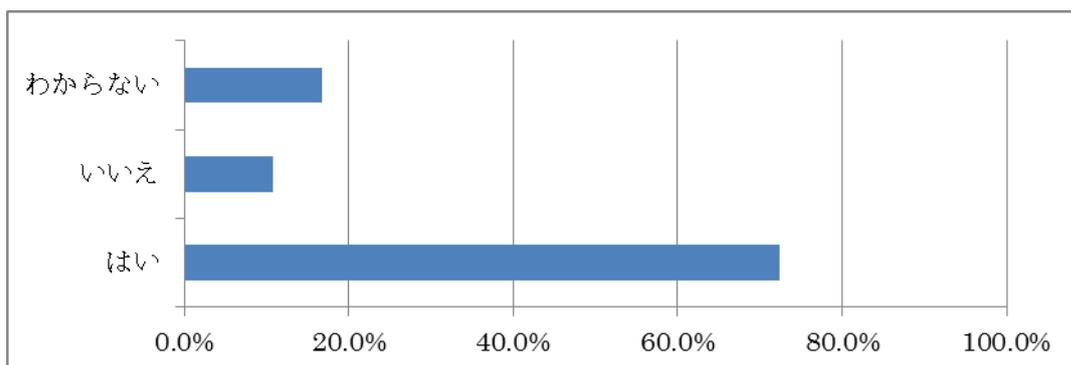


図 5-11 将来結婚したいか (N=590)

結婚の希望について、性別で比べてみた。女性は、8割近くが結婚の希望を持っており、男性は、7割弱である。

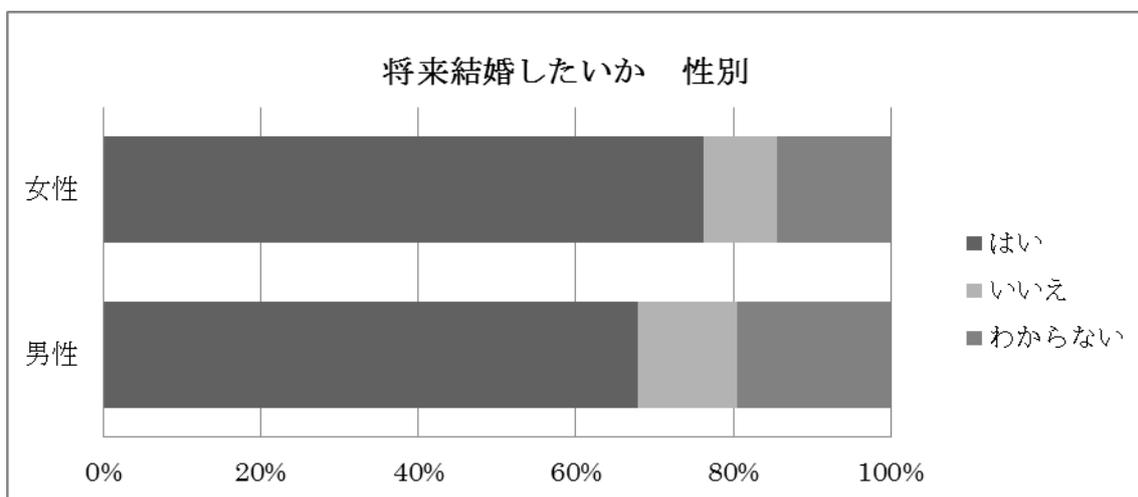


図 5-12 将来結婚したいか (性別)

## (2) 結婚したい理由

結婚したいと思う理由は何か。もっとも多いのは「子どもや家族をもてる」(74.6%)で、他を離している。つぎが「愛する人と暮らせる」(59.5%)、「安らぎの場が得られる」(28.9%)となっているが、その他の選択肢はいずれもひと桁である。結婚については、経済的・社会的理由よりも愛情や安らぎの場としてとらえている傾向が顕著である。「愛する人と暮らせる」が6割を超えているのは、若者らしいロマンティシズムといえようか。

結婚したい理由のなかでジェンダー差(男女差)が際立っているのは、「愛する人と暮らせる」である。女性は55.0%であるのに対して男性の回答は65.2%であった。全国調査(18歳以上35歳未満を対象)では<sup>1)</sup>、「愛情を感じている人と暮らせる」は、女性14.0%、男性が13.3%となっている。それと比べると、本調査の回答者の割合は極めて高い。また、「子どもや家族をもてる」という回答も、全国調査結果(女性49.8%、男性35.8%)と比べてかなり高率であることから、おそらく対象となった回答者の年齢層による相違が出ていると考えられる。つまり結婚に対してはまだ差し迫った問題ではないため、漠然とした

イメージや身近で見聞きしている範囲から考えたりしているのだろう。

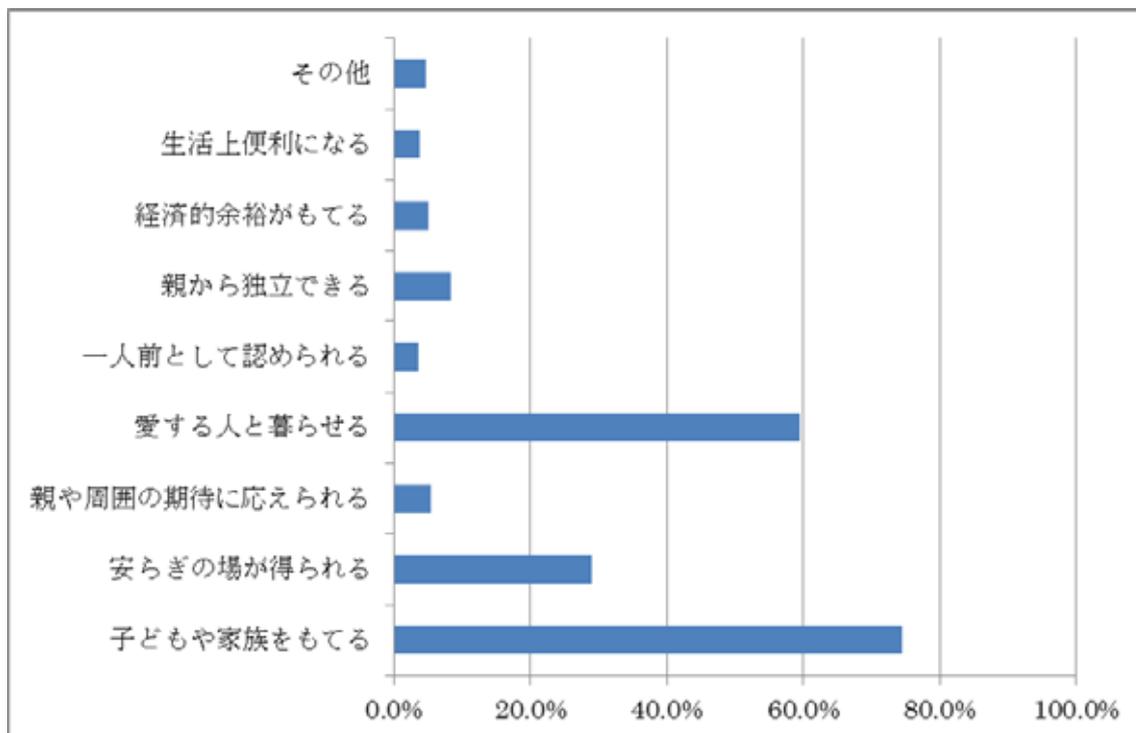


図 5-13 結婚したい理由 (N=425)

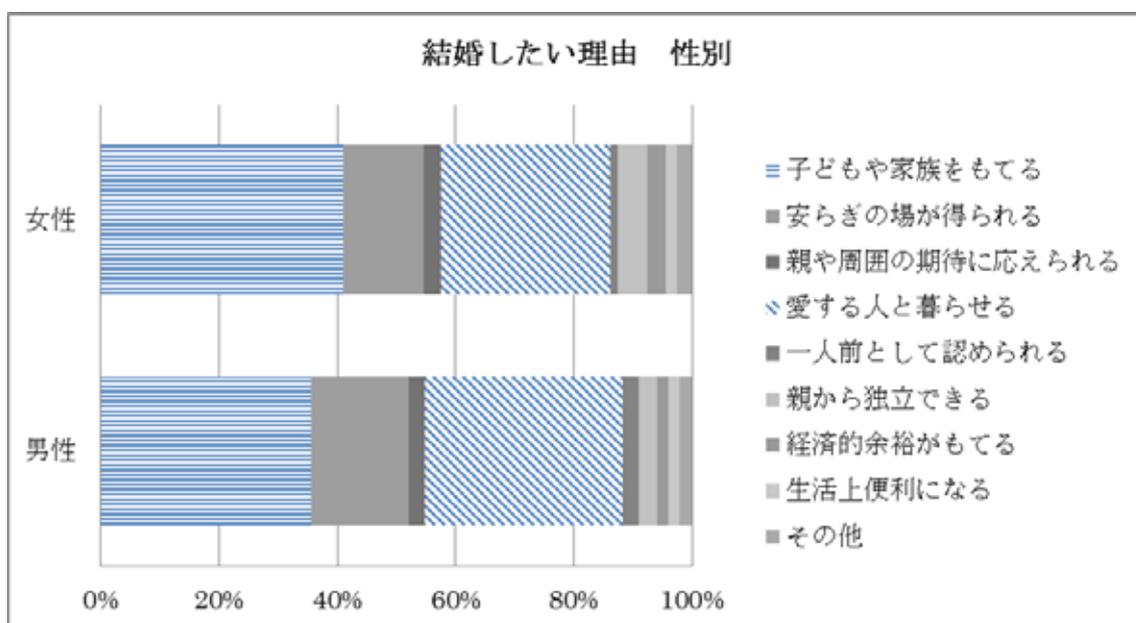


図 5-14 結婚したい理由 (性別)

### (3) 希望の結婚年齢

それでは、結婚するとしたら何歳ぐらいを希望しているのだろうか。「26 歳～30 歳」が 52.3%、「20 歳～25 歳」が 33.9%となっており、回答者全体 (N=428) の 9 割近い人 (86.2%)

が20代での結婚を希望している。この回答は、実際の平均初婚年齢<sup>2)</sup>(夫31.3歳、妻29.4歳)と比べてかなり若い数字である。

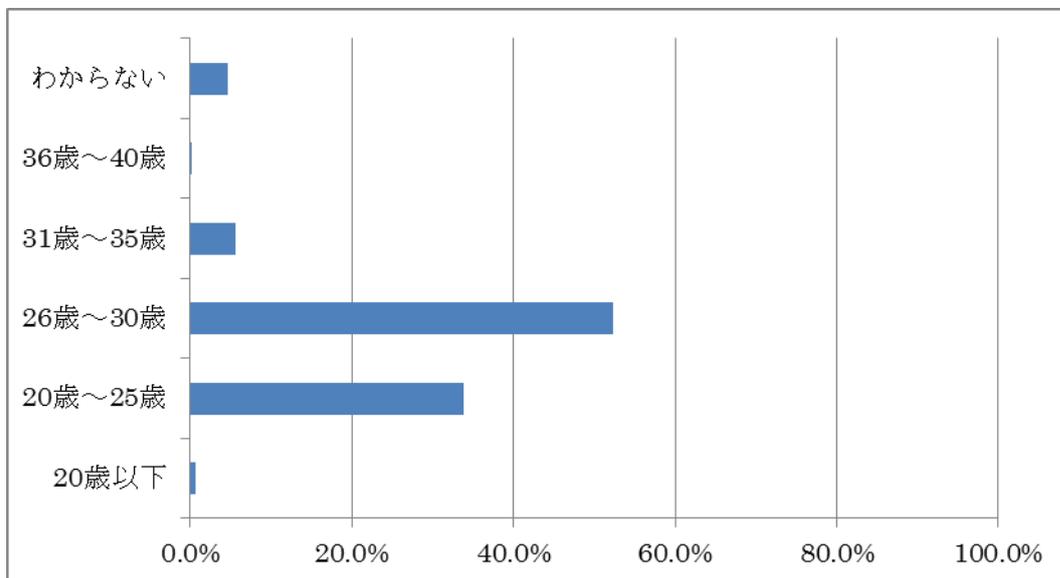


図5-15 希望する結婚年齢 (N=428)

#### (4) 結婚相手に求める条件

結婚相手に求める条件は何か。「人柄(性格)」は、99.8%とほぼ全員が重視(考慮)すると答えている。つぎが、「仕事への理解」で94.6%、「家事能力」86.8%とつづき、「容姿(外見)」も83.8%と高率である。選択肢のなかでは、「学歴」(44.1%)のみが半数を割っている。

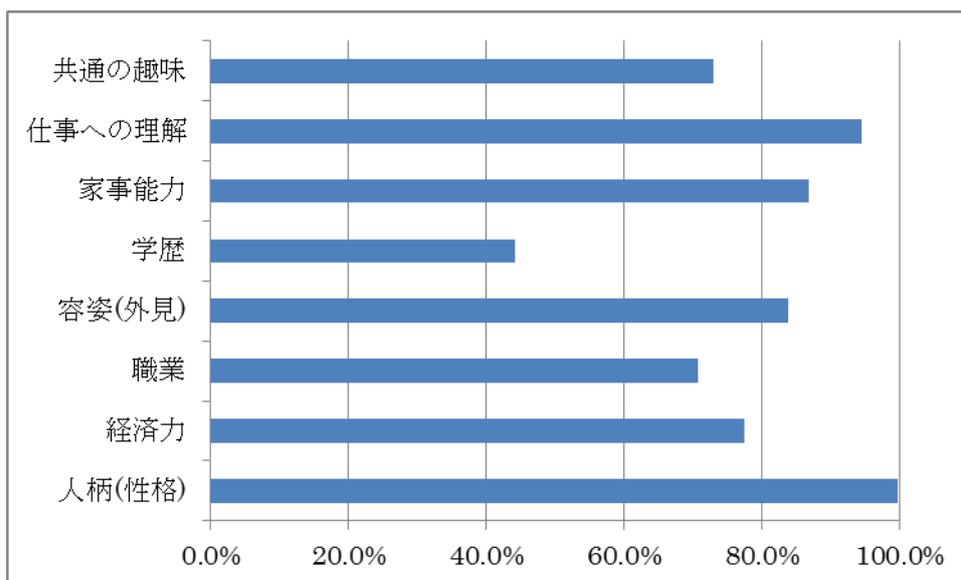


図5-16 結婚相手に求める条件 (N=426)

8つの選択肢のうち、性別によって数値が異なるものを比較してみた。

まず、「経済力」である。女性は、男性に対して98%もの回答者がこれを求めている。男性は、6割に満たない。

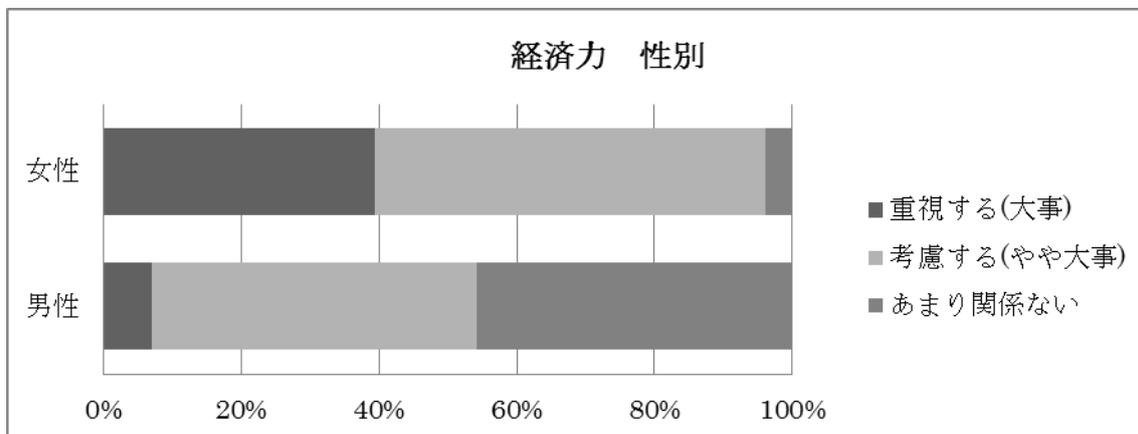


図5-17 結婚相手に求める条件は、「経済力」(性別)

つづいては、「職業」である。「職業」を重視(考慮)するのも女性は9割近く、いっぽうの男性は5割程度である。

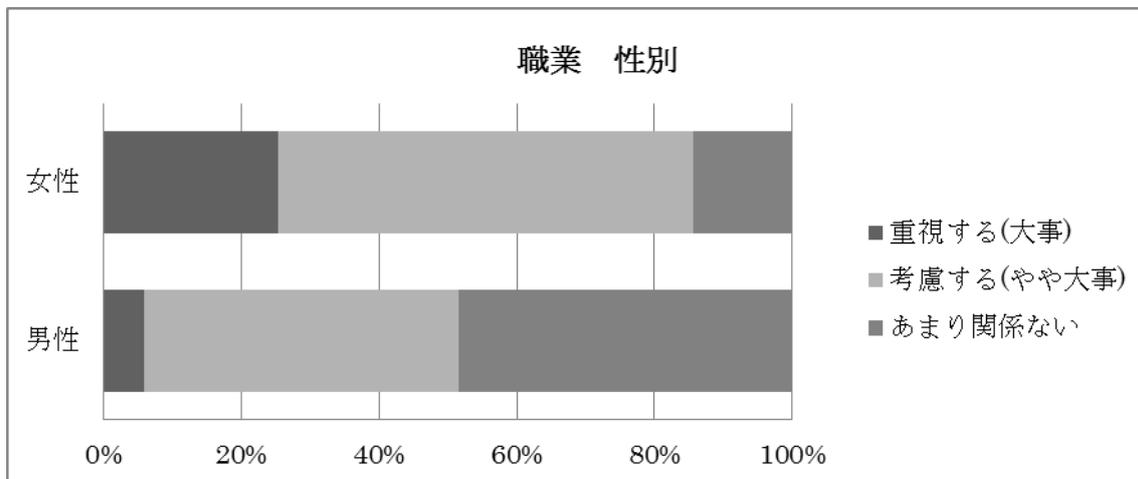


図5-18 結婚相手に求める条件は、「職業」(性別)

では、「学歴」はどうか。これは、割合としてのジェンダー差(男女差)はさほど大きくはないが、女性はおよそ半数が男性に「学歴」を求めている。それに対して、男性が女性に求める割合は4割に満たない。

かつて「3高」という言葉があり、「女性は結婚相手である男性に対して、高学歴、高収入、高身長という3つの高いものを望む」と言われた。本調査結果から判断する限り、「高身長」は別にしても、いまでも女性は、結婚相手に高学歴や高収入(経済力)を求めているといえる。ちなみに、全国調査では、男性も女性に対して「経済力」や「職業」を重視・考慮する割合が増加しているのが近年の傾向である。

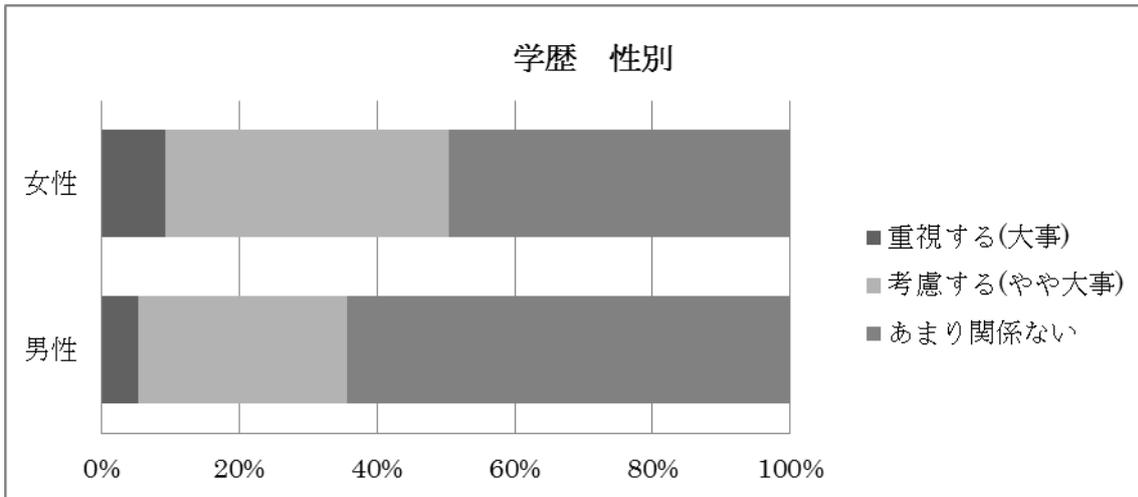


図 5-19 結婚相手に求める条件は、「学歴」(性別)

女性が男性に求める条件は、現在でも、高学歴や高収入であることがわかった。いっぽう男性は、過去の調査において、女性に対して「容姿」を要求することが多かった。心理学者の小倉千加子は、かつての著書のなかで「結婚とは、男性と女性とが持つ資源の交換」であり、つまり「カネとカオの交換」であると看破した<sup>3)</sup>。はたして、男性たちは、いまでも女性にカオ（容姿）を求めるのだろうか。

結果はこうである。全国調査では、男性が女性に対して「容姿」を求める割合が高かったが、本調査の回答者たちは男女の割合がほぼ拮抗している。素直に考えれば、若い世代ほど、女性も男性に対して容姿（美しさや、自分の好み）を望むということになるだろう。この点においても男女という性別による相違は少なくなっている。

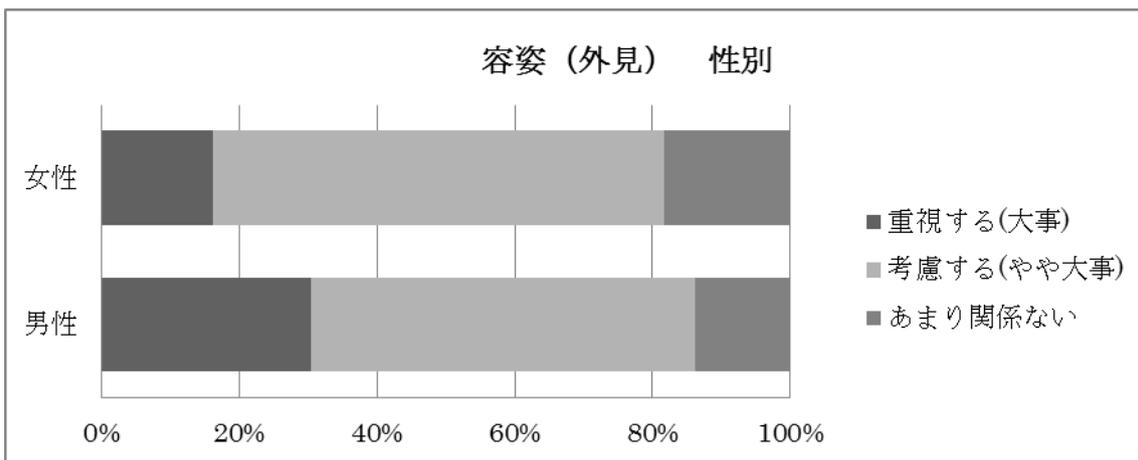


図 5-20 結婚相手に求める条件は、「容姿(外見)」(性別)

つぎは、「家事能力」である。女性は 8 割の回答者が、男性は 9 割近い回答者が、相手に「家事能力」を求めている。結婚するためには、男女とも家事能力を身につけなければ相手に選んでももらえないということだろう。

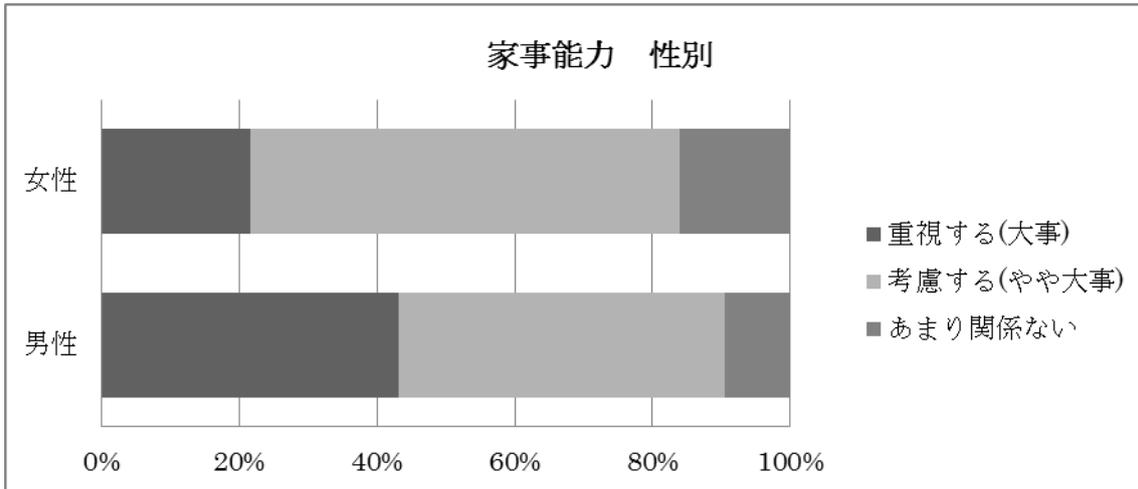


図 5-21 結婚相手に求める条件は、「家事能力」(性別)

#### (5) 結婚したくない理由

いままでは、「結婚したい人」についてみてきたが、今度は「結婚したくない人」についてみてみよう。

結婚したくない人は、どのような理由からだろうか。圧倒的に多い回答は「行動や生き方が自由にできる」で 82.5%であった。結婚による束縛や制約を考えると、独身を選択するということであろうか。

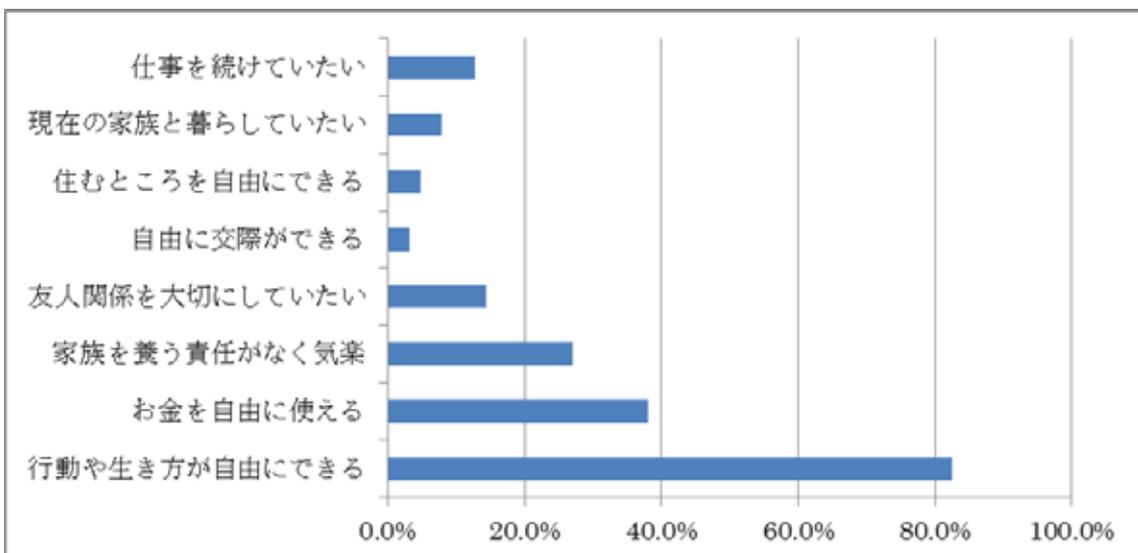


図 5-22 結婚したくない理由 (N=63)

#### 4. 子ども観

##### (1) 子どもを持つことの希望

将来子どもをもちたいかどうかを問うた。「はい」が6割(60.3%)を占め、「いいえ」は1割(11.9%)ほどにすぎない。しかし、「わからない」(19.3%)も2割近くいる。これは、回答者の多くがまだ青少年(未成年)であるため自然な結果であるといえるだろう。

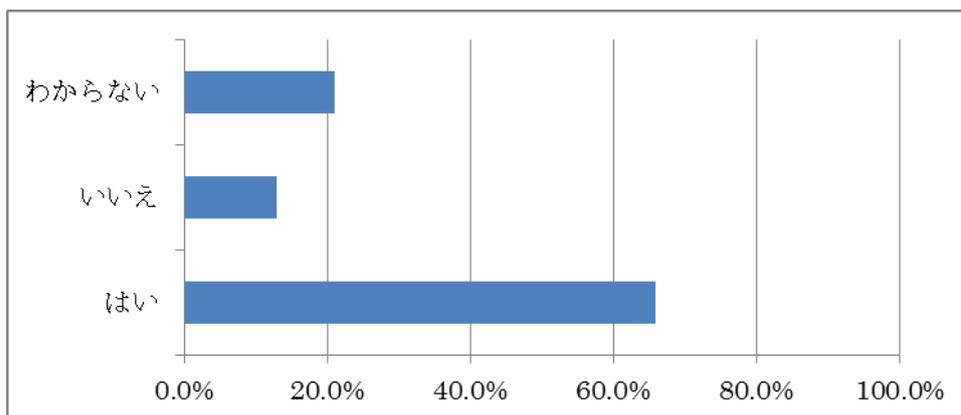


図5-23 将来、子どもを持ちたいか (N=540)

子どもを持つことの希望について、性別で比べてみた。女性は7割(70.9%)が子どもを持ちたいと考えているのに対し、男性は6割(60.2%)にすぎない。

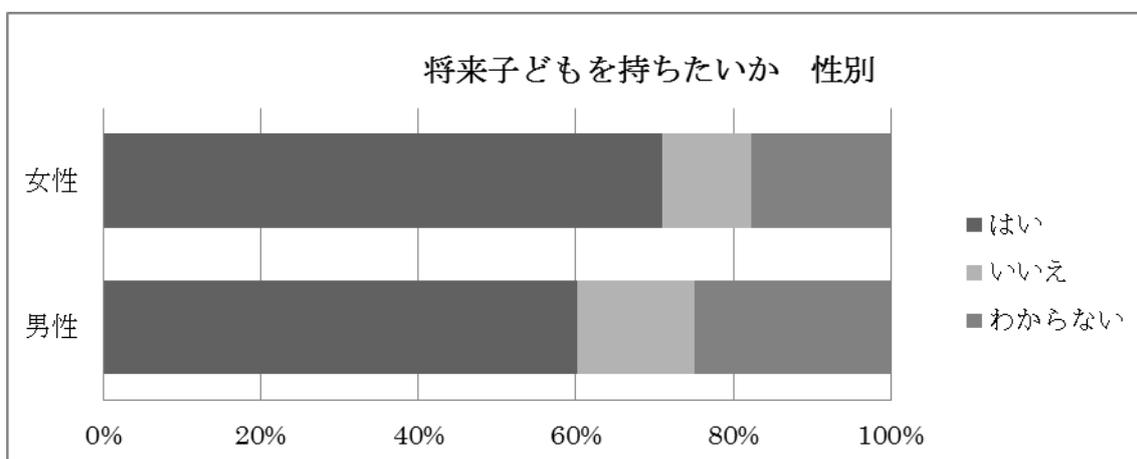


図5-24 将来、子どもを持ちたいか (性別)

##### (2) 子どもを持ちたい理由

子どもを持ちたい理由は何か。「喜びや生きがいを与えてくれる」(75.0%)と「家庭に明るさや活気を与えてくれる」(74.7%)がほぼ同率で最多であった。「子どもの成長とともに自分も成長できる」(64.3%)がこれに続き、「子どもが好きだから」(44.4%)、「夫婦の絆を強くしてくれる」(27.8%)の順となっている。全国調査の最多回答「子どもは人生に豊かさをもたらし、生活を楽しくしてくれる」と同様な傾向である。

このように子どもに精神的な価値を見いだす傾向は、先進工業国に共通のものである。若者たちが、子どもを持つことに肯定的、積極的な意味を感じていることがこの調査結果から明らかになった。彼/彼女らは、子どもを持つことそのものの意味を否定していないのである。しかし、このような「精神的な価値」は、「実利的な価値」（お金を稼いでくれる、家を継いでくれる、など）と異なり、他に代わるもの（「子ども」以上に自分がほしいもの、大切にしたいこと）があれば、それにとって代えられてしまうという側面を持つ。子どもよりも魅力的なもの（たとえば、自由、仕事、趣味、生きがい、など）が優先されることになるのである。子どもが生き生きと育つ環境や、育児と仕事の両立支援といった「子育て・子育ての条件整備」は重要な課題だが、若者たちの価値観や人生観を理解しなければ、子ども数の増加は見込めないだろう。

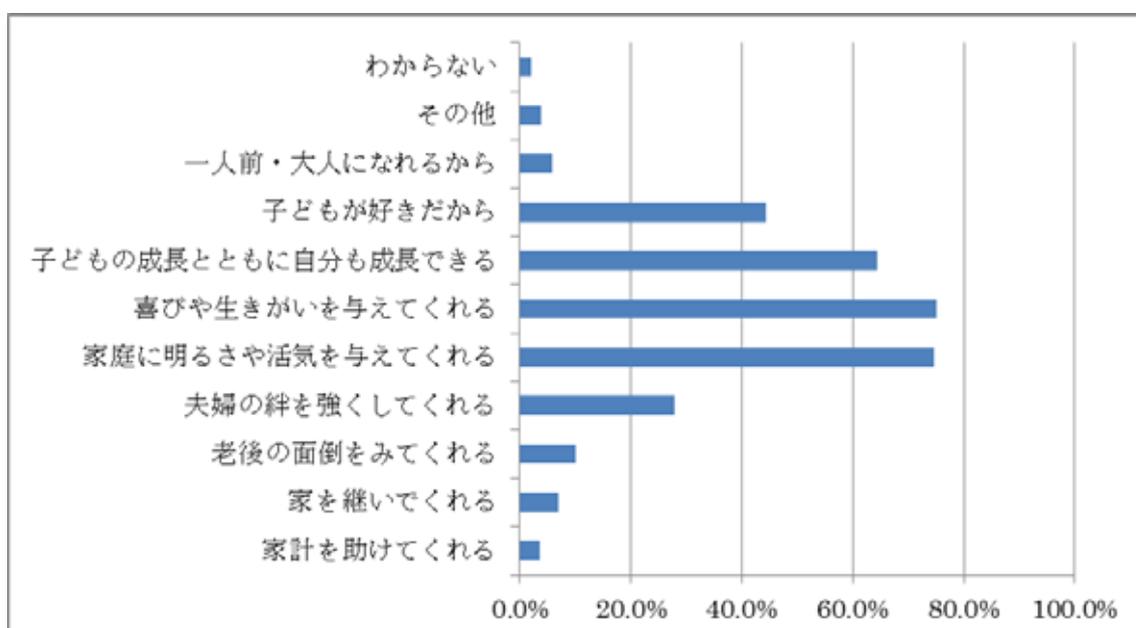


図 5-25 子どもを持ちたい理由 (N=356)

### (3) 希望の子ども数

子どもを持つとしたら何人ぐらいを希望しているのだろうか。「2人」が最多でおよそ7割(68.0%)を占めている。つづいて「3人」が23.3%、「0人」が17.6%、「1人」が6.3%となっている。日本人は、諸外国の人びとと比べて「二人っ子志向」が強いと言われるが、本調査でも同様の結果となった。

ちなみに、全国調査の結果によれば、未婚者(独身者)の平均希望子ども数は、男性が1.91人、女性が2.02人と、ともに過去の調査と比べて低下傾向にある。

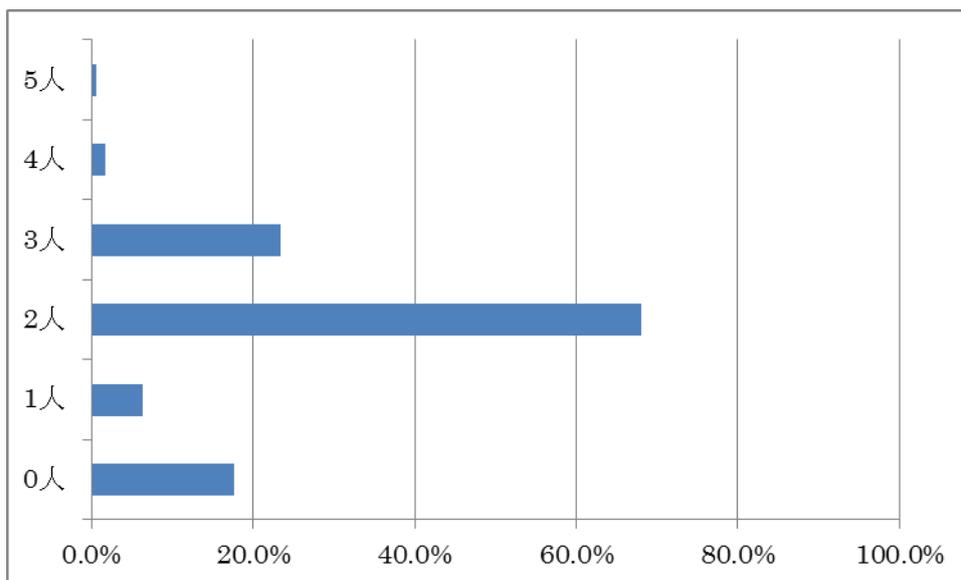


図 5-26 希望の子ども数 (N=347)

**注**

- 1) 国立社会保障・人口問題研究所が 2015 年に実施した全国調査 (18 歳以上 35 歳未満を対象)。
- 2) 平成 26 年度の統計。厚生労働省、2016『人口動態統計 平成 28 年度』
- 3) 小倉 (2003)、20-29

**参考文献**

柏木恵子、2001、『子どもという価値』中央公論新社  
 国立社会保障・人口問題研究所、2016、『第 15 回出生動向基本調査 (結婚と出産に関する全国調査)』  
[http://www.ipss.go.jp/ps-doukou/j/doukou15/doukou15\\_gaiyo.asp](http://www.ipss.go.jp/ps-doukou/j/doukou15/doukou15_gaiyo.asp) [2017-1-8]  
 内閣府、2014、『平成 26 年版 子ども・若者白書』  
<http://www8.cao.go.jp/youth/whitepaper/h26honpen/> [2017-1-8]  
 小倉千加子、2003、『結婚の条件』朝日新聞社

## 第6章 入間市について



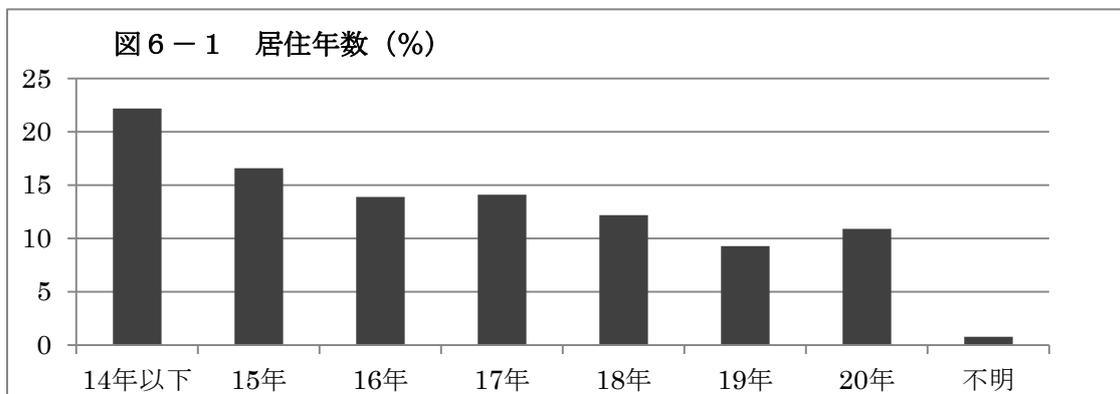
## 第6章 入間市について

山本 和人

### 1. 居住年数と入間市に対する愛着

はじめに、入間市の青少年が入間市にどれほどの期間にわたり住んでいるのか、その居住年数をたずねた結果は、図6-1のようになった。ここでは、14年に満たない年数を「14年以下」とし、また、「21年」と回答のあったものは「20年」に含めてある。

今回対象となった回答者の年齢から考えると、14年以下と回答している22.2%及び不明を除く青少年は、生まれたときから入間市で生活していることになる。

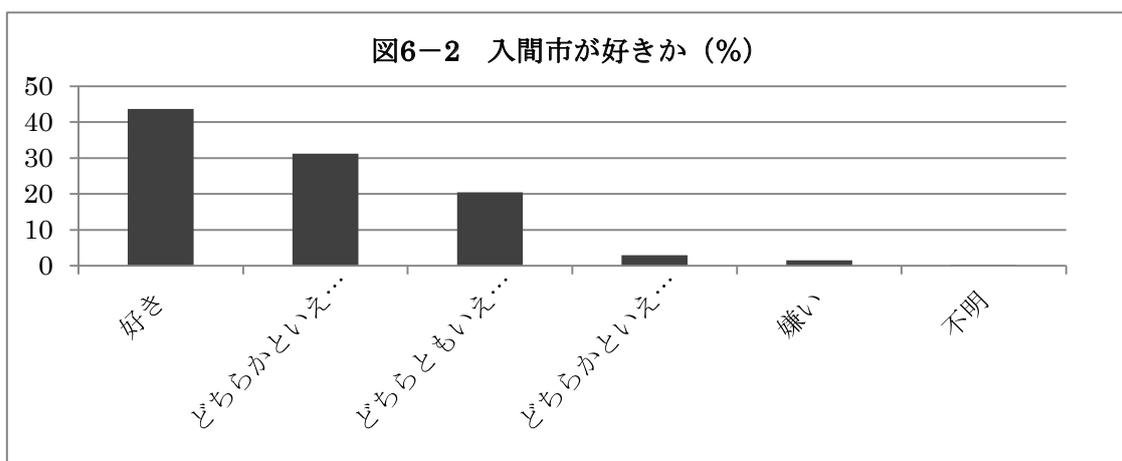


年齢と居住年数をクロスさせると、表6-1のようになった。若干おかしなデータがあるが、家族が転居してきた年と、勘違いしたのかもしれない。各年齢層で60~70%の回答者は、生まれたときから入間市にいると考えられる。

	14年以下	15年	16年	17年	18年	19年	20年	合計
15歳	35.2	60.8	2.4	0.0	0.0	0.0	1.6	100.0 (125)
16歳	28.0	7.5	62.6	1.9	0.0	0.0	0.0	100.0 (107)
17歳	21.4	2.0	4.1	68.4	4.1	0.0	0.0	100.0 (98)
18歳	16.0	4.9	2.5	4.9	70.4	1.2	0.0	100.0 (81)
19歳	15.3	4.7	3.5	8.2	7.1	58.8	2.4	100.0 (85)
20歳	11.4	4.5	3.4	3.4	4.5	4.5	68.2	100.0 (88)
合計	22.4	16.8	14.0	14.2	12.2	9.4	11.0	100.0 (584)

表6-1 年齢×居住年数のクロス集計（数値は%、( )内は実数。以下同じ。）

次に、今回対象となった青少年が、どの程度入間市が好きかについてたずねた結果が、図6-2である。



「好き」という青少年が 43.7% (258 人)、「どちらかといえば好き」という青少年が 31.2% (184 人) で、合計すると 74.9% になり、4 人のうち 3 人までが入間市に好意的である。また、年齢別、性別、居住地区別にクロス集計を行ったところ、居住地区別で統計学的な有意差が見られた。

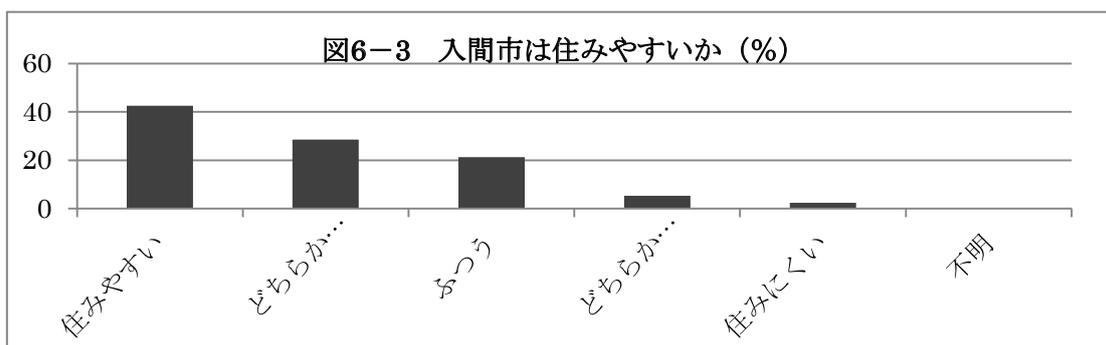
	好き	どちらか といえ ば 好き	どちら とも いえ ない	どちら か とい え ば 嫌 い	嫌い	合計
豊岡	44.9	30.7	21.0	2.3	1.1	100.0 (176)
東金子	36.5	47.6	11.1	3.2	1.6	100.0 (63)
金子	28.3	28.3	32.6	8.7	2.2	100.0 (46)
宮寺・二本木	34.3	40.0	22.9	2.9	0.0	100.0 (35)
藤沢	51.4	24.6	19.4	3.4	1.1	100.0 (175)
西武	42.7	32.0	22.7	0.0	2.7	100.0 (75)

**表 6-2 入間市が好きか×地区別のクロス集計**

「好き」が多い順にみると、藤沢地区、豊岡地区、西武地区、東金子地区、宮寺・二本木地区、金子地区となっている。「好き」と「どちらかといえば好き」を加えると、比率の高い順に、東金子地区、藤沢地区、豊岡地区、西武地区、宮寺・二本木地区、金子地区となっている。数値は多いとはいえないが、金子地区の青少年の 10.9%は入間市を好きではないといえる。

## 2. 入間市の住みやすさ

ここでは、青少年が入間市に対して「住みやすさ」をどのように感じているかを示すのが図 6-3 である。「住みやすい」42.5% (251 人)、「どちらかといえば住みやすい」28.5% (168 人) で、合計 71.0%の青少年は「入間市は住みやすい」と考えている。



住みやすさとの関係では、年齢とのクロスや性別でのクロス集計で、統計学的な有意差は見られなかった。しかし、「祖父母がいるかどうか」「居住地区」とのクロス集計では、危険率1%以下で有意差があった。隠れた要因があるかもしれないが、「祖父母がいる」青少年（数値は小さい）の「住みにくい」「どちらかといえば住みにくい」を合わせて15.0%であり、「祖父母がいない」青少年の5.8%と比較すると多いといえる。また、「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」を合わせた比率は、「祖父母がいる」青少年では60.0%、「祖父母がいない」青少年では73.9%と、「祖父母がいない」青少年の方が、住みやすいと考えているようである。

地区別のクロス集計では、「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」を合わせた比率を地区別でみると、比率の高い順に、藤沢地区78.3%、豊岡地区と西武地区72.0%、東金子地区71.9%、金子地区52.2%、宮寺・二本木地区48.6%となっており、地域によりかなりの違いがあることが分かる。

	豊岡	東金子	金子	宮寺・ 二本木	藤沢	西武
自然が多いから	4.0	11.1	37.5	0.0	7.2	23.6
人々が親切だから	4.0	8.9	4.2	5.6	4.3	3.6
公共交通機関が整備されているから	24.6	26.7	8.3	11.1	26.8	20.0
道路が整備されているから	0.0	2.2	0.0	0.0	2.2	0.0
静かでのんびりしているから	26.2	28.9	41.7	72.2	24.6	27.3
物価や地価が安いから	0.0	0.0	4.2	5.6	0.7	0.0
病院や福祉施設などが整っているから	0.0	0.0	0.0	0.0	0.7	0.0
買い物などが便利だから	15.1	8.9	0.0	0.0	12.3	5.5
なんとなく	19.8	13.3	4.2	0.0	18.8	18.2
その他	4.8	0.0	0.0	5.6	2.2	0.0
不明	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	1.8
合計	100.0 (126)	100.0 (45)	100.0 (24)	100.0 (18)	100.0 (138)	100.0 (55)

表6-3 地区別×住みやすい理由

住みやすい理由を地区別にクロス集計をしたところ、危険率 1%で統計的に有意な結果となり、前ページの表 6-3 のようになった。この表は本来、表側・表頭を入れ替えた形式が正しいと思われるが、それぞれの地区において、どのような事柄が住みやすさにつながっているかを見るために、入れ替えたものである。「住みやすい」という回答が多い藤沢地区では、「公共交通機関が整備されているから」「静かでのんびりしているから」という回答が多い。また、2 番目に多かった豊岡地区・西武地区では、順位が異なるものの、「静かでのんびりしているから」「公共交通機関が整備されているから」という回答が多い。

そのほか、年齢別のクロス集計では有意差は見られなかったものの、性別のクロス集計では有意差(危険率 5%水準)が見られた。結果は次の表 6-4 のとおりである。男性は「自然が多い」理由をあげ、女性は「静かでのんびりしている」をあげる青少年が多い。

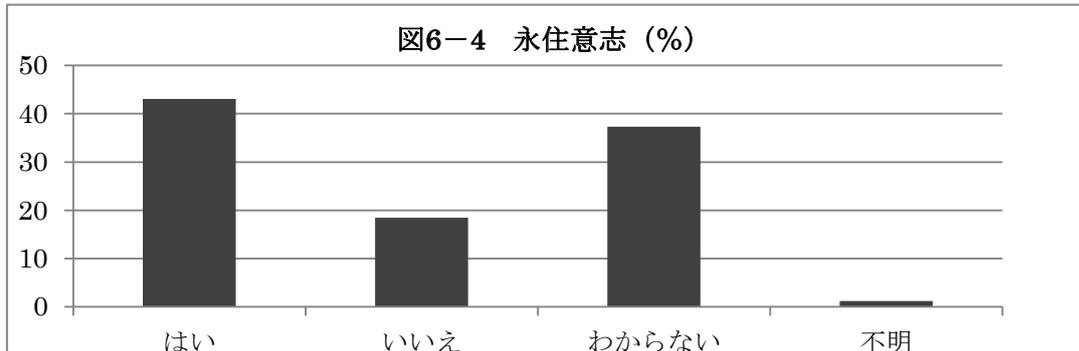
	自然が多いから	人々が親切だから	公共交通機関が整備されているから	道路が整備されているから	静かでのんびりしているから	物価や地価が安いから	
男性	15.1	6.5	21.6	1.5	27.6	1.0	
女性	5.9	3.2	24.3	0.5	30.2	0.5	
	教育環境が良いから	病院や福祉施設などが整っているから	買い物などが便利だから	なんとなく	その他	不明	合計
	0.00	0.50	9.00	13.60	3.00	0.50	100.0(199)
	0.50	0.00	11.30	21.20	1.80	0.90	100.0(222)

表 6-4 性別×住みやすい理由のクロス集計

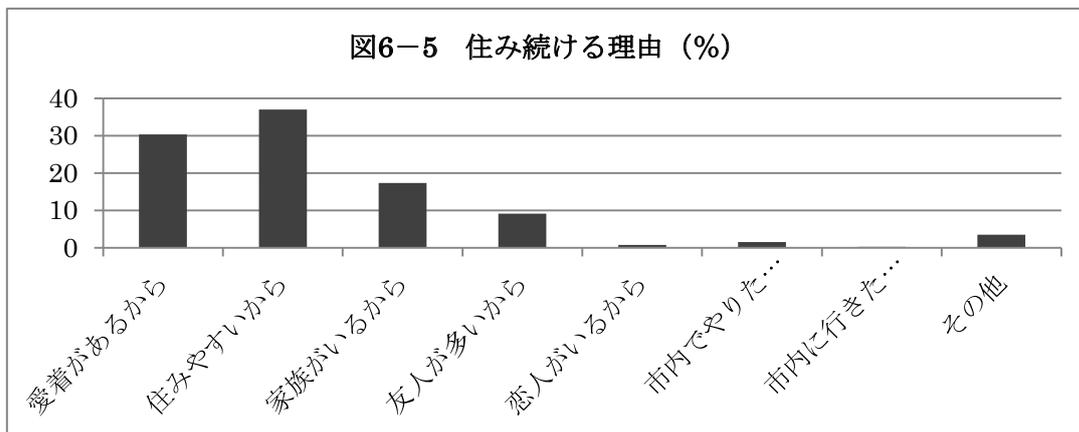
一方、回答者数の 92.0% (543 名) の青少年は住みやすいとしているが、47 名 (8.0%) が「住みにくい理由」をあげている。そこであげられている事柄は、「公共交通機関が整備されていない」というもので、47 人中 18 人が回答している。

### 3. 永住意志

「今後もずっと入間市に住んでいきたいかどうか」という、永住意志については、次の図のとおりである(図 6-4)。「今後も住み続けたい」という青少年は 43.1% (254 名)、「住み続けたくない」が 18.5% (109 名)、「わからない」とする青少年は 37.3% (220 名)であった。

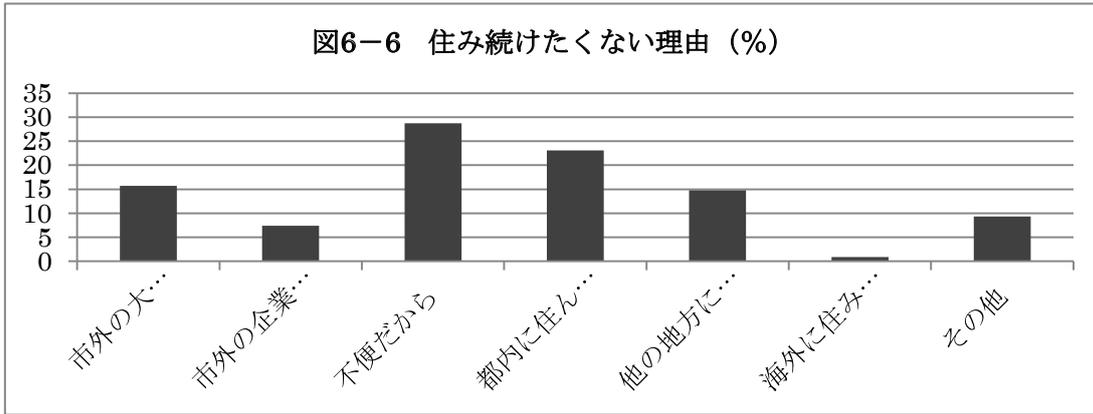


永住意志については、性別、年齢や居住地区別のクロス集計では有意差はなかった。性別、年齢、居住地区別に関わりなく、青少年は図 6-4 のような考えを持っているということである。



住み続ける理由については、図 6-5 のとおりである。なお、「住み続ける」という回答総数は 254 である。図から分かる通り、住み続ける理由の第 1 位は「住みやすいから」(37.0%) であり、2 位は「愛着があるから」(30.3%)、3 位は「家族がいるから」(17.3%) という回答であった。

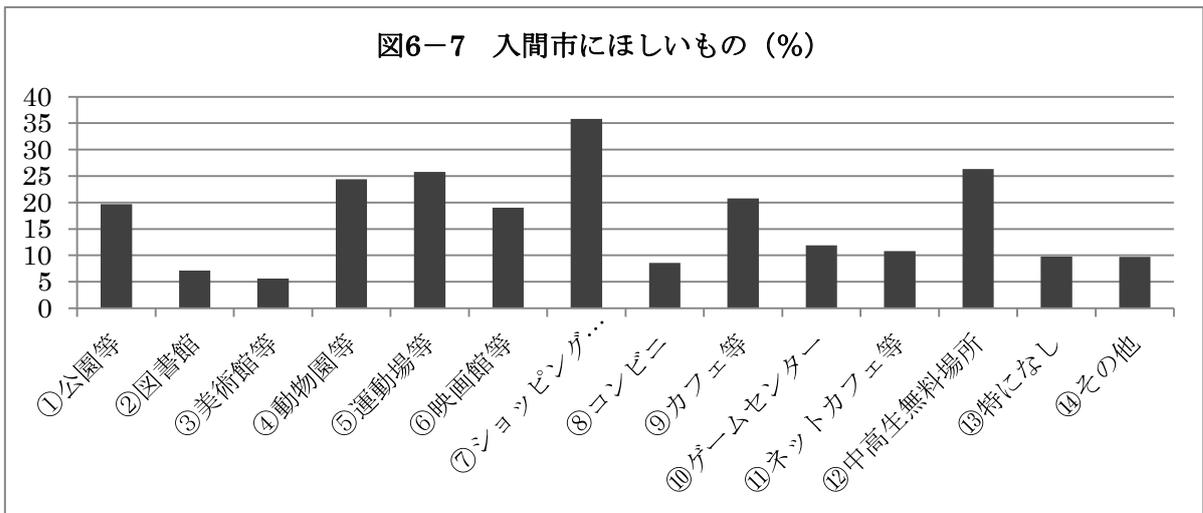
また、「住み続けたくない」という青少年の理由は、次の図 6-6 のとおりである。住み続けたくないとする青少年は 108 名であり、その内訳である。最も多いのが「不便だから」31 名 (28.7%) であり、次が、「都内に住んでみたいから」25 名 (23.1%) である。



#### 4. 入間市に希望するもの

##### 4. (1)入間市にほしいと思うもの

これから入間市にほしいものを、3つまで選んでもらった結果が図6-7である。最も欲しいと思われているものは、「大型ショッピングモール、ショッピングセンター」(35.8%、211名)、次が、「中学生や高校生が無料で使えるところ」(26.3%、155名)、



第3位が、「運動場、体育館、スポーツセンター」(25.8%、152名)、第4位が「動物園・水族館・植物園」(24.4%、144名)などとなっている。

これら欲しいものについて、性別、年齢、居住地区、居住年数とのクロス集計を行った結果、有意差について次の表のような結果となった。表の数が多いので、一覧表を示すのにとどめる。

欲しいもの	クロス項目	結果	$\chi$ 自乗値	欲しいもの	クロス項目	結果	$\chi$ 自乗値
①公園等	性別	○	0.048	⑧コンビニ等	性別	○	0.016
	年齢	×	0.517		年齢	×	0.705

	居住地区	○	0.013		居住地区	○	0.000
	居住年数	×	0.845		居住年数	×	0.819
②図書館	性別	×	0.492	⑨カフェ等	性別	○	0.001
	年齢	○	0.027		年齢	○	0.001
	居住地区	○	0.019		居住地区	○	0.001
	居住年数	×	0.465		居住年数	○	0.015
③美術館等	性別	○	0.023	⑩ゲームセンター	性別	×	0.066
	年齢	×	0.196		年齢	○	0.032
	居住地区	×	0.951		居住地区	×	0.314
	居住年数	○	0.028		居住年数	○	0.011
④動物園等	性別	○	0.000	⑪ネットカフェ等	性別	×	0.516
	年齢	×	0.868		年齢	×	0.316
	居住地区	×	0.921		居住地区	○	0.001
	居住年数	×	0.158		居住年数	×	0.965
⑤運動場等	性別	○	0.000	⑫中高生無料場所	性別	×	0.117
	年齢	○	0.050		年齢	○	0.000
	居住地区	×	0.105		居住地区	×	0.486
	居住年数	×	0.208		居住年数	○	0.000
⑥映画館等	性別	○	0.006	⑬特になし	性別	×	0.064
	年齢	×	0.630		年齢	×	0.299
	居住地区	×	0.980		居住地区	×	0.714
	居住年数	×	0.681		居住年数	×	0.531
⑦大型ショッピングモール等	性別	○	0.000	⑭その他	性別	×	0.494
	年齢	×	0.414		年齢	○	0.035
	居住地区	×	0.684		居住地区	○	0.007
	居住年数	○	0.006		居住年数	×	0.674

表 6-5 入間市にほしいものとクロス集計をした際の有意差の有無について

- ①公園等は、女性（17.8%）よりも男性（23.8%）の方が望んでいる。また、20歳以上の年齢層では27.2%が望んでいる。
- ②図書館は、20歳以上の年齢層で多く望まれている（16.0%）。居住地区では、「東金子地区」の青少年が多く望んでいる（18.0%）。
- ③美術館等は、男性（3.5%）よりも女性（7.7%）の方が多く欲しいと思っている。居住年数では「19年」の青少年が15.1%と他の年数の層の2倍から3倍になっている。
- ④動物園等については、男性（18.8%）よりも女性（31.9%）のほうが多く希望している。
- ⑤運動場等は、女性（17.8%）よりも男性（38.1%）の方が希望は多い。また、年齢別では、16歳から19歳に必要とされている。16歳では34.7%、17歳では34.4%、18歳では28.4%、19歳では27.2%となっている。15歳、20歳ではそれぞれ19.7%、20.3%である。

- ⑥映画館等は、男性（15.4%）よりも女性（24.2%）に多く求められている。
- ⑦大型ショッピングモール等は、男子（27.7%）よりも女性（46.6%）に多い。居住年数別では、年数によってまちまちである。最も高い数値を示したのは「16年」の青少年で50.7%、次が「14年以下」で44.7%、次いで「19年」の青少年が39.6%となっている。
- ⑧コンビニ等は、男性（11.9%）に多く、女性（6.4%）は少ない。居住地区では、金子地区（26.2%）、宮寺・二本木地区（25.8%）と多く、他の地域では多くても10%で、西武地区では1.4%となっている。
- ⑨カフェ等については、4項目すべてで、有意差が見られた。男性（15.8%）よりも女性（27.5%）に多く、年齢層では、18歳で24.7%、19歳で38.3%、20歳で25.9%である。15歳から17歳は20%に満たない。地区別では、金子地区では50.0%の青少年が選んでおり、最も低い藤沢地区でも18.7%が望んでいる。居住年数別では、「17年以上」の青少年で25%を超えており、最も多いのが「19年」で、37.7%である。
- ⑩ゲームセンターについては、女性（10.4%）よりも男性（15.0%）に多い。居住年数別では、「14年以下」が最も多く20.3%となっている。次に多いのが「15年」で17.7%、続いて「18年」の10.1%である。
- ⑪ネットカフェ等については、居住地区に差が見られたが、最も多いのが宮寺・二本木地区で25.8%、続いて豊岡地区で16.3%、他の地区は10%に満たない。金子地区は0%であった。
- ⑫中学生、高校生が無料で使えるところについては、15歳で37.7%、16歳で48.5%、17歳で40.9%であった。18歳では9.9%と下がっている。居住年数別では、「14年以下」が30.1%、「15年」が37.5%、「16年」が42.7%、「17年」が38.8%である。「18年」では、11.6%になっている。
- ⑬「特になし」という回答は、4項目のクロス集計では特に有意差のあるものはなかった。男女、年齢、居住地区、居住年数に関係なく、同じ結果であるといえる。
- ⑭「その他」については、今回特に内容を書いてもらう質問ではなく、○をつけてもらっただけである。したがって、どのような内容があるか不明であるが、今回掲げたもの以外に、要望があるということである。年齢では、15歳で14.8%、18歳で16.0%、20歳で12.3%と、「節目」の年齢で「欲しいものがある」とする青少年が多いが、それ以外では6%前後である。居住地区では、宮寺・二本木地区で最も多く29.0%、西武地区で12.9%、藤沢地区では10.5%、他の地域は10%に満たない。

#### 4. (2)入間市にもっと良くなってほしいところ

入間市について、「もっと良くなってほしいところ」を記入してもらう質問をした結果、実に590名中354名の青少年から提案や要望の記入があった。具体的内容については巻末の付録に示すとおりである。「特になし」「満足している」「わからない」、という回答は削除してある。この分析については、様々な角度から可能であろうが、青少年が見ている入間市の現状が分かるように思われる。

#### 5. 地域（入間市）とのつながり

ここでは、青少年の地域社会とのつながりを、7項目について、どのように関わって

るかをみることにする。

	とても そうだ	そうだ	どちら でもない	そうで ない	全くそ うでな い	不明	合計
1 ご近所の人とあいさつ や話をよくする	19.0	39.2	21.2	13.9	6.6	0.2	100.0 (590)
2 地域の行事や活動によ く参加している	5.1	13.9	26.3	32.7	21.9	0.2	100.0 (590)
3 地域に公園やたまり場 など憩いの場がある	13.4	27.8	24.6	20.7	13.2	0.3	100.0 (590)
4 いざというときに頼れ る地域の人がいる	11.7	20.2	31.5	19.2	16.9	0.5	100.0 (590)
5 その地域に愛着がある	24.7	33.2	24.1	10.0	7.6	0.3	100.0 (590)
6 ご近所の方によくお世 話になっている	14.1	25.4	28.8	16.8	14.6	0.3	100.0 (590)
7 地域・ご近所との関係 は良好である	20.5	39.0	30.2	5.6	4.4	0.3	100.0 (590)

表 6-6 青少年の地域社会との関わり

「1 ご近所の人とあいさつや話をよくする」ということについては、「とてもそうだ」と「そうだ」とを合わせると 58.2%になる。以下同様に、合計比率を求めてみると、順位は次のようになる。比率が高い順に、

- 「7 地域・ご近所との関係は良好である」 59.5%、
- 「1 ご近所の人とあいさつや話をよくする」 58.2%、
- 「5 その地域に愛着がある」 57.9%、
- 「3 地域に公園やたまり場など憩いの場がある」 41.2%、
- 「6 ご近所の方によくお世話になっている」 39.5%、
- 「2 地域の行事や活動によく参加している」 27.1%、
- 「4 いざというときに頼れる地域の人がいる」 21.9%、となっている。

項目の、7、1、5については、60%すなわち5人のうち3人の青少年が肯定的であり、地域社会との関係は良好であるといえそうである。

また、3、6の項目も40%ほどの青少年が肯定している。憩いの場、人間関係の空間が5人のうち2人はそれなりのものを持っているといえよう。しかし、2、および4の項目では、2割から3割と、他に比べれば低い値となる。

逆に、「そうでない」と「全くそうでない」を合計した比率は、地域社会との関係が望ましくないことを表わしている。同様に計算すると、比率が高い順に、

- 「2 地域の行事や活動によく参加している」とはいえない青少年が 54.6%、

- 「4 いざというときに頼れる地域の人がある」とはいえない青少年が 36.1%、  
「3 地域に公園やたまり場など憩いの場がある」とはいえない青少年が 33.9%、  
「6 ご近所の方によくお世話になっている」とはいえない青少年が 31.4%、  
「1 ご近所の人とあいさつや話をよくする」とはいえない青少年が 20.5%、  
「5 その地域に愛着がある」とはいえない青少年が 17.6%、  
「7 地域・ご近所との関係は良好である」とはいえない青少年が 10.0%、となっている。

この結果から見ると、「2 地域の行事や活動によく参加している」青少年の 2 倍にあたる青少年は「参加していない」ということになり、青少年が思っていることと、実際の間にはズレのようなものがあると想定される。「関係が良好である」と思っていたり、「あいさつをよくしている」と思っている、「地域行事への参加」が少ない事や、「いざというときに頼れる人がいない」というのでは、快適な地域社会とはいえないのではないだろうか。

ここでも、それぞれの質問と、性別、年齢、居住地区、居住年数とのクロス集計を行い、有意差のあった項目を示すと、表 6-7 のとおりであった。

質問	クロス項目	結果	$\chi$ 自乗値
(1) ご近所の人とあいさつや話をよくする	性別	×	0.692
	年齢	×	0.366
	居住地区	×	0.191
	居住年数	×	0.126
(2) 地域の行事や活動によく参加している	性別	×	0.333
	年齢	○	0.000
	居住地区	×	0.620
	居住年数	×	0.167
(3) 地域に公園やたまり場など憩いの場がある	性別	×	0.247
	年齢	○	0.019
	居住地区	×	0.835
	居住年数	×	0.605
(4) いざというときに頼れる地域の人がある	性別	×	0.183
	年齢	×	0.176
	居住地区	×	0.077
	居住年数	×	0.729
(5) その地域に愛着がある	性別	×	0.556
	年齢	×	0.486
	居住地区	×	0.816
	居住年数	○	0.004
(6) ご近所の方によくお世話になっている	性別	×	0.815
	年齢	○	0.004

(7) 地域・ご近所との関係は良好である	居住地区	×	0.598
	居住年数	×	0.290
	性別	×	0.268
	年齢	×	0.771
	居住地区	×	0.296
	居住年数	×	0.749

表 6-7 クロス集計の $\chi^2$ 自乗検定結果

(1)「ご近所の人とあいさつや話をよくする」については、いずれの項目とも有意差はなかった。したがって、性別や年齢、居住地区、居住年数に関係なく、青少年の地域との変わりが見られるということになる。

(2)「地域の行事や活動によく参加している」については、年齢とのクロス集計において、有意差が見られた。行事や活動に参加している青少年は、年齢によって異なるが、「とてもそうだ」「そうだ」の合計比率は、15歳では28.0%、16歳では13.0%、17歳では23.5%、18歳では16.9%、19歳では23.3%、20歳では5.7%となっている。15歳、17歳、19歳で高いが、20歳では5.7%にまで減ってしまう。この年齢で地域離れが始まるのかもしれない。

(3)「地域に公園やたまり場など憩いの場がある」の項目では、年齢とのクロスに有意差が見られた。15歳から年齢が上がるにつれて、「とてもそうだ」「そうだ」の比率は下がってくる。

	とてもそう だ	そうだ	どちらで もない	そうでな い	全くそう でない	合計
15歳	21.0	32.3	20.2	18.5	8.1	100.0 (124)
16歳	12.0	30.6	29.6	17.6	10.2	100.0 (108)
17歳	15.3	23.5	25.5	27.6	8.2	100.0 (98)
18歳	13.3	25.3	25.3	22.9	13.3	100.0 (83)
19歳	5.8	30.2	24.4	20.9	18.6	100.0 (86)
20歳	9.1	23.9	23.9	18.2	25.0	100.0 (88)
合計	13.3	27.9	24.7	20.8	13.3	100.0 (578)

表 6-8 年齢×「地域に公園やたまり場など憩いの場がある」

(4)「いざというときに頼れる地域の人がある」の項目では、いずれの項目でも、有意差は見られなかった。危険率が0.077ということで若干居住地区による差がみられるような感じもあるが、統計学的には有意差があるとはいえない。

(5)「その地域に愛着がある」の項目では、居住年数との関係で有意差が見られた。

居住年数が増加するにしたがって愛着度は高まる傾向がある。その一方で、20年以上になると愛着度が低い青少年が2割ほどに増える。

	とてもそ うだ	そうだ	どちらで もない	そうでな い	全くそう でない	合計
14年以下	15.3	29.0	26.7	16.0	13.0	100.0 (131)
15年	35.1	34.0	19.6	9.3	2.1	100.0 (97)
16年	20.7	39.0	26.8	8.5	4.9	100.0 (82)
17年	24.4	29.3	26.8	13.4	6.1	100.0 (82)
18年	33.3	26.4	23.6	8.3	8.3	100.0 (72)
19年	29.1	47.3	18.2	1.8	3.6	100.0 (55)
20年以上	21.9	37.5	20.3	6.3	14.1	100.0 (64)
合計	24.9	33.6	23.7	10.1	7.7	100.0 (583)

表6-9 居住年数×「その地域に愛着がある」

(6)「ご近所の方によくお世話になっている」という項目は、年齢との関係で有意差が見られた。15歳から17歳で、「とてもそうだ」「そうだ」の比率が高い。具体的に何ををもって「お世話になっている」と考えているのかの検討が必要であろう。

	とてもそ うだ	そうだ	どちらで もない	そうでな い	全くそう でない	合計
15歳	15.3	30.6	30.6	12.1	11.3	100.0 (124)
16歳	10.2	26.9	31.5	22.2	9.3	100.0 (108)
17歳	23.5	24.5	27.6	14.3	10.2	100.0 (98)
18歳	15.7	15.7	31.3	21.7	15.7	100.0 (83)
19歳	9.3	34.9	19.8	15.1	20.9	100.0 (86)
20歳	9.1	18.2	31.8	17.0	23.9	100.0 (88)
合計	14.0	25.6	29.0	16.9	14.7	100.0 (587)

表6-10 年齢×「ご近所の方によくお世話になっている」

(7)「地域・ご近所との関係は良好である」の項目では、年齢等の項目との関係では、有意差が見られなかった。「ご近所の人とあいさつや話をよくする」の場合と同様、青少年は特に性別や年齢、地区の違いなく、地域との良好な関係を保っている青少年が多いといえる。しかし、一方で、良好とはいえない青少年が10%程度存在しているということを忘れてはならない。

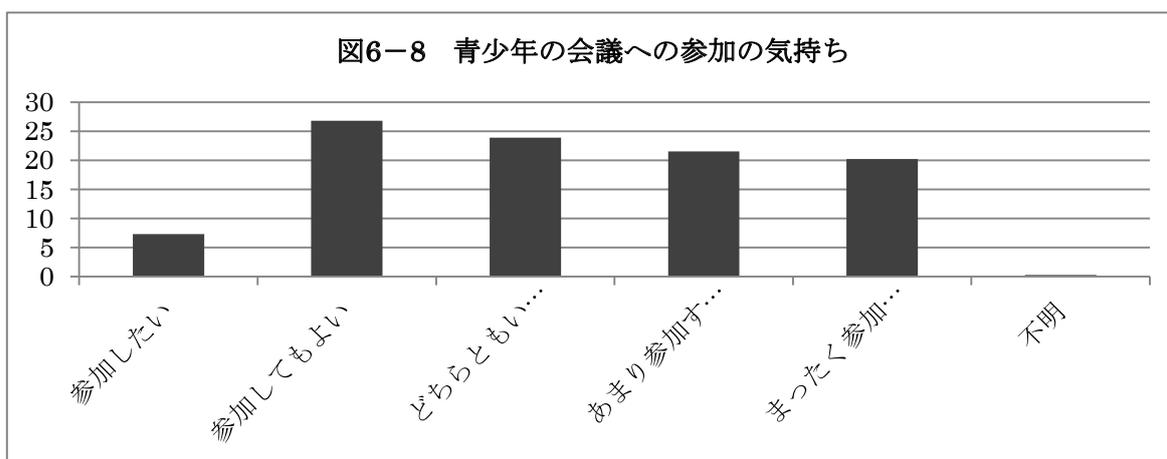
## 6. 「青少年会議」への参加意思

現在、入間市では「青少年会議」という取り組みが、教育委員会生涯学習課のもとで、小学校高学年を対象に事業化されている。子どもたちが検討した内容から、市長への提言

を行うというもので、市民と行政が共同して取り組む事業に位置づけられている。

そのような事業の発展を図ることが、平成 28 年 3 月に出された「地域創生総合戦略」の施策を実行していく一つになり、中学生以上の青少年を巻き込んだ取り組みが必要になって来ている。

そうした可能性を知るためにも、青少年の意向をとらえておく必要がある。次の図は、「まちづくりのための青少年が集まる会議を開くとしたら、あなたは参加する気持ちがありますか」とたずねた結果である。



「参加したい」という回答が 7.3%、「参加してもよい」が 26.8%、「どちらともいえない」23.9%、「あまり参加する気はない」21.5%、「全く参加する気はない」20.2%で、参加する可能性のある青少年は 34.1%になり、およそ 3 人に 1 人は可能性があるといえる。

	参加したい	参加してもよい	どちらともいえない	あまり参加する気はない	まったく参加する気はない	合計
男性	10.9	23.6	21.7	20.3	23.6	100.0 (276)
女性	4.2	29.7	26.1	22.9	17.1	100.0 (310)

**表 6-11 性別×参加意思**

先にみたとおり、入間市を良くしたいということについての意見は、様々なことに及んでいる。また、ここでも性別とのクロス集計で、有意差が見られた。

積極的に「参加したい」という青少年の比率は男性の方が高いが、控えめに「参加してもよい」とする比率は女性の方が高い。しかし、2つを合計すると男性 34.5%、33.9%となり、ほぼ同じ比率である。「参加する気が無い」とする比率は、女性 (40.0%) に比べ男性 (43.9%) の方がやや多い。

居住地区や居住年数、年齢によってなどの違いは見られないので、機会のあるごとにアピールしていくことが求められよう。



資料

問 31「入間市にもっとよくなしてほしいところ」  
(自由回答)の結果



## 資料： 問 31 「入間市にもっとよくなってほしいところ」（自由回答）の結果

記入者数＝590 名中 354 名（「わからない」、「無し」「満足」を除く）

河原町交差点は歩行のゆっくりなおとしよりは横断途中で信号が青から赤に変わってしまうので R16号のような道路の横断歩道は体の不自由な方に易くないと思います。入間市駅北口も南口同様歩行者用の道を R16号の上に乗ってほしい。黒須地区や笹井のお年寄りには駅に行くのに坂が辛いとのこと、エスカレーターやエレベーターで昇れて上の道を歩いて入間市駅まで行けたら楽になると思う。楽器の練習ができる場所があると嬉しい。近所に気を使いながらの練習、防音工事はお金がかかるため、一般家庭では無理、おもいきり音を出して練習できる場所があると嬉しい

入間市駅のバスロータリーのトイレをきれいにしてほしい（駅のトイレも）・図書館に受験生用の隔離勉強スペースを作ってほしい（今すぐ）、今は子供たちの遊び場がない。豊岡の方は大きな公園があるが、新久の方は中学生など小学校で遊んでいると先生に怒られるし、中学校では遊べないし、道路でボールで遊んでいたら、うるさくて住民に怒られて遊べなくなった（公園はあるが小さい子が遊んでいるので中学生とかは遊べない）

金子駅周辺にコンビニなどがあると便利・金子の交通機関（バス）を便利にしてほしい・金子地区にお店（コンビニなど）を増やして便利にほしい

金子公民館のところにミラーを付けてほしい（視界が見えない）。朝駅に行くときに何回も車にひかれそうになる。・金子駅の近くに新しい家ができて視界が全く見えない。あそこで死人がでるとおもう。なんであそこにミラーをつけないのかが意味わかんない。子ども、年寄りを殺したいんですか？もうちょっと工夫したほうがいいと思いますよ？？いったところで何もかわりやしないと思いますが、みんなのためを思って書きましたー

公共交通機関・公園など子供が安心して遊べる場所

公共交通機関をもう少し広範囲にほしい。また横断歩道の整備を見直してほしい

殺人やチカンなど、ぶっそうなのでもっと昼間でも、防犯面を充実させてほしいです。・もっとバスをいっぱい走らせてほしいです（ハツ池のあたり）・もっと本屋さんがあればいいなと思います

バスを増やす・武蔵藤沢駅の改札口を増やす（上り方面側、かつ稲荷山公園側の踏切付近）

藤沢駅周辺の活性化・公共（バス）の発展

仏子の所の歩道を広くしてほしい・（高倉小の前の道路をきれいにするお金があるなら）入間市駅前の道路工事を急いでほしい（進まなすぎ）・夜遅くに防災入間の迷い人の放送をしないでほしい（音量をせめて下げて）

もっと公共で使える静かな場所がほしい・駐輪場を増やしてほしい

有名なコンビニを立ててほしい・あそべる場所が遠い・Loft や東急ハンズがほしい・電線を地中にうめて、街をおしゃれにした方が良い

夜暗すぎ・交通の便が悪い地域があるのでなおしてほしい・若者が行ける店がない・公園が古すぎる・道路が悪い

16号の整備をもっと早く

JR の駅を増やしてほしい

遊べる場所をたくさん欲しい

あいさつが少し少ない

アウトレット以外にもショッピングモールがほしい。バスを時間通りにきてほしい

アウトレットの前の道のこみぐあい

空き地などに工場でなく木を埋めるとか、遊具を作り子供が遊べる所を作れば、家でゲームやスマホをいじらず、学校の友達と遊べると思う。

アスファルト

遊べる場所がほしい

アミューズメント施設の充実化

あらゆるセンスが無い

歩きスマホをしている人が減ってほしい。通学に自転車をつかっているのに、歩きスマホをしている人を見るととても心配になる。

歩きタバコをしてはいけない条例を作ってほしいです

家を増やさないで茶畑とかの自然を大切にしてほしい

田舎すぎるからもうちょっと建物を増やしてほしい

稲荷山公園と狭山市駅をつなげてほしい

イベントが増えてくれればいいと思う

今のままでいいと思います。強いて言えば、もっと新しい物をいろいろな方面から取り入れたら、もっと楽しさあふれると思います。

今のままでも十分だと思う、防犯とかは大事かも

今のままでも十分良いと思います

医療関係のこと

医療費を高校まで免除

入間市駅がもっと明るくなってほしい

入間市駅周辺の施設

入間市そのものは何も悪い所はないと感じる。ただし、願わくば東に 20km 程移動してほしい。または入間市駅始発の急行がほしい

入間市ならではのイベントは楽しくて盛り上がると思います。(ホツタラケの島、暗殺教室等)

入間市に限りませんが、ポイ捨てなどへの対応、環境美化です。学校の行事でゴミひろいをした時に短い時間で多くのゴミがひろえたため。

入間市の歴史の教育に力を入れてほしい

入間市は家があるからいるだけでありますので特に何もありません。しかし、強いて言うならば大型書店が少ないことが挙げられます。

入間市は活気が無いと感じるので、もっと知名度を上げる為に色々な事に挑戦して頂きたいです

いろんな人が使用できる公共の場を増やしてほしい

飲食ができて、静かで学生が勉強できるような施設がほしいです

飲食店を増やしてほしい

インフラが不十分(暗すぎる、道路が凸凹)、都市ガスがほしい

運動ができるところ

運動施設の充実

映画館があるのはとれもうれしいけど、その周りにお店を充実させたら、入間に来る人も増えると思う(他の市から来た人は映画

を見るために入間に来るけど、あとは特になにもないからつまらないといっていた)

映画もラウンドワンもあってよいが大きいプールと水族館がほしいです

駅(電車とかモノレール)があれば楽になる

えき行き(最寄り)のバス停が近くに欲しい。あとファミレス、ゲームセンターとかもっと増やすと良いと思います。

駅から遠くなるとバスが少ない

駅周辺の開発

駅周辺の活性化

駅周辺を栄えさせてほしい、三井アウトレットからプレミアムアウトレットにしてほしい

駅周辺をもっと発展させてほしい

駅近くの西武バスの本数は多いのに、私が住んでいる地区まで走るバスの本数が少なすぎて、多くの人が不便を感じています。

みんなが満足できる市になってほしいので、バスの本数を増やして、公共交通機関の整備をしてほしい。

駅近に無料のくつろぎスペースが欲しい

駅の周囲にショッピングモールなどを作ってほしい

駅の近くに何もないので、カフェやファーストフード店などがほしい

駅の中に勉強できるスペースがほしい

駅のロータリーが道が悪いし危ない、駅のトイレが汚い

駅前にスタバを作ってほしい

駅前を少し都会っぽく!

駅までのアクセスを市内で豊かにしてほしい、バスの本数を増やしてほしい

大きくて行きたくくなるような図書館

お茶は自産自費のように狭山茶をもっと使ってほしい

お祭りにもっと積極的になる

お店が少ないのももっと増やしてほしい。(特に自分の住んでいる地域)

海外の人とのふれあいをもっとふやしてほしい(国際交流の場)

外灯などを増やす(夜道が暗いから)

街灯がない所が多く(農道)、夜道とか危ないと思うので、防犯の為に暗い所には街灯を設置して欲しい

街灯の増設、歩行者が安全に通れる歩道の確保、図書館の利用のしやすさの拡充、住民が愛着をもち、来訪者も魅力を感じられるようなまちづくり、市内PRの強化

外灯を増やしてほしい

街灯を増やしてほしい、人が歩く道幅が狭い

街灯を増やして欲しい、夜怖い

街灯を増やすなどして明るくしてほしい

街灯をもっと増やして欲しい(駅の周辺等)

各駅に遠いのでシャトルバスを増やしてほしい、もしくはマイクロバスクラスの小さい車体で路線バスを増やしてほしい

学生の運動場があると良い

学力が偏る高校しかない。だから誰もが入学しやすい高校がほしい

固まった場所に店を置くのではなく、点々とみんなが行きやすい所に店が欲しい  
学校にエアコンつけてほしい(中学校・小学校など)  
学校にエアコンをつけてほしい、子どもの声をもっときいて  
金子・宮寺地区の交通網の貧弱さを改善してほしい  
金子駅が不便。本数が少ないことと、ホームに屋根がない、また入間市に行くにしてもバスの本数が少ない  
金子地区は公共交通機関が通っていますが、鉄道、バス共に本数が少ないのでもう少し本数を増やしてもらいたい  
金子に住んでいるのですが、夜歩くときに、電灯が本当に少ないので暗くて困っています。明るすぎても困りますが、根通りだけでなく(まあ根通りも暗いのですが)細部にも電灯が設置されれば、私は嬉しいです。  
カフェなど安くて気軽に入れる所がほしい  
川に橋を架けて交通の便を良くしてほしい  
環境、市民会館をもっときれいにしてほしい  
環境整備を整えてほしい  
環境にやさしくなってほしい  
環境を良くしてほしい  
企業を増やして頂きたい。子どもへの支援  
基地と地域を連携してほしい  
休日の入間市博物館の方まで行くバスの本数が増えてほしい  
休日のバスがアウトレット直通ばかりで通学などのときに不便  
教育環境の充実(特に経済的支援の拡大)  
教育に対する意識の低い人が、都内に比べて多いと思う。都内に住んでいる友人に聞くと、中学校受験を8割くらいと言っていたので、そのような地域に比べると意識が低いと思う。また大手の塾があまりないので選択肢が少ない。  
教育費用削減(学費)  
行政道路付近から入間市駅へのバスが欲しいです  
巨大テーマパーク  
筋トレをしたいのでGYMを作ってほしいです  
空港を設ける  
臭い  
くさいですね。家の周りがとくに、お茶の事よりも住みやすさを良くしてみてもどうでしょう?コンビニなど、かなり遠いです。色々な事に関して不便です。  
暗い道が多いので、もっと街灯がほしい  
景観をよくしてほしい  
現状に満足  
公園等の子どもの遊べる場所の充実、地域の交流の場の充実  
公園など多くすると良いと思う  
公共交通機関の発展  
公共交通機関をもう少し整備して幅広くしてほしい

公共交通の充実

公共施設が古い汚い(特にトイレ)

公共施設を増やしてほしい

高校生が自習できる場所を増やしてほしい

高校生でも気がるにスポーツができる環境がほしい

高速の車の音がうるさいところ

交通(電車)がもうすこし便利になると良い

交通、医療機関の数

交通が不便(電車・埼玉県内の移動)

交通が便利になってほしい(電車など)、アルバイトの最低賃金をあげてほしい

交通機関がもう少し便利になってほしい

交通機関を便利にしてほしい

交通事故が多いこと

交通事故がなくなれば良いと思う

交通事故がもっと少なくなればよいと思う。車を運転する人たちそれぞれの意識を高めることが大切だと思うので、それができるような対策を考じるべきだと思う

交通整備をもっとしてほしい

交通に関する条例(危険運転ドライバーが多いので取り締まり強化)

交通の便

交通の便が良くない(宮寺→藤沢)、宮寺・藤沢方面に本屋がない、球技のできる公園がない

交通の便がよくなってほしい。若い力で活性化してほしい

交通の便が悪い

交通の便が悪い。バス路線を増やしてほしい。

交通便

交通を便利にしてほしい

交通を便利にしてほしい、バスの本数を増やして、高・大の授業料をちょっと負担して

公民館とかを勉強スペースとして開放してほしいです。図書館だけだと全然席が足りません。

高齢化対策をしっかりして未来ある市へ

コストコやアウトレットだけでなく「これは入間市」みたいな目玉みたいなのがほしい

小谷田周辺に、安全に遊べる公園が欲しい。小・中学校の校庭を休日自由に使わせて欲しい

小手指止まりが多いので、電車の本数を増やしてほしい(特に夜)

子供が遊ぶ公園が少ない。遊具がないから作ってほしい。

子供が遊べる所をふやしてほしい

子供たちが外で遊びたくなるような豊かな自然を活かした行事を増やしてほしい

子ども(小人)が楽しめる施設をもっと作ってほしい

子どもが安心して過ごせる街作り(子育て支援の充実)。子どもと保護者が交流できるようなイベント等の開催。駅前演説・ピラ配

りの廃止。こういった若者の意見をもっと聞くべきだと思う。

子どもの医療費で中学生までは治療費がかからないのを高校生まで引き上げて欲しい。図書館以外にも学生が勉強だったり学生以外も使える自習室や多目的室のような建物が豊岡以外にもあって欲しい

この辺りのバスの時間を考えて組んでほしいし、休日の昼間、アウトレット直通多すぎ帰れない。

このままでも十分住みやすい環境ですが、周りには思いっきりボールで遊べる場所が一つもなく、どこもボール遊び禁止のところばかりなので、ボールで遊べる大きな公園、運動場がほしい

このまま平和ならなんでもいいと思う

これ以上老人ホームをふやさないでほしい。このままのどかな入間市でいてほしい

コンビニの数が少なすぎる、それぞれの家から歩いていける範囲内に置くべき

坂が多い

坂をもっと少なくしてほしい

昨年、入間市の豊岡のコンビニ付近で、殺人事件があり、入間市の印象が世に悪い印象として広まってしまったと思います。地元である入間市には安心して暮らせる環境作りを徹底して欲しいと思いました。

サッカーコートがほしい、もっと知名度をあげて埼玉といったら入間市と言われるようになってほしい

サッカーゴールがある公園がほしい。スポーツショップがほしい

サッカー場を作る(狭山市や所沢市のように)

狭山市と合併してほしい(所沢市やさいたま市でも可)

狭山市の駅にあるような無料で勉強できる場所を作ってほしい

狭山市のように深夜バスがほしい。 外灯が少なく怖い。→暗いところが多い

狭山茶のさらなる振興

市駅が汚い。狭山市駅みたいになってほしい。市税高くせに

事故が絶対起こらないように信号機を増やしてほしい。市内にオールウェザーの陸上競技ができる施設を作って欲しい。小・中・高校生の陸上他スポーツの大会等で利用できる施設が必要だと思う

自然の多さを生かし、自然を使った施設や場所を設けるといいと思う。公園などを始め、自然がある地域でしかできないことをすると活気が出る気がする

自転車専用道路みたいなのを設置して、自転車での移動がもう少し便利になるといいと思います。

自転車専用の道路(道)を増やして欲しい

自転車の交通マナー

市内バスのバス停をもっと増やしてほしい

市のPRの仕方が下手／市の魅力の伝え方を工夫した方が良くと思う

市の施設の利用時間の延長

市のホームページがもっと分かりやすくなると嬉しい

芝生があつてのんびりできるカフェがあるとよい

自分では通っている大学が遠くて不便だけで、入間市だけ見たときに不満はなく、むしろ満足しています

自分の住んでいるところから駅までが遠いので、バスを増やしてほしいです

市民税をおさえてください

市民体育館のような体育館を増やせば、いろいろな大会を開催することができて地域活性化につながると思う  
市民の声に柔軟に答える。西武地区の入間川中橋までの北からの道は歩道が非常に狭く何度も行政に訴えても何も変わらない。大事故につながる危険な状態がそのままなのは不安です。

市民プールにすべり台をつけてほしい  
市民プールをもっと大きくしてほしい、大きいスライダーなど  
住宅がいぐらいから外灯をつけてほしい  
終電が早い  
小・中学校にクーラーをつけてほしい。

障がいがある人や妊婦さんがバスや電車に乗ってもすぐに席をゆずれるようになること。マナーを守れるよう。  
小学生～大学生までつながれる所がほしい、私立の中学・高校に行く地元の友達と疎遠になってしまう、それがいやだ  
小学生のことをゴミといった人が教育委員長をしている入間市に将来性などない！！  
小学生や中学生の頃はあまり学校に対してお金を出してくれなかったり、必要のないところに使っていると思ってました。冬の時期に、都内みたいに駅やさいの森公園をイルミネーションしたら人が増えると思います。

小学校・中学校の時に、クーラーが設置されていなかったのも、勉強の集中の妨げになっていたのを改善してほしいです  
商業施設をもっと増やした方がいいと思う  
小中学校の設備の向上、小中学生の学習(能力)の向上にもっと力をかけてほしい  
照明を増やす(街灯)、バリアフリーを充実させる(金子駅の歩道橋とか)、歩道を広くする道路整備、バスの本数を増やす  
ショッピングセンターが少ない  
ショッピングモールを作ってほしい。でも自然も残してほしい。

私立大学など(土地があるから)の学園都市をつくれれば若い世代が集まりじんこうも増えにぎやか又さかえてくると思います  
信号がなく、危ない道があるので、もしものことが起こる前に信号を設置してほしいです  
人口が増えより活発な市になってほしい  
信号機なしの横断歩道は危険だと思うので、被害が起きる前に信号機を設置して欲しいです  
信号の数を増やしてほしい、駅前周辺の店を増やしてほしい  
信号のついてないおうだん歩道にも信号をつけてほしい  
水族館や動物園のような、どんな世代でも楽しめるようなテーマパークが欲しい  
全ての中学校にクーラーを  
スポーツをもっと楽しめる環境にして欲しい  
税金を安く  
税金を安くしてほしい、プラネタリウムほしい  
西武池袋線が不便なのでさいたま市内などの方面に行きにくい。あとは、入間市民の民度が低いので、もう少し上品になってほしいです。

西武池袋線と八高線しか通ってないので、西武新宿線や湘南新宿線など都市に行きやすい交通が増えてほしい  
西武バスの本数を増やしてほしい(特に現在本数の少ないバス停の)。アウトレット直通のみでアウトレットへ行く人は行ってほしい。  
西武バスを増やしてほしい(時間)

総合運動公園といったスポーツ施設がほしい

総合病院ができたらうれしいです

早朝(5時から)や夜遅い(11時ぐらい)のバスが欲しいです。駅が離れているため、通勤が不便なので、早い時間のバスがあればなあと思います。家の近くに市営のバスがないのも不便です。

外を歩いているときとかに、すれちがうとき、あいさつができるような町になってほしい、その方がいごちがいいし、すみやすいと思う。

大学を作ってほしい

たくさんの人が働ける場をもっと増やして欲しい

他地域へのアクセス(公共交通機関の整備、所沢一大宮線)

建物だけでなく、木など緑をふやしてほしい

楽しいところ

他の市や県に負けないインパクトがほしい

食べ物屋さんがもっと欲しい

治安

治安が良くなってほしい

治安が悪い所がある。調べて直してほしい。電車の量を増やしてほしい。

治安の維持

地域ごとの差。私の住んでいる近辺に比べて、他の地域は閑散としている感がある。

地域によって楽しめる場所が限られてしまうので、何か楽しめる場所を提供してくれると良いです。

地域の差を無くしてほしい

地域のボランティア活動とか体験学習とか、子供の目がいき届いてほしい。進学フェアとか、開催してほしい。

茶畑がこれ以上減らずに、残ってほしい。また増やしてほしい。

ちゃんとした就職先が少ないところ

中高生の遊べる所が少ない

中学生・高校生が無料(有料)どっちでもいいから使えるところ

中学生ではなく、高校生まで医療費を無料にしてほしいです

通学のとき自転車で走りにくい所がある

つかなくなった電灯を早めにつけてほしい

ティーロードの本数が少ないと思うのもっと増やしてほしい

テーマパークを作って欲しい

テニスコートやボーリング場など体を動かせる場所をもっと欲しいです

電車で都心に出づらい、ショッピングモールやコンビニやスーパー等が車を使わないと遠い、道路がでこぼこしている

電車の本数がふえとうれしい

電車の本数がふえとうれしい

動物園が欲しいです

道路、歩道の舗装、バリアフリー

道路のひび割れなどでハンドルが取られてしまうことがあるので、整備をお願いしたいです。

道路が斜めになっている所が多く、歩きづらい所があるので工夫した方が良いと思いました。

道路整備

道路をひろくしてほしい

特産物をもっとふやす

特にありませんが、唯一万燈祭での交流の場をもっといいものにしていければと思います。沢山の市民の皆さん、わいわい楽しんでいる子供達を見るといい街だなと思える為です。入間市で唯一の大きなお祭りだと私は思っており、市外の友人も楽しみにしています。15年間育ってきた入間市がより良い街になりますよう、心から願っています。

特になし!!近所のネコ(のら)がまた増えそうです。私は犬をかっていて吠え声がうるさく、なにもいえないですが、ネコが敷地内ではしったり、トイレをするのでこまっています。

とくに藤沢交差点のじゅうたいをなくすために道路を改善してほしい。暗い住宅街にもっと明るい街灯をつけてほしい。帰るときこわい。

所沢を越えて欲しい

図書館、仏子周辺と入間藤沢の差があると思う。仏子周辺もきれいにしてほしい。橋、道路整備(狭い)、がいとう

図書館が駅から遠く、坂の上にあること

図書館が閉まる時間をもっと遅い時間にしてほしい。学校の後や仕事の後に利用したい人は多いと思う!!間に合わない。

図書館で一人で勉強するスペースをもう少し広くしてほしい

図書館などの利用時間の延長(短すぎると感じる人が多いため)

図書館の返却ポストを駅前に設置

図書館をもっと駅に近付けてほしい

図書館をもっと利用しやすく、きれいに、利便性を高めて

図書館の勉強だけのスペースの利用時間を長くしてほしい

土日のバスの最終(入間市駅一南峯)を平日と同じ時間にしてほしい

土日図書館を8時までつかえるようにしてほしい(西武分館)

夏祭りだけではなく、もっと地域の住民を取り巻くようなイベントがあると嬉しい

年々と知名度が上がっていて嬉しくは思うが、良いイメージとしてかどうかは怪しい為もっと良いイメージを発信してほしいのんびりできる場所が欲しい

場所によって交通の便がわるい。電車の路線がもっと増えてほしい。

バス、電車の本数が少なすぎる、車がないと超不便

はずかしいくらいに何も無い、映画しかないじゃーんっていわれる、プリめっちゃほしい!!

バスが通らない所に住んでいるので、雨でも駅まで20分歩かなくてはならなくて遠いので困る。バスがもっと通っているといい

バス停を増やしてほしい

バス停を増やしてほしい

バス停をもっとないところにおいてほしい

バス通りなどの道を広げて欲しい

バスの行き先の数が少ないから増えてほしい(武蔵藤沢)

バスの運行本数をもっと増やしてほしい(アウトレット行きだけでなくその先のバス停にもとまるようにしてほしい)

バスの交通の便を多くしてほしい

バスの整備

バスの線路?を増やしてほしい

バスの範囲を広くしてほしい

バスの本数、駐輪場を増やして欲しい。自転車用の道路が欲しい

バスの本数を増やしてほしい

バスの本数を増やしてほしい!

バスの本数を増やしてほしい、ローカルバス、ティーロード

バスの本数をもっとふやしてほしい、街灯をもっとふやしてほしい、あそぶ場所をもっとあってほしいと思う

バスの量が少ない。遊ぶ場所が少ない。

バスを近くに欲しい

バスを増やしてほしい、電車も

八高線の本数をもっと増やしてほしい。金子側をもう少し住みやすくしてほしい。

バリアフリー、ポイ捨てや若い人のケンカがうるさい

病院がまだまだだと思うので、大きい総合病院をつかって下さい

病院を増やす

肥料の臭いの改善、小・中学校のクーラーの設置

福祉の充実、市民一人ひとりの支援基盤をしっかり構築すべき(ニーズ把握も含む)

藤沢の坂の下にレンタルショップがほしい

ふしんしゃが多いのでいなくなってほしい

フリーの Wi-Fi

ブリクラなど撮れる場所。お茶が有名なのだから、外からの人が体験したり、お茶のことを詳しく知れるテーマパークのようなものを作って、何も無い入間市と思われぬようにしてほしい。

勉強スペースを充実させてほしい

勉強もできるような食事する所が欲しい

ポイ捨て、喫煙者

防災入間やよい子チャイムのときの放送の音が隣同士のスピーカーが近いのかわからないけど聴こえづらいです

ボーっとできる、のんびりできる静かな場所を作ってほしい

ボール遊びや花火など子供達が遊べる制限がない公園がほしい

ボールが使える公園、遊ぶ場所を増やしてほしいです。

ボールを使って遊べるグラウンドを作ってほしい

他の市からも訪れるようなショッピングモールなどをつかって欲しい

歩道・自転車道の整備

歩道が広がってほしい。カフェがほしい。夜、道がもっと明るくなってほしい。入間市駅の駐輪場がもっともっと広がってほしい。

歩道の整備、バリアフリー化の推進、入間市駅南口の開発、街灯の増加(青色 LED)

歩道を広くしてほしい

本屋がほしい

本屋がもっとあればいい、古本屋でもいい

本屋さんを武蔵藤沢駅近辺に作って欲しい

本やCDなど発売されてから2ヶ月くらい経ってやっと店舗に置かれたり、取り寄せしないとなかったりなど、不便があるので便利になってほしい

前に殺人事件が起こったこともあり暗い道は不安。なので、細い道など、街灯がなくとも暗い道に街灯を多くつくってほしいです。街灯がつきっぱなしでは近所の人に迷惑ということであれば、私のよく通る道には、人や車が近づくと電気がつくような街灯もあるため、そういったものの活用などしてほしいです

マンションなどの建物が建ちすぎて自然が減っている

万灯祭のクオリティー向上。毎年行っていて満足だけど、もっと変化が欲しい

店が少ないからもっと増やせ(デパート・専門店)

店をふやしてほしい

道が狭いから広くしてほしい

三井アウトレットパークやコストコなどをもっとPRして、人を呼び込んでほしいです

緑がほしい

緑を増やしてほしい。上藤沢地区にバスを通してほしい(バスが少なく困っている)

宮寺にスーパーなどがあると便利

魅力があり、治安の良い市にしてほしいです

昔からあった大きな桜の木を新しいものを建てるからといって切りたおさないでほしい。

武蔵藤沢駅から入間市駅に向かう西武バスはいつも10分前後遅れているから精度を上げてほしい。入間市から武蔵藤沢のバスの本数も増やしてほしい

武蔵藤沢駅からのバス路線を増やしてほしい。駅～アウトレット入間、駅～入曽駅など

武蔵藤沢駅での送迎の一般車が列を作って待っているため渋滞の原因になり、バスなどの迷惑になっている。ロータリーの作りが悪い(タクシープールが大きすぎる、渋滞中もバスの通過できる道幅にする)、武蔵藤沢駅からのバスルートが少ない。駅に店が少ない(飲食店など)

無料で利用できるコワーキングスペースを作してほしい

もう20歳なので給食はないのですが、給食をもっと豪華にしてほしいです。他の市でアイスやケーキなどがあるとわかれてとても驚きました。

もう少し自然を増やしてマンションを減らしてほしい

もう少しにぎやかな場所にしてほしい。ファミレスなどを増やしてほしい

もっと遊べる場所を増やしてほしい。家の前の道路がじゃり道で普通に歩いてもこけそうになるので早く変えてほしい

もっと活気がほしい。色々な人がおとずれるような場所があってほしい

もっと公共で利用できる場所が増えてほしい。動物園などを作ってほしいです

もっとコンビニなどを増やしてほしい

もっと地域のイベントを行ったり、全国の人にアピールできるような商品を作って入間市をもっと活発にしたい。地域の人々の結

びつきを強くして安心安全に暮らせる街にしたい

もっと都会的になってほしい

もっと人がたくさんいる東京の歩行者天国的な場所ができてほしい、市内の色々な場所でも有志によるパフォーマンスなどがあっても楽しくて評価は上がると思う。

もっと有名になってほしい

夜間・休日・祝日の小児科受診の充実。夜間・休日対応で小学校高学年以上は小児あつかいせず内科でみてほしい。どうしても無理なら中学生以上。

遊園地がほしい

雪が降った後など除雪されるのが遅い

良いお店がない。自まんする所がない。若い人向けのお店がほしい(39 マート・スピズ)

夜道があるしていると街灯が暗くて、あまり前が見えないので増やしてもう少し明るくしてほしい。ファミレスとかもう少し増やしてほしい。緑も増えた方がいいと思う。少しずつがんばって下さい。

夜暗いので街灯をつけてほしい(ソーラーパネル式)、大通りだけでなく南峯の周辺にも

ららぽーとなどの大型ショッピングモールが欲しい

陸上競技場をつくってほしい

緑地化してほしい

若い世代が楽しめるような場所(公園、喫茶店、ファーストフード店、居酒屋など)がもっと増えると良いと思います。あと交通の便を改善していただきたいです(電車・バスの便数等)

以上

## 付録 調査票

「入間市の青少年が描く未来と地球社会アンケート」





# 「入間市の青少年が描く未来と地域社会アンケート」



入間市観光大使  
いるティー



ちやむ  
茶 夢

## 調査ご協力をお願い

2016年7月

### ごあいさつ

入間市は、若い皆さんの日頃の生活や将来の希望、結婚・子育てに関するご意見をうかがって市の政策に反映したいと考えています。そのため、若者を対象とした調査を東京家政大学と共同で行なうことにしました。

この調査への協力をお願いする方は、市内にお住まいの15歳～20歳の方の中から2,000人を無作為に選びました。お忙しいこととは思いますが、ぜひともご協力いただきたくお願い申し上げます。

入間市・東京家政大学地域連携推進センター

この調査票は、この挨拶文（1ページ目）を除いて6つのグループからできています。

- I 自分と家族のこと
- II 今の生活と好きなこと
- III 子どものころのこと
- IV 自立や悩み、相談相手のこと
- V 将来のこと
- VI 入間市について

### 〔回答にあたってのお願い〕

- ・この調査票では、調査対象者を「あなた」としています。友だちやご家族の方と相談したりせず、あなたの考えで正直に答えてください。
- ・1つの質問に対して、指示に従って選択肢を選んでください。あるいは該当する数字を右側にある□に記入してください。どうしても答えられない場合には空欄のまま結構です。
- ・調査用紙には、あなたの名前を書く必要はありません。この調査から得られた結果は統計（数字）で表しますので、回答者が誰であるかがわかることはありません。
- ・調査結果は、入間市の政策や東京家政大学の研究のみに使います。データの一部を学会発表や論文執筆に使わせていただくこともありますので、どうぞご了承ください。
- ・この調査に関してわからない点がありましたら、下記までお問い合わせください。

※回答済みのアンケートは、同封した封筒に入れて8月10日（水）までに投函してください。

入間市と東京家政大学との子育て支援に関わる調査研究委員会

入間市こども支援課 子育て支援担当 東京家政大学地域連携推進センター

電話：04-2964-1111(内線2354・2355)

電話：04-2955-6959

I あなたご自身やご家族についてうかがいます。

問1 あなたはおいくつですか。□に2016年6月1日時点の年齢を記入してください。

問1

歳
---

問2 性別について□に番号を記入してください。

1. 男性      2. 女性

問2

--

問3 仕事をしている方は表1の①【職業分類】と②【業種分類】の選択肢からそれぞれ1つずつ、  
学生の方は表2の選択肢から1つ選んで□に記入してください。

表1 (仕事をしている方)

①【職業分類】	②【業種分類】
1. 会社員	A 農林水産・鉱業
2. 自営業	B 建設業
3. 専門職	C 製造業
4. 公務員	D 卸・小売業・飲食店
5. 専業主婦・主夫	E 金融・保険業
6. パート・アルバイト	F 不動産業
7. 無職	G 運輸・通信業
8. その他	H サービス業
	I その他

表2 (学生の方)

9. 中学3年
10. 高校1年
11. 高校2年
12. 高校3年
13. 短大・専門学校1年
14. 短大・専門学校2年
15. 大学1年
16. 大学2年
17. 大学3年
18. その他

問3

(仕事をしている方)

①職業分類	②業種分類

問3

(学生の方)

--

問4 ご家族についてうかがいます。

問4-1 あなたは何人家族ですか。ご自分を含めて同居している家族の人数を数字で記入してください。

問4-1

人
---

問4-2 祖父母と同居していますか。

1. はい      2. いいえ

問4-2

--

問4-3 ご自分を含めたきょうだいは何人ですか。きょうだいの人数を数字で記入してください。  
(仕事や学校のために現在一緒に暮らしていない人も含めます。)

問4-3

人
---

問5 あなたの住んでいる地区を選択肢の中から選んでください。

1. 豊岡      2. 東金子      3. 金子      4. 宮寺・二本木      5. 藤沢      6. 西武

問5

--



Ⅱ あなたの生活や、好きなことについて教えてください。

問6 以下の(1)～(12)を読み、自分にあてはまるものを選んで、番号を口に入れてください。

	あてはまる	ややあてはまる	ない	どちらともいえない	らない	あまりあてはまる	あてはまらない
(1) 目標を持っている	1	—	2	—	3	—	4 — 5
(2) 毎日の生活が楽しい	1	—	2	—	3	—	4 — 5
(3) 自分にはいろいろな素質がある	1	—	2	—	3	—	4 — 5
(4) 友達と何でも話し合える	1	—	2	—	3	—	4 — 5
(5) 自分の好きなことができている	1	—	2	—	3	—	4 — 5
(6) 夢に向かって努力している	1	—	2	—	3	—	4 — 5
(7) 今の自分にだいたい満足している	1	—	2	—	3	—	4 — 5
(8) 友達を傷つけないように気を使う	1	—	2	—	3	—	4 — 5
(9) 何かをする時には人並み程度にはできる	1	—	2	—	3	—	4 — 5
(10) 充実していると感じる	1	—	2	—	3	—	4 — 5
(11) 友達に冗談を言って笑わせたい	1	—	2	—	3	—	4 — 5
(12) やりたいことが見つからない	1	—	2	—	3	—	4 — 5

問6


問7 次の中で、あなたが今、特に関心を持っているものを3つまで選んでください。

- |                                |                          |                          |
|--------------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 1. ショッピング                      | 2. スポーツ・運動・アウトドア         | 3. 音楽・映像 (映画・テレビ・DVD など) |
| 4. サークル活動・部活動                  | 5. ファッション・おしゃれ           | 6. 友人との関係                |
| 7. 家族との関係                      |                          |                          |
| 8. 読書 (マンガを除く)                 | 9. サブカルチャー (マンガ、アニメ、ゲーム) |                          |
| 10. ネット上の交流 (Eメール、LINE、その他SNS) | 11. 芸術 (絵画など)            | 12. 恋愛・結婚                |
| 13. 学校の勉強                      | 14. 仕事 (アルバイトを含む)        | 15. 資格取得・受験              |
| 16. 自分の将来                      |                          |                          |
| 17. 貯蓄                         | 18. 政治・経済                | 19. その他                  |

問7


問8 趣味や好きなことに、1日にどれくらい時間をかけていますか。

問8

時間

問9 あなたが好きな場所についてうかがいます。

問9-1 あなたが一番好きな場所や落ち着く場所はどこですか。あてはまる番号を1つ選んでください。

- |                     |                           |                  |
|---------------------|---------------------------|------------------|
| 1. 自分の部屋（自分だけの個室）   | 2. 自分の部屋（きょうだいなどと同室）      |                  |
| 3. リビングなど家族全員が集まる部屋 | 4. 友だちの家                  | 5. 学校の教室         |
| 6. 学校の図書室など教室以外の場所  | 7. 部活動の場所・部室              | 8. 職場の自分の席など     |
| 9. 公園などの静かな戸外       | 10. カフェ、ファミレス、ファーストフード店など |                  |
| 11. ゲームセンター、映画館     | 12. ネットカフェ、マンガ喫茶          | 13. 公共の図書館・博物館など |
| 14. 自宅の風呂・トイレ       | 15. その他                   |                  |

問9-1

問9-2 その理由は何ですか。あてはまるものを全て選んでください。

- |                 |                     |              |
|-----------------|---------------------|--------------|
| 1. ひとりになれるから    | 2. 親しい人（友達）がそばにいるから | 3. 静かだから     |
| 4. 雰囲気がいいから     | 5. 好きなことができるから      | 6. のんびりできるから |
| 7. 嫌なことが忘れられるから | 8. 集中できるから          | 9. にぎやかだから   |
| 10. 気分が盛り上がるから  | 11. その他             |              |

問9-2

### Ⅲ 子どものころ（小学生のとき）を思い出して答えてください。

問10 子どものころは楽しかったと思いますか。あてはまる番号を1つ選んでください。

問10

- |                   |                 |              |
|-------------------|-----------------|--------------|
| 1. とても楽しかった       | 2. どちらかという楽しかった | 3. どちらともいえない |
| 4. どちらかという楽しくなかった | 5. 全く楽しくなかった    |              |

問11 誰とよく遊びましたか。あてはまる番号を1つ選んでください。

問11

- |               |                |            |            |      |      |       |       |
|---------------|----------------|------------|------------|------|------|-------|-------|
| 1. 父          | 2. 母           | 3. 兄       | 4. 姉       | 5. 弟 | 6. 妹 | 7. 祖父 | 8. 祖母 |
| 9. 同年齢の同性の友だち | 10. 同年齢の異性の友だち | 11. 年上の子ども | 12. 年下の子ども |      |      |       |       |
| 13. いとこ       | 14. その他        |            |            |      |      |       |       |

問12 自分より年下の子どもと遊びましたか。あてはまる番号を1つ選んでください。

問12

- |               |           |              |              |
|---------------|-----------|--------------|--------------|
| 1. よく遊んだ      | 2. たまに遊んだ | 3. どちらともいえない | 4. あまり遊ばなかった |
| 5. 全く遊んだことはない |           |              |              |



問13 よくしていた手伝いは何でしたか。あてはまる番号を1つ選んでください。

- |          |        |              |               |
|----------|--------|--------------|---------------|
| 1. 洗濯    | 2. そうじ | 3. 食器洗い      | 4. 食事の支度・かたづけ |
| 5. 料理をする | 6. 買い物 | 7. 小さい子どもの世話 | 8. 全くしなかった    |

問13

問14 その手伝いはどの程度していましたか。あてはまる番号を1つ選んでください。

- |         |        |         |         |
|---------|--------|---------|---------|
| 1. 毎日   | 2. 週3日 | 3. 休日のみ | 4. 月に数回 |
| 5. 年に数回 | 6. その他 |         |         |

問14

問15 動物の世話や植物の世話をすすんで行っていましたか。あてはまる番号を1つ選んでください。

- |              |               |              |
|--------------|---------------|--------------|
| 1. すすんでやっていた | 2. 比較的よくやっていた | 3. どちらともいえない |
| 4. あまりやらなかった | 5. ほとんどしなかった  |              |

問15

問16 以下の質問について、もっともあなたの気持ちに近いものをそれぞれ1つ選び、番号を口記入してください。

	とても そうだ	そうだ	どちら でもない	そう でない	全く そう でない					
(1) 赤ちゃんや子どもが泣いていると何とかしてあげたいと思う	1	—	2	—	3	—	4	—	5	
(2) 小さい子どもに頼られるとうれしい	1	—	2	—	3	—	4	—	5	
(3) 子どもは面白い存在だと思う	1	—	2	—	3	—	4	—	5	
(4) 赤ちゃんや子どもの世話には自信がある	1	—	2	—	3	—	4	—	5	
(5) 子どもの楽しい遊び相手になれそうだと思う	1	—	2	—	3	—	4	—	5	
(6) 子どもの気持ちや言いたいことがわかると思う	1	—	2	—	3	—	4	—	5	
(7) できれば自分は親となって子育てをしたいと思う	1	—	2	—	3	—	4	—	5	
(8) 将来、うまく子育てできるか心配である	1	—	2	—	3	—	4	—	5	
(9) 将来、子どもに慕われる親になれると思う	1	—	2	—	3	—	4	—	5	
(10) 子育てが大変でも乗り越えられると思う	1	—	2	—	3	—	4	—	5	
(11) 病気の人や障害のある人、高齢の人などの役に立ちたいと思う	1	—	2	—	3	—	4	—	5	

問16

IV 「自立」や悩み、相談相手についてうかがいます。

問 17 「自立」についてうかがいます。

問 17-1 あなたは、自分のことを「自立している」と思いますか。あてはまる番号を1つ選んでください。

1. そう思う    2. どちらかというと思う    3. どちらかというと思わない    4. そう思わない

問 17-1

問 17-2 あなたは、「自立している」とは、どのようなことだと思いますか。あてはまる場合には1を、あてはまらない場合には2を、□に書いてください。

問 17-2

- (1) 食事やトイレ、着替えなど身のまわりのことが自分ひとりでできる
- (2) 働くなどして生活するためのお金がある
- (3) 生活するためのお金の管理をすることができる
- (4) 何らかの仕事をして、その仕事を自分の力で行なうことができる
- (5) そうじ、洗濯、炊事などの家事が自分ができる
- (6) 約束やルールを守ったり、常識を身につけている
- (7) いやなことがあったり、うまくいかないときに我慢ができる
- (8) 初めてのことや難しそうなことにも、前向きにチャレンジできる
- (9) 自分のことが好きだと思える
- (10) 自分の生活に関することを自分自身で決める




問 18 現在のあなたの悩みや心配ごとについてうかがいます。あなたは、以下のそれぞれについて、どれくらい心配ですか。 あてはまるものをそれぞれ1つ選んでください。

	心配していない		心配していない どちらかというと		心配している どちらかというと		心配している	問18
(1) 勉強のこと ※在学中の人が回答	1	—	2	—	3	—	4	<input type="text"/>
(2) 進学のこと ※在学中の人が回答	1	—	2	—	3	—	4	<input type="text"/>
(3) 就職のこと ※在学中の人が回答	1	—	2	—	3	—	4	<input type="text"/>
(4) 仕事のこと ※働いている人が回答	1	—	2	—	3	—	4	<input type="text"/>
(5) 家族のこと	1	—	2	—	3	—	4	<input type="text"/>
(6) 友人や仲間のこと	1	—	2	—	3	—	4	<input type="text"/>
(7) 異性との交際のこと	1	—	2	—	3	—	4	<input type="text"/>
(8) お金のこと	1	—	2	—	3	—	4	<input type="text"/>
(9) 政治や社会のこと	1	—	2	—	3	—	4	<input type="text"/>
(10) 性格のこと	1	—	2	—	3	—	4	<input type="text"/>
(11) 健康のこと	1	—	2	—	3	—	4	<input type="text"/>
(12) 容姿のこと	1	—	2	—	3	—	4	<input type="text"/>
(13) 体力のこと	1	—	2	—	3	—	4	<input type="text"/>
(14) 自分の将来のこと	1	—	2	—	3	—	4	<input type="text"/>



問 19 あなたは、悩みや心配ごとがあった場合、だれに相談したいと思いますか。この中からあてはまるものを、いくつでも選んで口の中に番号を記入してください。

- |                 |                 |                 |                 |          |
|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|----------|
| 1. 父            | 2. 母            | 3. きょうだい        | 4. 祖父母・親せき      | 5. 夫または妻 |
| 6. 先生           | 7. 友だち          | 8. 職場の同僚        | 9. 団体・グループなどの仲間 |          |
| 10. 学校の先輩       | 11. 職場の上役や先輩    | 12. 恋人          | 13. カウンセラー、相談員  |          |
| 14. 同じ宗教の人      | 15. テレビ番組・ラジオ番組 | 16. インターネットのサイト |                 |          |
| 17. 雑誌などの相談コーナー | 18. 市役所の相談窓口    | 19. だれにも相談しない   |                 |          |
| 20. わからない       |                 |                 |                 |          |

問 19

問 20 あなたは、おうち（家庭）のことに満足していますか、それとも不満ですか。あてはまるものを1つ選んでください。

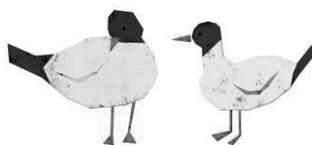
- |       |               |               |       |          |
|-------|---------------|---------------|-------|----------|
| 1. 満足 | 2. どちらかといえば満足 | 3. どちらかといえば不満 | 4. 不満 | 5. わからない |
|-------|---------------|---------------|-------|----------|

問 20

問 21 あなたは、家庭で生活をするうえで、何に満足していますか。この中からあてはまるものをいくつでも選んで口の中に番号を記入してください。

- |                            |                  |                   |  |  |
|----------------------------|------------------|-------------------|--|--|
| 1. 家の収入                    | 2. 親の職業          | 3. 家庭内で争い事がないこと   |  |  |
| 4. 親の愛情                    | 5. 親が自分を理解していること | 6. 家族が健康であること     |  |  |
| 7. きょうだいと仲が良いこと            | 8. 近所の環境がよいこと    | 9. 家が広いこと         |  |  |
| 10. 家族のだんらんや会話             | 11. 家事・育児の分担     | 12. 家族が自分に干渉しないこと |  |  |
| 13. 近所や友人など家族ぐるみのつきあいが多いこと | 14. 満足していることはない  |                   |  |  |
| 15. わからない                  |                  |                   |  |  |

問 21



V 将来のことについて教えてください。

問22 あなたの将来についてうかがいます。

問22-1 あなたは、自分の将来について明るい希望をもっていますか。あてはまる番号を1つ選んでください。

問22-1

- |                     |                     |
|---------------------|---------------------|
| 1. 明るい希望がある         | 2. どちらかといえば明るい希望がある |
| 3. どちらかといえば明るい希望がない | 4. 明るい希望がない         |

問22-2 あなたの将来イメージについてうかがいます。

あなたが40歳くらいになったとき、どのようになっていると思いますか。あてはまるものをそれぞれ1つ選んでください。

問22-2

	1	2	3	4	5				
(1) お金持ちになっている	1	—	2	—	3	—	4	—	5
(2) 自由にのんびり暮らしている	1	—	2	—	3	—	4	—	5
(3) 世界で活躍している	1	—	2	—	3	—	4	—	5
(4) 多くの人の役に立っている	1	—	2	—	3	—	4	—	5
(5) 有名になっている	1	—	2	—	3	—	4	—	5
(6) 子どもを育てている	1	—	2	—	3	—	4	—	5
(7) 親を大切にしている	1	—	2	—	3	—	4	—	5
(8) 幸せになっている	1	—	2	—	3	—	4	—	5
(9) 結婚している	1	—	2	—	3	—	4	—	5
(10) 出世している	1	—	2	—	3	—	4	—	5


問23 職業についてうかがいます。

問23-1 あなたは、将来つきたい職業はありますか。あてはまる番号を1つ選んでください。

1. ある	2. ない	3. わからない
-------	-------	----------

問23-1

問23-2 問23-1で「ある」と回答した方にうかがいます。

それは、どのような職業ですか。下の口を書いてください。

問23-2

問23-3 仕事を選ぶ際に、どのようなことを重視しますか。この中からあてはまるものをいくつでも選んで口の中に番号を記入してください。

1. 収入	2. 労働時間	3. 会社等の場所	4. 仕事内容
5. 職場の雰囲気	6. 社会や人の役に立つ	7. 安定性	8. 将来性
9. 専門的な知識や技能を活かせること	10. 能力を高める機会があること		
11. 自分の好きなことや趣味を活かせること	12. その他	13. わからない	

問23-3

問24 結婚についてうかがいます。

問24-1 あなたは将来結婚したいと思いますか。あてはまる番号を1つ選んでください。

1. はい	2. いいえ	3. わからない
-------	--------	----------

問24-1

※「はい」と答えた方 ➡ 問24-2へ

※「いいえ」と答えた方 ➡ 問24-5へ

※「わからない」と答えた方 ➡ 問25へ



【「はい」と答えた方】

問24-2 問24-1で「はい」と答えた方にかがいます。その理由について2つまで選んでください。

- |               |                |                  |
|---------------|----------------|------------------|
| 1. 子どもや家族をもてる | 2. 安らぎの場が得られる  | 3. 親や周囲の期待に応えられる |
| 4. 愛する人と暮らせる  | 5. 一人前として認められる | 6. 親から独立できる      |
| 7. 経済的余裕がもてる  | 8. 生活上便利になる    | 9. その他           |

問24-2


問24-3 問24-1で「はい」と答えた方にかがいます。何歳ぐらいで結婚したいと思いますか。あてはまる番号を1つ選んでください。

- |          |              |           |           |           |
|----------|--------------|-----------|-----------|-----------|
| 1. 20歳以下 | 2. 21～25歳    | 3. 26～30歳 | 4. 31～35歳 | 5. 36～40歳 |
| 6. 41歳以上 | 7. すでに結婚している | 8. わからない  |           |           |

問24-3

--

問24-4 問24-1で「はい」と答えた方にかがいます。

あなたは、結婚相手を決めるとき、次の(1)～(8)の項目について、どの程度重視しますか。それぞれあてはまる番号を1つ選んでください。

- |             | 重視する<br>(大事) | 考慮する<br>(やや大事) | あまり関係ない |       |
|-------------|--------------|----------------|---------|-------|
| (1) 人柄 (性格) | 1 _____      | 2 _____        | 3 _____ | 問24-4 |
| (2) 経済力     | 1 _____      | 2 _____        | 3 _____ |       |
| (3) 職業      | 1 _____      | 2 _____        | 3 _____ |       |
| (4) 容姿 (外見) | 1 _____      | 2 _____        | 3 _____ |       |
| (5) 学歴      | 1 _____      | 2 _____        | 3 _____ |       |
| (6) 家事能力    | 1 _____      | 2 _____        | 3 _____ |       |
| (7) 仕事への理解  | 1 _____      | 2 _____        | 3 _____ |       |
| (8) 共通の趣味   | 1 _____      | 2 _____        | 3 _____ |       |


【「いいえ」と答えた方】

問24-5 問24-1で「いいえ」と答えた方にうかがいます。結婚したくない理由（独身のほうがよい理由）について2つまで選んでください。

- |                    |                  |
|--------------------|------------------|
| 1. 行動や生き方が自由にできる   | 2. お金を自由に使える     |
| 3. 家族を養う責任がなく気楽である | 4. 友人関係を大切にしたいから |
| 5. 自由に交際ができる       | 6. 住む所を自由にできる    |
| 7. 現在の家族と暮らしていたい   | 8. 仕事を続けていきたいから  |

問24-5


問25 子どもについてうかがいます。

問25-1 あなたは、将来子どもを持ちたいと思いますか。あてはまる番号を1つ選んでください。

問25-1

- |       |        |          |
|-------|--------|----------|
| 1. はい | 2. いいえ | 3. わからない |
|-------|--------|----------|

--

※「はい」と答えた方 ➡ 問25-2へ

※「いいえ」「わからない」と答えた方 ➡ 問26へ

問25-2 問25-1で「はい」と答えた方にうかがいます。子どもを持ちたいと思う理由は何ですか。あてはまるものをいくつでも選んで口に番号を記入してください。

- |                      |                       |                 |           |
|----------------------|-----------------------|-----------------|-----------|
| 1. 家計を助けてくれる         | 2. 家を継いでくれる           | 3. 老後の面倒をみってくれる |           |
| 4. 夫婦の絆（きずな）を強くしてくれる | 5. 家庭に明るさや活気を与えてくれる   |                 |           |
| 6. 喜びや生きがいを与えてくれる    | 7. 子どもの成長とともに自分も成長できる |                 |           |
| 8. 子どもが好きだから         | 9. 一人前・大人になれるから       | 10. その他         | 11. わからない |

問25-2

--

問25-3 問25-1で「はい」と答えた方にうかがいます。子どもは何人ぐらいほしいと思いますか。口に人数を記入してください。

問25-3

人



VI 入間市についてうかがいます。

問26

問26 入間市に何年住んでいますか。数字を口を書いてください。

年
---

問27 入間市は好きですか。あてはまる番号を1つ選んでください。

問27

- |               |               |              |
|---------------|---------------|--------------|
| 1. 好き         | 2. どちらかといえば好き | 3. どちらともいえない |
| 4. どちらかといえば嫌い | 5. 嫌い         |              |

--

問28-1 入間市は住みやすいですか。あてはまる番号を1つ選んでください。

問28-1

- |                  |                  |        |
|------------------|------------------|--------|
| 1. 住みやすい         | 2. どちらかといえば住みやすい | 3. ふつう |
| 4. どちらかといえば住みにくい | 5. 住みにくい         |        |

--

※「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」と答えた方 ➡ 問28-2 へ

※「住みにくい」「どちらかといえば住みにくい」と答えた方 ➡ 問28-3 へ

※「ふつう」と答えた方 ➡ 問29-1 へ

問28-2 「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」と答えた方にかがいます。その理由は何ですか。あてはまる番号を1つ選んでください。

- |                 |                      |                            |
|-----------------|----------------------|----------------------------|
| 1. 自然が多いから      | 2. 人々が親切だから          | 3. 公共交通機関（電車・バス）が整備されているから |
| 4. 道路が整備されているから | 5. 静かでのんびりしているから     | 6. 物価や地価が安いから              |
| 7. 教育環境が良いから    | 8. 病院や福祉施設などが整っているから |                            |
| 9. 買い物などが便利だから  | 10. なんとなく            | 11. その他                    |

問28-2

--

問28-3 「住みにくい」「どちらかといえば住みにくい」と答えた方にかがいます。その理由は何ですか。あてはまる番号を1つ選んでください。

- |                           |                 |                       |
|---------------------------|-----------------|-----------------------|
| 1. 自然が少ないから               | 2. 人々との交流が少ないから |                       |
| 3. 公共交通機関（電車・バス）が整備されていない | 4. 道路が整備されていない  | 5. いなかだから             |
| 6. 物価や地価が高いから             | 7. 教育環境が不十分だから  | 8. 病院や福祉施設などが整っていないから |
| 9. 買い物などが不便だから            | 10. なんとなく       | 11. その他               |

問28-3

--

問29-1 入間市にこれからも住みつづけたいですか。あてはまる番号を1つ選んでください。

問29-1

1. はい      2. いいえ      3. わからない

※「はい」と答えた方 ➡ 問29-2へ

※「いいえ」と答えた方 ➡ 問29-3へ

※「わからない」と答えた方 ➡ 問30へ

問29-2 「はい」と答えた方にうかがいます。その理由は何ですか。あてはまる番号を1つ選んでください。

問29-2

1. 愛着があるから      2. 住みやすいから      3. 家族がいるから  
4. 友人が多いから      5. 恋人がいるから      6. 市内でやりたい仕事や会社があるから  
7. 市内に行きたい学校があるから      8. その他

問29-3 「いいえ」と答えた方にうかがいます。その理由は何ですか。あてはまる番号を1つ選んでください。

1. 市外の大学・学校へ進学したいから      2. 市外の企業に就職したいから      3. 不便だから  
4. 都内に住んでみたいから      5. 他の地方に住んでみたいから      6. 海外に住みたいから  
7. その他

問29-3

問30 以下のうち、入間市にほしいと思うものは何ですか。あてはまる番号を3つまで選んでください。

1. 公園、庭園、緑地      2. 図書館      3. 美術館、博物館      4. 動物園、水族館、植物館  
5. 運動場、体育館、スポーツセンター      6. 映画館、劇場、コンサートホール  
7. 大型ショッピングモール、ショッピングセンター      8. コンビニ、スーパー  
9. カフェ、ファミレス、ファーストフード店      10. ゲームセンター  
11. ネットカフェ、マンガ喫茶      12. 中学生や高校生が無料で使えるところ  
13. 特にない      14. その他

問30

問31 入間市について、もっと良くなってほしいところは何ですか。下の口に具体的に書いてください。

問31

問 32 あなたと地域（入間市）とのつながりについてうかがいます。以下の質問についてあなたの考えをそれぞれ1つ選んでください。

	とても そう だ	そう だ	ど ち ら ど も な い	そ う な い	全 く そ う な い				
(1) ご近所の人とあいさつや話をよくする	1	—	2	—	3	—	4	—	5
(2) 地域の行事や活動によく参加している	1	—	2	—	3	—	4	—	5
(3) 地域に公園やたまり場など憩いの場がある	1	—	2	—	3	—	4	—	5
(4) いざというときに頼れる地域の人がある	1	—	2	—	3	—	4	—	5
(5) その地域に愛着がある	1	—	2	—	3	—	4	—	5
(6) ご近所の方によくお世話になっている	1	—	2	—	3	—	4	—	5
(7) 地域・ご近所との関係は良好である	1	—	2	—	3	—	4	—	5

問 32


問 33 まちづくりのための青少年が集まる会議を開くとしたら、あなたは参加する気持ちがありますか。あてはまる番号を1つ選んでください。

1. 参加したい
2. 参加してもよい
3. どちらともいえない
4. あまり参加する気はない
5. まったく参加する気はない

問 33

--

質問は以上です。長時間にわたるご回答をありがとうございました。ご協力に心から感謝申し上げます。





---

---

2017年3月31日 発行

発行者 東京家政大学 地域連携推進センター  
〒350-1398 埼玉県狭山市稲荷山2丁目15番地1  
TEL 04-2955-6959 FAX 04-2955-6929  
E-mail: [chiiki@tokyo-kasei.ac.jp](mailto:chiiki@tokyo-kasei.ac.jp)  
URL: <http://www.tokyo-kasei.ac.jp/society/tabid/85/index.php>

印刷 明治堂印刷株式会社  
〒350-0008 埼玉県入間市河原町5-13  
TEL 04-2964-2944

---

---





CommuLiC  
Community Liaison Center